

南スーダン国
ジェンダー・子ども・社会保障省

南スーダン国
ジェンダー情報収集・確認調査
最終報告書

平成 29 年 10 月
(2017 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社 JIN

南ス事
JR
17-001

目次

要約	1
1. 本業務の概要	7
1.1 業務の背景	7
1.2 業務の目的	8
1.3 ワークショップの概要	8
1.3.1 第1回ワークショップ	8
1.3.2 第2回ワークショップ	11
1.3.3 第3回ワークショップ	14
2. 経済・農業分野におけるジェンダー主流化の現状と課題	17
2.1 南スーダンのジェンダー課題	17
2.1.1 ジェンダー平等	17
2.1.2 ジェンダー役割	17
2.1.3 性及びジェンダーに基づく暴力	18
2.1.4 ジェンダーと食料安全保障	19
2.1.5 女性の経済的エンパワメント	19
2.2 南スーダンのジェンダー主流化政策	20
2.2.1 経済・農業関連省庁におけるジェンダーに配慮した政策と戦略	21
2.2.2 ジェンダー予算	25
2.3 ジェンダー及び社会的弱者に配慮した経済・農業分野のプログラム・事業実施の優良事例 と教訓	26
2.4 経済・農業分野のジェンダー主流化に向けた中央・州政府の能力強化と連携強化	29
3. 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状と課題	31
3.1 東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状と課題	31
3.1.1 経済参加・資源へのアクセスとコントロール・経済的自立	31
3.1.2 女性の起業家支援	34
3.1.3 政府の支援及び NGO・市民組織の現状	34
3.2 東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントの優良事例と教訓	36
4. 経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る 協力枠組みの提案	42
4.1 ワークショップの結論	42
4.2 ジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る協力枠組み	44
4.2.1 優先課題1：中央・地方政府と NGO・市民組織によるジェンダー主流化	48
4.2.2 優先課題2：ジェンダーと食料安全保障	50
4.2.3 優先課題3：女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント	51
4.2.4 主な関連省庁への協力の可能性	52

表一覧

表1：第1回ワークショップ概要.....	8
表2：第2回ワークショップ概要.....	11
表3：第3回ワークショップ概要.....	15
表4：ジェンダー平等に関する主な指標.....	17
表5：家庭内及びコミュニティにおけるジェンダー役割.....	18
表6：男女別の生産資源へのアクセス・コントロール・所有.....	20
表7：ジェンダーに配慮した政策に関する経済・農業関連省庁のアクションプラン.....	22
表8：経済・農業分野におけるジェンダー主流化のための能力強化計画.....	30
表9：女性の経済参加に関する主な指標.....	32
表10：農業とインフォーマルセクターにおける女性労働者に関する主な指標.....	33
表11：ウガンダ・ルワンダ・ケニアの女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る主な政策とプログラム・事業.....	36
表12：経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る協力枠組み.....	45
表13：ジェンダー予算のための実施メカニズム.....	49
表14：主な関連省庁へのジェンダー分野の協力の可能性.....	53

添付資料

Annex 1: Participant list for the 1st workshop	
Annex 2: Programme for the 1st workshop	
Annex 3: Handout for the 1st workshop	
Annex 4: Evaluation for the 1st workshop	
Annex 5: Participant list for the 2nd workshop	
Annex 6: Programme for the 2nd workshop	
Annex 7: Handout for the 2nd workshop	
Annex 8: Outputs of Project Cycle Management for the 2nd workshop	
Annex 9: Evaluation for the 2nd workshop	
Annex 10: Participant list for the 3rd workshop	
Annex 11: Programme for the 3rd workshop	
Annex 12: Problem Analysis and Objective Analysis of the 3rd workshop	
Annex 13: Evaluation for the 3rd workshop	

略語集

CAMP	Comprehensive Agricultural Development Master Plan/包括的農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト
CDO	Community Development Officer/コミュニティ開発担当官
GAD	Gender and Development/ジェンダーと開発
GDP	Gross Domestic Product/国内総生産
GER	Gross Enrolment Rate/総就学率
GOSS	Government of South Sudan/南スーダン政府
JICA	Japan International Cooperation Agency/独立行政法人国際協力機構
LRA	Lord's Resistance Army/神の抵抗軍
MAAIF	Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries/農業畜産水産省
MDTF	Multi-Donor Trust Fund/マルチドナー信託基金
MGCSW	Ministry of Gender, Child and Social Welfare/ジェンダー・子ども・社会保障省
MFEP	Ministry of Finance and Economic Planning/財務・経済計画省
NGO	Non-Governmental Organisation/非政府組織
NPO	Non-Profit Organisation/非営利組織
NUFLIP	Northern Uganda Farmers' Livelihood Improvement Project/北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト
PCM	Project Cycle Management/プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix/プロジェクト・デザイン・マトリックス
SACCOs	Savings and Credit Cooperatives/貯蓄信用組合
SAVOT	Project for Improvement of Basic Skills and Vocational Training/南スーダン基礎的スキル職業訓練プロジェクト
TOT	Training of Trainers/指導者研修
UNFPA	United Nations Population Fund/国連人口基金
UNIDO	United Nations Industrial Development Organization/国際連合工業開発機関
UWEP	Uganda Women's Entrepreneurship Programme/ウガンダ女性起業プログラム
VSLA	Village Savings and Loan Association/村貯蓄貸付組織
WID	Women in Development/女性と開発

要約

南スーダンでは 2011 年 7 月の独立後も平和は長く続かず、多くの女性が兵士から性的暴行を受けたり、世帯主であった男性を殺害されたり、家を追われたりと、長年の紛争により難民・国内避難民として苦しい生活を強いられてきた。

JICA とジェンダー・子ども・社会保障省（MGCSW）は、2016 年 11 月にジェンダー情報整備調査を実施し、南スーダンにおける基礎指標、ジェンダー概況及び政府の取り組みについて幅広い情報収集を行った。この結果を踏まえて JICA と MGCSW は協議を行い、短期間で実施可能な調査や活動のニーズを洗い出した。それらのニーズのうち、本調査では 3 回のワークショップを通じて、経済・農業分野におけるジェンダー主流化と女性の経済的エンパワメントに焦点を絞って、より詳細な情報収集を行うこととなった。本調査の目的は以下のとおり。

- 1) 経済・農業分野におけるジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント推進に係る情報を収集・分析、現状と課題を明確化し、優良事例や教訓を収集する。
- 2) 南スーダンのジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント推進に係る、実施可能且つ有効な JICA の支援の方向性及び協力枠組みを提言する。

加えて、経済・農業分野のジェンダー主流化のための政策策定とプログラム・事業実施における行政官の能力を強化することを副次的効果として達成することを目指し、ワークショップを計画・実施した。

調査結果のポイントを以下にまとめる。

1) 経済・農業分野におけるジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状、課題、優良事例、教訓

(1) ジェンダー主流化

- 南スーダン政府はジェンダー平等とジェンダー主流化を国家戦略の 1 つとして推進してきた。特に、MGCSW はジェンダー平等推進の中核機関として、国家ジェンダー政策の策定、省庁横断的ジェンダー調整委員会の設立、すべての省庁におけるジェンダー担当官の配置といった取り組みを進めてきた。しかしながら、ほとんどの省庁では人的・技術的・財政的キャパシティが不足しており、国家ジェンダー政策の実施や省庁横断的ジェンダー調整委員会の開催、ジェンダーに配慮した政策・プログラム・事業の実施、ジェンダー予算の配分が困難な状況である。
- 多くの経済・農業関連省庁において職員数の男女比のアンバランスが大きな課題である。女性の割合の目標値を 25%以上と定めたアファーマティブアクション（差別是正措置）が十分に実施されておらず、上級職を目指す女性も少ないため、女性の管理職は非常に少ない。今後、新規採用におけるアファーマティブアクションを強化する必要がある。
- 経済・農業関連省庁の職員に対する能力強化も十分に実施されていないため、ジェンダー主流化について適切に理解している職員が不足している。未だにジェンダーを女性のみの

問題として捉えている職員が多いのが現状である。そのため、ジェンダー担当官のみならず次官、局長、課長など管理職の能力強化を行うことが重要である。ジェンダー分析やジェンダーに配慮した計画や予算について、より多くの研修、会議、議論を行わなければならない。

- ジェンダー予算
 - 南スーダン政府ではジェンダー予算の制度はまだ導入されていない。現在の危機的な経済状況では、ほとんどの省庁でジェンダー主流化は優先課題ではなく、ジェンダー関連活動の予算を確保するのは困難である。
 - ジェンダー予算を導入するためには、現在の政策や計画をジェンダーの視点から見直し、ジェンダー課題を拾い上げ、男女の異なるニーズに沿った形で予算の再配分をしなければならない。現行の予算制度では各省庁の上限額が財務計画省によって決められているため、その範囲内でジェンダー主流化活動を他の活動に組み込む工夫をしなければならない。
 - ウガンダのジェンダー予算導入の経験を踏まえると、関連法を制定するなど法的枠組みを整えなければならないため、短期間に達成できるものではない。南スーダンでも中・長期的な取り組みとして、予算サイクルの中にジェンダー視点を導入していくことから始めるべきである。
- 経済・農業関連省庁のジェンダー主流化の実施メカニズムは、中央レベルでも州レベルでもまだ弱いと言える。ジェンダーユニットやジェンダー委員会を既に設置した省庁もあれば、まだ設置できていない省庁もある。各省庁のジェンダー担当官は運営のための予算を持っておらず、ジェンダー関連活動を行うのが非常に難しい。
- 省庁横断的な連携も弱く、ジェンダー調整委員会を活性化させ、国家ジェンダー政策の実施状況をモニタリングしたり、男女別のデータや情報を共有したり、すべてのセクターにおけるジェンダーに関する行政官の能力強化計画を作成することが必要である。
- 今後も南スーダンにおいてジェンダー主流化を推進していくためには、アドボカシーやロビー活動に加えて、行政官の能力向上が最も重要な課題である。ジェンダーの視点から現在の計画を見直し、ジェンダー予算の導入のための法的枠組みを整備していくこと、そして国レベルからコミュニティレベルまでのプログラムや事業の実施におけるジェンダー主流化ガイドラインを作成することが不可欠である。
- ジェンダーと食料安全保障
 - 南スーダンの女性は自給的農業の労働力の約8割を占めているものの、食料安全保障における女性の役割や貢献は認識されていない。多くの女性は無償の家族労働として家庭消費のための食料生産に従事している。
 - 女性と子どもは食料危機と栄養不足の影響を特に受けやすい脆弱な存在であり、その多くが避難民として現在も危機的な状況にある。また、伝統的な家父長制と社会文化規範により、女性は土地や家畜といった農業資産、農業技術、投入財へのアクセスが限られており、家庭内の意思決定権も持っておらず、農業生産性も低い傾向にある。
 - このような制約要因を取り除き、女性のエンパワメントに向けて心構えを変えていく啓発活動が必要である。女性が家庭内で収入や支出に関する意思決定権を持つことが

できれば、子どもの健康や栄養改善のためにお金を使い、食料安全保障により貢献することができる。

(2) 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント

- 起業家育成にとって重要な経営、財務、経理、リーダーシップ、グループ管理などのビジネススキルが不足している。南スーダンではビジネス女性及び社会的弱者のグループ化や組織化が十分されておらず、技術研修の対象となっていないことが主な原因である。
- 今後は政府による技術訓練や職業訓練の機会を増やし、起業家支援を行う必要がある。また、多くの女性及び社会的弱者は、Village Savings and Loan Associations (VSLAs) という村レベルの貯蓄貸付組織や Savings and Credit Cooperatives (SACCOs) という郡レベルの貯蓄貸付組合にアクセスすることができず、ビジネスを始める際の初期投資ができないことが大きな課題である。
- 多くの社会的弱者にとって、コミュニティによる嫌悪や差別が経済的エンパワメントの大きな制約要因となっている。そのため、技術研修だけでなく、彼らの自信や自己肯定感、自立を促すためのカウンセリングや相談といった心理的サポートが欠かせない。
- NGO や市民組織はコミュニティでプログラムや事業を実施する際の重要なアクターである。ウガンダ、ケニア、ルワンダでは、政府と NGO・市民組織の連携やネットワークが強く、女性や社会的弱者の経済的エンパワメントに貢献している例が多くある。NGO・市民組織が政府の計画策定や予算策定のプロセスに参加していることが貢献要因となっている。

2) 経済・農業分野におけるジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る協力枠組みの提案

今後の南スーダンにおいて、経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントを推進するための協力枠組みとして、以下の優先分野とプログラム目標が提案された。

優先分野 1：中央・州政府と NGO・市民組織によるジェンダー主流化

- 1.1 すべての省庁にジェンダーユニットまたは委員会を設置し、中央及び州において省庁横断的ジェンダー調整委員会を活性化させる。
- 1.2 中央及び州の行政官と NGO・市民組織の職員のジェンダー主流化に係る能力を強化する。
- 1.3 ジェンダー予算に関する法的枠組みを導入する。
- 1.4 すべての省庁においてジェンダーに配慮した政策と予算を策定する。
- 1.5 中央レベルからコミュニティレベルまでジェンダーに配慮したプログラムや事業実施のためのジェンダー主流化ガイドラインを作成する。

1.1: ジェンダーユニットまたは委員会を中央・州省庁に設置し、その役割を明確化すべきである。メンバーには各課の代表及びジェンダー担当官が入り、すべてのセクターでジェンダーに配慮した計画や予算が策定されるように促す。ジェンダーに配慮した計画と予算の策定、プログラムや事業の実施・モニタリング・評価について、中央と州のジェンダー担当官がより頻繁に会議を開いて情報交換を行うとともに、合同研修やワークショップを開催することで両者の連携

強化を目指すべきである。第 2 回ワークショップのように両者を含めたワークショップを MGCSW と JICA が今後も開催することが期待される。

1.2: 中央・州政府と NGO・市民組織におけるジェンダー主流化を実施するためには、関係者の包括的な能力強化計画と研修マニュアルの作成が不可欠である。特に、ジェンダー平等推進の中枢機関である MGCSW と各省のジェンダー担当官、省庁横断的ジェンダー調整委員会、各省ジェンダーユニット、局長、政治家、NGO・市民組織の職員を対象とした研修では、ジェンダー分析、ジェンダーに配慮した計画と予算の策定を優先分野として扱うべきである。この能力強化計画の作成、研修マニュアルと教材の作成、研修の実施については今後 MGCSW と JICA が連携して行う可能性を検討することが望まれる。

1.3: ジェンダー予算の導入については、まず MGCSW が先頭に立って、ジェンダー予算ガイドラインの作成、予算策定におけるジェンダーコンプライアンス規定の設置、ジェンダーに配慮した予算書の策定を財務・経済計画省 (MFEP) と協働で行うべきである。このプロセスは JICA も支援する可能性が考えられるものの、ウガンダ及びブルワンダがジェンダー予算のための法的枠組みや実施体制を構築した成功経験を踏まえ、これら隣国からの技術的な支援も検討すべきである。

1.4: ジェンダーに配慮した政策、戦略、計画、予算の策定のため、男女別の統計データを定期的に収集する。各省に限られた予算の中でデータ収集をするためには、特にジェンダー課題の深刻なサブセクターを優先するべきである。またすでに収集した情報を省庁間でいかに共有するかが重要である。例えば、2012 年に MGCSW が実施した **Comprehensive Country Gender Assessment** は各セクターの男女別データや現状分析を詳細に行っているため、すべての省庁で共有すべきである。

1.5: より効果的なジェンダー政策の実施のため、中央から地方レベルまでの政策・プログラム・事業の計画・実施・モニタリング・評価におけるジェンダー主流化ガイドラインを整備することも重要である。ガイドラインには、各段階で使うべきジェンダー分析のツール、ジェンダー予算の策定ツール、ジェンダーに配慮した PCM 手法のほか、ジェンダー及び社会的弱者への配慮チェックリストを整備することが望ましい。今後このガイドライン策定のプロセスを JICA が支援する可能性を検討することが期待される。

優先課題 2: ジェンダーと食料安全保障

2.1 女性と子どもの食料安全保障に係る脆弱性に対応するための事業を推進する。

2.2 ジェンダーに配慮した食料安全保障政策と法的枠組みを策定する。

2.1: 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントを推進するにあたり、現在の南スーダンでは、食料安全保障に係る脆弱性に対応することが喫緊の課題となっており、関連する事業実施が優先課題となる。農村部を中心に人口の大半が自家消費を目的とした農耕や牧畜に従事する南スーダンにおいては、小規模農家の農業生産性向上と同時に、ジェンダー視点を取り入れた農家の食料安全保障及び生計向上、並びに栄養改善を目指す事業の実施が有効な方策となる。JICA

が現在実施中の北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）は同様のアプローチを採用、成果を上げつつあり、類似事業として参考となる。ウガンダ北部も南スーダンも、紛争影響地域において女性と社会的弱者が自給的農業を営み、生産性の低さ、収入の低さ、コミュニティからの差別などに苦しんでいる同様の背景を持つ。NUFLIP の対象農家グループでは女性、男性、障害を持った人々が野菜栽培のための圃場で一緒に働き、チームワークやコミュニティ意識を育て、互いに助け合うことができるようになった。家族全員の栄養面や食料安全面に考慮した営農計画を作成し、野菜栽培から得た収入の使い道は夫婦で話し合い、子どもの教育や栄養改善のために使うようになった。NUFLIP で実施している一連の野菜栽培技術研修、市場志向型農業の導入、家族全員の幸せのための目標設定、ジェンダーや社会的弱者への配慮のための研修、家計管理研修（食料在庫と家畜の管理カレンダー、現金管理カレンダー）、栄養改善・衛生改善研修、非識字者に配慮した視覚的な研修教材などは、民族的・文化的に近い南スーダンにとっても導入可能な事例である。

2.2: ジェンダーに配慮した食料安全保障政策については、JICA が支援を続けてきた南スーダン包括的農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト（CAMP）において、ジェンダー視点に基づいた現状分析が行われ、男性だけでなく女性の農業普及員を増やし、栽培方法、食料の貯蔵や保存、農産物の付加価値付け、市場戦略等について能力強化を行うことが提案されている。今後 CAMP の実施フェーズで、事業が実施されることを通じて南スーダンの食料安全保障に長期的に貢献することが望まれる。

優先課題 3：女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント

3.1 女性起業家のビジネス経営、財務、技術に係る能力向上を推進する。

3.2 政府と NGO・市民組織の連携により、より良いビジネス環境を提供する。

3.1: 今後の南スーダンでは女性及び社会的弱者の経済活動への参加を促進するため、職業訓練や技術訓練の施設を増やすことが必要である。内戦の影響を受けた元少年兵、寡婦、孤児、障害者などの社会的弱者を受益者として優先し、彼らの自立につながるようなスキルを身につけるための機会を増やさなければならない。ウガンダ北部の NGO テラ・ルネッサンスは、神の抵抗軍（LRA）によって誘拐された子どもと誘拐した側の子どものコミュニティに再統合し、職業訓練クラスとともに学ぶ経験を通して彼らの経済的自立と和解を促す活動を行っている。ウガンダの Reach Out Mbuya の活動は、職業訓練がエイズとともに生きる人々が抱える多くの問題を解決し、心を癒す場となっていることを証明している。このような NGO の経験及び JICA が支援を行った SAVOT の経験は、南スーダンが近い将来、同様の問題を克服するための良いモデルである。

3.2: 女性及び社会的弱者の経済活動への参加を促進するためには、政府のみならず、NGO や市民組織の連携も含めた、よりよいビジネス環境の整備が必要となる。南スーダンにおいては、ビジネス環境の基盤となる基礎インフラが未だ脆弱な状況にあり、JICA はこの分野において継続的に貢献することが望まれる。JICA ではこれまでも南スーダンの基礎インフラの発展に多大な貢献をしてきた。水、道路、橋、電気といった基礎インフラへの投資を行うことは、基礎的

なビジネス環境を提供するとともに、清潔な水や安全な生活環境へのアクセスを提供することにより女性や社会的弱者の健康にも直結し、水汲みや薪運びなど女性の無償労働の負担を軽減することでより生産的な経済活動への参加を促すことにつながる。JICA が支援してきた無償資金協力事業によるインフラ整備の再開、及び「都市水道公社水道事業管理能力強化プロジェクト」等補完的技術協力事業の継続実施が必要とされる。

1. 本業務の概要

1.1 業務の背景

2011年7月にスーダンから分離独立した南スーダン共和国（以下、南スーダン）では、長年の紛争中に女性が兵士から性的暴行を受けてきた他、世帯主であった男性を殺害されたり、家を追われたりしたため多くの女性が難民・国内避難民としての苦しい生活を強いられてきた。また、南スーダンでは政治的・社会的・経済的にも女子・女性の地位は低く、男子・男性と比較して教育や医療等の基礎的サービスが行きわたっていない。早くに強制的に結婚させられる女子も多いことから、小学校就学率は、男子 81.4%に対し、女子は 54.5%（2010年）と著しく低い。更に、妊産婦死亡率は 10万出生当たり 2,054人と世界でも最も高い国の一つである。貧困率は男性 48.4%に対し女性 51.6%とあまり差がない一方、男性が世帯主の世帯のうち貧困状態にあるのは 48%だが、女性が世帯主の世帯のうち貧困状態にあるのは 57%と、特に戦争等が理由で男性の世帯主を失った家庭は厳しい経済状態にあることが分かる。

南スーダン政府は、女子の強制結婚や女性に対する性的暴力の撤廃、また教育、医療、経済活動など様々な面で、女性が男性と同様の機会を得られるよう取り組みを進めている。2012年には、国家ジェンダー政策（National Gender Policy）が策定され、あらゆる差別や暴力のない国と、男性・女性・子どものすべての人が人権を享受する公平な社会を目指すとしている。同政策では、省庁横断的ジェンダー調整委員会（Inter-ministerial Gender Coordination Committee）の設置が定められており、各省庁にジェンダー担当官を配置して各種政策・行政サービスへのジェンダー主流化を進めることにしている。

一方、省庁横断的ジェンダー調整委員会は 2016年8月に立ち上がったばかりで、ジェンダー担当官のジェンダー主流化に対する理解は十分にできておらず、ジェンダー・子ども・社会保障省（MGCSW）及び同委員会では、ガバナンス・社会開発・治安・経済等のセクター毎にジェンダー主流化のための研修を実施したい考えである。ジェンダー不平等や女性に対する差別が社会的・文化的にも残る南スーダンにおいて女性のエンパワメントを進めるためには、各省庁の政策・計画・行政サービスにおいてジェンダー平等の視点を積極的に導入し、ジェンダー主流化を進めていくことが必要である。

JICA は南スーダンにおいて、農業分野や職業訓練分野での支援を実施しており、MGCSW から JICA に対し、経済関連分野でのジェンダー主流化への支援、特に女性の経済的エンパワメントの分野で支援の要請があった。これを受けて、JICA ではジェンダー情報整備調査（現地調査 2016年11月）を実施し、南スーダンにおける基礎指標、ジェンダー概況及び政府の取り組みについて幅広い情報収集を行った。この結果を踏まえて JICA と MGCSW は協議を行い、短期間で実施可能な調査や活動のニーズを洗い出した。それらのニーズのうち、本調査では、経済・農業分野におけるジェンダー主流化と女性の経済的エンパワメントに焦点を絞って、より詳細な情報収集を行うこととなった。

1.2 業務の目的

本業務の目的は、既存資料のレビュー、行政官を対象としたワークショップによる情報収集と分析を通して、以下の2点を達成することである。

- 1) 経済・農業分野におけるジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント推進に係る現状と課題を把握し、優良事例や教訓を収集する。
- 2) 南スーダンのジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント推進に係る、実施可能且つ有効な JICA の支援の方向性及び協力枠組みを提言する。

加えて、経済・農業分野のジェンダー主流化のための政策策定とプログラム・事業実施における行政官の能力を強化することを副次的効果として達成することを目指し、ワークショップを計画・実施した。

1.3 ワークショップの概要

2017年4月から8月にかけて、全3回のワークショップを行った。開催場所はウガンダ国カンパラ市内、フィールド視察はウガンダ国北部地域（グル県周辺）及びカンパラ市内で行った。各ワークショップの概要と内容は下記のとおり。参加者リストとプログラムは添付資料を参照のこと。

1.3.1 第1回ワークショップ

MGCSW 及び経済関連省庁におけるジェンダー主流化政策に係る現状・課題を把握し、優良事例・教訓を収集するため、2017年4月に第1回ワークショップを開催した。

表1：第1回ワークショップ概要

目的	1) 南スーダンにおけるジェンダー主流化に係る政策策定、計画立案、予算策定、政策・プログラムの実施について、現状と課題を把握する。 2) ジェンダー及び紛争影響地域の社会的弱者の視点に立った政策、予算、プログラム、プロジェクトの優良事例・教訓について情報を共有する。
参加者 (19名)	ジェンダー・子ども・社会保障省及び経済関連省庁のジェンダー担当官と管理職レベルの計画担当官 • ジェンダー・子ども・社会保障省 (5名) • 農業・食料安全保障省 (2名) • 畜産・漁業省 (2名) • 環境・林業省 (2名) • 水資源・灌漑省 (2名) • 財務・経済計画省 (2名) • 通商・産業・投資省 (2名) • 労働・公共事業・人材開発省 (2名)
場所	ウガンダ・カンパラ、Fairway ホテル
期間	4月23日 (ジュバからカンパラへ移動) 4月24日から27日 (カンパラ市内でワークショップ) 4月28日 (カンパラからジュバへ移動)

1.3.1.1 第1回ワークショップの内容

(1) セッション1：南スーダンのジェンダー主流化の概要

本セッションでは、ジェンダー主流化及び社会的弱者配慮に係る基本的な考え方について説明するとともに、ジェンダーならびにジェンダー主流化の定義、ジェンダー主流化推進のための前提条件や関係者の役割と責任に関して説明を行った。加えて、MGCSW から国家ジェンダー政策の内容とその実施に関するこれまでの成果や今後の課題、また女性のエンパワメントやジェンダー平等の現状と課題についての説明を行った。講義後、各省でどのようにジェンダー主流化を推進していくかについて、より実践的な視点から参加者同士が話し合った。

(2) セッション2：各省のジェンダー主流化に係る取り組み

本セッションでは、各省がジェンダー主流化に係る現状と課題についてプレゼンテーションを行った。プレゼンテーション後には、政策策定及びプログラムや事業の計画・予算策定におけるジェンダー主流化の主な課題やジェンダーに配慮した政策・戦略を実施する際の制約や今後の対策について参加者同士で議論が行われた。主なポイントは以下のとおり。

- 女性と男性の現状を把握したうえで政策・戦略を策定するためには、最初にジェンダー格差に関する調査を実施しなければならない。
- 各セクターにおける男女別データが不十分である。
- ジェンダー主流化推進のための資金が不足しているため、ジェンダー政策を盛り込んだプログラム・プロジェクトの概要書、活動計画、年次戦略等を作成し、ドナー（例えば UNWOMEN や UNFPA、大使館など）を見つけることが重要である。
- 各省にジェンダーユニットもしくはジェンダー委員会を設置することが必要である。
- 各省のジェンダー担当官の能力向上が必要である。MGCSW やドナーの技術的サポートが不可欠である。

(3) セッション3：ジェンダーに配慮した計画・予算策定の概要

本セッションでは、ジェンダーに配慮した計画・予算策定の目的やプロセス、策定のための前提条件や関係者の役割と責任について講義を行い、以下の7つの実践的な手法を紹介した。これらの手法は、マニュアルどおりに実践するのではなく、南スーダンの現状に合わせて内容やプロセスを柔軟に修正しながら、いくつか組み合わせて使うことが望ましいことを強調した。

- 1) ジェンダー視点に立った政策の事前審査 (Gender-aware Policy Appraisal)
- 2) ジェンダー視点に立った中期経済政策枠組 (Gender-aware Medium-Term Economic Framework)
- 3) ジェンダー別公共支出の便益帰着分析 (Sex-disaggregated Public Expenditure Benefit Incidence Analyses)
- 4) ジェンダー視点に立った公共事業と予算の優先順位の受益者分析 (Gender-aware Beneficiary Assessments of Public Service Delivery and Budget Priorities)

- 5) ジェンダー視点に立った公共支出追跡調査 (Gender-Aware Public Expenditure Tracking Surveys)
- 6) 予算が及ぼす時間利用へのジェンダー別影響分析 (Sex-disaggregated Analyses of the Impact of the Budget on Time Use)
- 7) ジェンダー視点に立った予算書 (Gender-aware Budget Statements)

(4) セッション4：ジェンダーに配慮した計画・予算策定（演習）

参加者は3名ずつ（各省2名とMGCSW1名）のグループに分かれ、ジェンダーに配慮した計画・予算策定手法の一つである、ジェンダー視点に立った政策の事前審査（Gender-aware Policy Appraisal）の演習を行った。この手法は5段階に分かれており、第1段階では、各省のサブセクターにおけるジェンダー現状分析（Gender Situation Analysis）を行い、最も重要なジェンダー課題を特定した。次に第2段階として、各省の既存の政策がどの程度ジェンダーに配慮したものであるかをジェンダー指標（Gender-sensitive indicators）に基づいて審査した。第3段階としてジェンダーに配慮した各活動への予算の割り当てを検討した。そのうえで、各省のアクションプランを作成し、発表を行った。その後、第4段階としてジェンダー予算のモニタリング・評価、第5段階としてインパクト・アウトカム評価についての説明をおこなった。主なポイントは以下のとおり。

- ジェンダーに配慮したより良い計画・予算を策定するためには、男女別データが不可欠である。
- MGCSWは、各省に配置されているジェンダー担当官に対して、ジェンダー主流化について理解し、ジェンダーに配慮した計画・予算を策定ができるようトレーニングを行うべきである。
- MGCSWは、ジェンダーに配慮した予算策定を主導するために関係省庁と定期的に会議を開催するべきである。

(5) セッション5：ウガンダのジェンダー主流化の経験

ウガンダのジェンダー・労働・社会開発省から外部講師として招いたジェンダー担当官が、ウガンダの国家ジェンダー政策の内容とその実施におけるこれまでの成果や今後の課題について説明するとともに、ウガンダのジェンダー予算策定の経験に関するプレゼンテーションを行った。プレゼンテーション後には活発な質疑応答が行われ、参加者はウガンダのジェンダー政策とジェンダーに配慮した計画・予算策定の経験から多くの知見を得たようであった。主なポイントは以下のとおり。

- 女性、男性、少女、少年それぞれのニーズが異なるため、各々の社会的役割を理解することが重要である。
- 多くの人々がジェンダー主流化を“女性の問題”として間違った捉え方をしているため、ジェンダー主流化に関する政府職員ならびに一般市民への啓発活動が不可欠である。
- 当初に設定されたジェンダー指標が適切であったかをチェックするため、ジェンダーに配慮した予算のモニタリング・評価としてのジェンダー分析を実施すべきである。

(6) セッション6：ジェンダーに配慮したプログラム及び事業の優良事例と教訓

本セッションでは、参加者がワークショップから学んだジェンダーに配慮した政策、戦略、プログラム、事業の優良事例や教訓を共有し、各省で実施中もしくは将来実施されるプログラム・事業の改善のための方策を話し合った。主なポイントは以下のとおり。

- 政治的意思は、ジェンダー主流化とジェンダーに配慮した予算策定に関する法的枠組みの構築に必要不可欠である。
- ジェンダーに配慮した予算策定には、財政資源の追加が必ずしも必要なわけではなく、現在の予算内でも行うことは可能である。
- 全省庁の政策や戦略、プログラム、事業において社会的弱者に対する配慮が必要である。

1.3.2 第2回ワークショップ

MGCSW 及び農業関連省庁の中央省庁及び州省庁を対象とするジェンダー視点に立った事業の計画・実施・モニタリング・評価の能力に係る情報収集を行うため、第2回ワークショップを開催した。

表2：第2回ワークショップ概要

目的	1) ジェンダー視点に立った事業の計画・実施・モニタリング・評価方法（PCM 手法）を学び、MGCSW 及び農業関連省庁の中央と州省庁の行政能力の向上を図るとともに、中央と地方の連携・協力体制を検討する。 2) 北部ウガンダのフィールド視察を通じて、農業分野のジェンダー視点に立った事業実施のための実践的な知識とスキルを身につける。
参加者 (18名)	ジェンダー・子ども・社会保障省及び中央・州農業関連省庁のジェンダー担当官と管理職レベルの計画担当官 • ジェンダー・子ども・社会保障省（中央4名、州1名） • 農業・食料安全保障省（中央2名、州1名） • 畜産・漁業省（中央2名、州1名） • 環境・林業省（中央2名、州2名） • 水資源・灌漑省（中央2名、州1名）
場所	ウガンダ・カンパラ市の Fairway ホテル及び北部ウガンダ
期間	6月11日（ジュバからカンパラへ移動） 6月12日から18日（カンパラ市内でワークショップ及び北部ウガンダへフィールド視察） 6月19日（カンパラからジュバへ移動）

1.3.2.1 第2回ワークショップの内容

(1) セッション1：ジェンダー主流化及びジェンダー分析の概要

本セッションでは、初めに第1回ワークショップのレビューとしてジェンダー主流化の基本理念について確認した後、ジェンダー分析の概要について説明した。特に、ジェンダー分析のメリットと重要性を強調し、ジェンダー分析で収集すべき情報とそのためのツールを紹介した。講義後、参加者が南スーダンで各セクターの政策や戦略、計画を策定する際に実施したジェンダー分析の経験を共有した。

(2) セッション2：ジェンダー分析の実践的ツール

本セッションでは、コミュニティにおけるジェンダー分析の実践的なツールとして、性別役割分析（gender role analysis）、ジェンダー活動分析（Daily Activity Profile）、アクセス・コントロール分析（Access and Control Profile）、意思決定分析（decision making analysis）の4つの手法を紹介した。講義後、参加者は2つのグループに分かれ、ジェンダー活動分析とアクセス・コントロール分析の演習を行った。グループ演習の結果、議論された主なポイントは以下のとおり。

- 南スーダンの女性、特に農村地域では、食事の準備や家の掃除、水汲みや子ども・老人の世話など、男性に比べて家事に時間を費やす傾向にある。男性は、外で働いたり、会合に出席したりお酒を飲んだり人づきあいに重きを置いている。
- 雨季は、男女ともに農業活動をメインに多くの仕事に従事している。一方、乾季になっても女性の仕事量は多いままである。これは、男性が家事を担ったりするなど女性を手伝うことがほとんどないからである。
- ジェンダー活動分析の結果は、コミュニティの男女を対象とした研修やワークショップの実施時期、スケジュールを考える際に有益である。
- 異なるツールを組み合わせたジェンダー分析は、男女それぞれの現状やニーズを把握し、事業を計画・実施する上で必要不可欠である。
- 性別役割は社会や文化によって決められているため、外部者が短期間で変えることは難しい。
- ジェンダー主流化は性的役割を変えることを目指しているのではなく、男女がともに幸せになるようなジェンダー関係を築いていくことが目的である。

(3) セッション3：ジェンダーに配慮した家計管理ツール

本セッションでは、自給自足的な小規模農家の家計の現状を把握し改善策を講じるため、食料の在庫管理と現金管理という2つの観点から実践的なツールを紹介した。講義後、参加者は2つのグループに分かれ、南スーダン農村部の典型的な世帯（自給農家）を想定し、食料の在庫管理のためのカレンダーを作成する演習を行った。1ヶ月にどのくらいの穀物や野菜が収穫され、そのうちどのくらいが家庭で消費、または現金収入のために市場で売られるかを議論しながら、カレンダーの作成を行った。カレンダー作成後は、年間を通して家族全員の食料を確保するために現状をどう改善すべきかを話し合った。参加者からは、農家は収穫直後に過度に消費したり売ったりするのはなく、食料管理カレンダーに基づいた営農計画を立てるべきとの意見があった。現金管理については、セッション5の北部ウガンダのフィールド視察中に農家グループによる現金管理カレンダーの作成を視察した。

(4) セッション4：北部ウガンダ生計向上支援プロジェクトの概要

本セッションでは、フィールド視察の導入として JICA 北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）の背景について、同プロジェクトの専門家がプレゼンテーションを行った。プロジェクトの概要やアプローチ（市場志向型農業と生活の質の向上の統合）、どのように社会的弱者をプロジェクトに巻き込み、ジェンダー配慮を行ってきたかなど、これまでの成果と進捗、

課題について説明した。また、非識字者に配慮した研修ツールとして、コミュニティの現状を紙芝居風に描いたフリップチャートや絵のアイコンを使用した食料管理カレンダーを紹介した。

(5) セッション5：北部ウガンダ生計向上支援プロジェクトの活動視察

本セッションでは、NUFLIP がグル県アワチ郡で支援している2つの農家グループを訪問し、家計管理・ジェンダー・社会的弱者配慮の研修と野菜圃場を視察した。家計管理研修では、現金管理カレンダーの作成を通じて、家族全員のニーズを満たすために収入と支出のバランスをどう改善するかについて農家グループの男女が真剣に議論する様子に、参加者も聞き入っていた。また、グループメンバーがこれまで社会的弱者をどのように支援してきたか、女性の家事労働や農作業の負担を減らすためにどのような工夫してきたかという発表を聞き、参加者が感銘を受けて拍手を送る場面もあった。さらに、参加者は2つのグループの圃場を訪問し、トマトや玉ねぎ、キャベツといった野菜の栽培技術や圃場管理方法についても学んだ。

(6) セッション6：グル市内のNGO訪問

本セッションでは、グル市内にあるテラ・ルネッサンスという日本のNGO（本部は京都）を訪問した。このNGOは2006年から活動を開始し、内戦中に神の抵抗軍（LRA）によって誘拐された元少年兵やチャイルドマザーが元のコミュニティへ帰還し、社会復帰するための支援を行っている。参加者はまずテラ・ルネッサンスの職業訓練施設を訪問し、洋裁、大工コースなど授業の様子を視察した。その後、グル事務所の代表であるJimmy Otema氏がテラ・ルネッサンスの活動、成果や課題について説明した。最後には、参加者とJimmy氏の間で意見交換を行い、最近の治安の悪化によって南スーダンから北部ウガンダへ逃れてきた大量の避難民を今後どのように支援できるかについて話し合った。

(7) セッション7：ジェンダー視点に立ったPCM（計画立案）

本セッションでは、プロジェクトのプロセス全体を管理する手法の1つとして、ジェンダー視点に立ったプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）を紹介した。プロジェクトの計画から実施、モニタリング、評価までの各段階において、ジェンダー視点をどのように組み込むか、またPDM/ロジカルフレームワークをどのように活用するかを説明した。その後、参加者は2つのグループに分かれ、ジェンダー視点に立った各分析の方法と、プロジェクト立案の手法について、以下の4つの演習を通して学んだ。

- 1) 関係者分析：受益者の特徴とニーズを男女の視点から把握した。
- 2) 問題分析：一般的な問題の中に隠されたジェンダー課題を特定した。
- 3) 目的分析：問題分析の結果に基づいて、ジェンダー目的を特定した。
- 4) PDM/ロジカルフレームワーク：1) から3) の分析結果に基づき、ジェンダー視点に立ったPDMを作成した。特に、ジェンダー目的に基づいたジェンダー関連活動を提案した。

(8) セッション8：ジェンダー視点に立ったPCM（モニタリング・評価）

本セッションでは、ジェンダーの視点からどのようにプロジェクトをモニタリング・評価していくかについて講義と議論を行った。モニタリングでは、各グループが作成した PDM を使って、プロジェクト目標とアウトプットがどの程度達成されているかを測る際にジェンダーに配慮した指標が設定されているかを確認した。評価では、妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性といった5つの評価のクライテリアをジェンダー視点から考察した。

(9) セッション9：中央と州省庁の能力強化計画の作成と連携・協力体制の検討

本セッションでは、参加者が各省庁に分かれ、ジェンダー主流化に関する能力強化計画を中央と州レベルで作成した。計画内容には能力強化の対象者、対象者の役割、能力強化の優先分野や実施方法を盛り込んだ。さらに、中央と州省庁の連携をどのように強化していくかを議論し、いくつかの活動を提案した。セッションの最後には、作成した能力強化計画を発表し、アイデアを共有した。主なポイントは以下のとおり。

- 各省庁におけるジェンダー主流化やジェンダー視点に立った計画策定や予算策定には、次官や局長へのロビー活動やアドボカシーが必要不可欠である。
- 一般レベルの政府職員のジェンダー主流化に関する基礎的な知識、ジェンダー視点に立った計画立案のスキル、アドボカシー能力、コミュニケーション能力、プロポーザル作成能力、リーダーシップ能力などが不十分であるため、能力強化が必要である。
- 上記の能力強化研修を実施する際には、ジェンダー担当官などの能力強化のために指導者研修（TOT）が必要である。また、講師育成講座で使用する能力研修マニュアルを作成する必要がある。
- 海外のコンサルタントに、南スーダンの政府職員の能力強化に関するマニュアルやテキストの作成支援を依頼するという方法もある。
- 中央と州省庁間では定期的に会議が開催されていないため、連携体制を構築するためには、より頻繁な合同会議や情報共有が必要である。
- ジェンダー主流化ならびにジェンダー視点に立ったプロジェクトの計画や実施には、全ての州省庁にジェンダー担当官を配置することが不可欠である。

1.3.3 第3回ワークショップ

東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状や事例を共有するとともに、今後の JICA の協力枠組みについて検討するため、第3回ワークショップを開催した。

表3：第3回ワークショップ概要

目的	1) 東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント推進に係る取り組み事例や知見、教訓を収集・共有し、人的ネットワークを構築する（1日目～3日目）。 2) 南スーダンのジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント推進に係る今後のJICAの協力枠組みを検討する（4日目）。	
参加者 (24名)	東アフリカ各国（南スーダン、ウガンダ、ケニア、ルワンダ）のジェンダー関連省庁、経済関連省庁、NGOや市民組織 <ul style="list-style-type: none"> ジェンダー平等や女性・社会的弱者の経済的エンパワメント推進を担う中央省庁（例：MGCSW）のジェンダー担当官 経済関連省庁（例：貿易産業省、農業省、畜産水産省、環境林業省）のジェンダー担当官または計画担当官 女性・社会的弱者の経済的エンパワメントを推進するNGO・市民組織（例：女性起業家組織）の代表者 ウガンダ、ケニア、ルワンダからの参加者は1日目～3日目まで、南スーダンからの参加者は4日目まで出席	
場所	ウガンダ・カンパラ市の Fairway ホテル	
期間	南スーダンからの参加者 8月6日（ジュバからカンパラへ移動） 8月7日から10日（ワークショップ） 8月11日（ジュバからカンパラへ移動）	ウガンダ、ケニア、ルワンダからの参加者 8月6日（首都からカンパラへ移動） 8月7日から9日（ワークショップ） 8月10日（カンパラから首都へ移動）

1.3.3.1 第3回ワークショップの内容

(1) セッション1：女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントの概要

本セッションでは、東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントの概要を説明した。ジェンダーと貧困の概要、経済的エンパワメントの意味、女性の経済的エンパワメントとジェンダー平等、貧困削減の関係性についても言及した。さらに、東アフリカの社会的弱者にも焦点を当て、女性や社会的弱者が経済的エンパワメントにおいて直面する制約要因や、どのように政府が女性や社会的弱者に対して協力的な環境作りができるかを強調した。

(2) セッション2：東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに関する現状と課題

本セッションでは、ナショナル・マシーナリー（各国ジェンダー省）、経済・農業関連省庁、NGOと市民組織に分かれ、女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに関する現状、問題点、これまでの成果、今後の課題について議論した。グループワーク後、各グループでプレゼンテーションを行い、知見・経験を共有した。

(3) セッション3：ローカルNGOの訪問とフィールド視察

本セッションでは、カンパラ市内のローカルNGOを訪問し、女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントの推進のためのコミュニティ活動を視察した。午前中は参加者が2グループに分かれ、1) Bead for Lifeと2) Engage in Action for Safe Environmentを訪問し、午後は参加者全員で3) Reach Out Mbuyaを訪問した。

(4) セッション4：フィールド視察のまとめ

本セッションでは、カンパラ市内の NGO 訪問とフィールド視察のまとめとして、参加者が優良事例と教訓についてグループに分かれて話し合い、プレゼンテーションを行った。

(5) セッション5：政府及び NGO・市民組織の能力強化の現状と優先課題

本セッションでは、女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに関する政府職員及び NGO・市民組織職員の能力強化における優先課題について優良事例や考えを発表し合った。

- 草の根から中央までの全てのレベルにおいて能力強化が不可欠である。草の根レベルの女性及び社会的弱者に技術研修を実施することは、彼女らの生活向上にとってとても重要である。地方政府の職員にはプログラムや事業の実施者として指導者育成研修を、中央政府の職員には政策立案者としてジェンダー主流化についての啓発活動や研修を実施する必要がある。
- 中央と地方政府は互いに協力すべきである。役割として、中央政府はコミュニティの女性及び社会的弱者の能力強化研修を計画・支援し、地方政府は草の根レベルで研修を実施する。
- 受益者を特定するには、コミュニティに実際に足を運び、住民と交流し、プログラムに興味を持った人を選定することが重要である。
- 住民に収入向上のための知識と技術を与えることは有益である。

(6) セッション6：南スーダン・ジェンダー分野に係る JICA の協力枠組み

本セッションでは、南スーダンからの参加者のみが出席し、今後のジェンダー分野における JICA の協力方針と枠組みについて議論した。これは第 1 回から第 3 回のワークショップを通じた最終的な成果品となる。

まず、参加者は第 1 回と第 2 回ワークショップで議論した、南スーダンのジェンダー主流化に係る現状や問題点、ジェンダーに配慮した政策、計画、予算、プログラム、事業の優良事例や教訓を確認し、中央及び地方レベルにおけるジェンダー主流化の組織的な枠組みと実施体制を提案した。次に、第 3 回ワークショップのまとめとして、南スーダンの女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに関する問題分析と目的分析を行った。参加者は、小規模ビジネスに従事する多くの女性や社会的弱者が直面する問題を特定した。最後に、ワークショップを通して特定した問題点や目的を基に、ジェンダー主流化に係る経済・農業分野における今後の JICA の協力枠組みが参加者から提案され、目標、優先分野、プログラムの目的、短期・中期・長期的戦略についても検討した。

2. 経済・農業分野におけるジェンダー主流化の現状と課題

2.1 南スーダンのジェンダー課題

南スーダンでは長年の内戦により貧困や不平等が蔓延し、特に女性、子ども、社会的弱者の生活に深刻な影響をもたらしてきた。2005年の包括的和平合意とその後の2011年の独立後も、南スーダンでは治安の悪化、避難民の増加、食料不足、季節的な洪水、コレラなど感染症の流行など多くの困難に直面してきた。内戦と貧困、開発の遅れにより、政府は人々への基本的サービスの提供や人道的ニーズへの対応といった責務を十分全うすることができず、女性、子ども、社会的弱者が危機的状況に置かれている。

本節では南スーダンの経済・農業分野におけるジェンダー及びジェンダー平等の概況を述べる。他分野を含む包括的なジェンダーの統計データや情報は、2016年にJICAが実施したジェンダー情報整備調査で収集・分析されている。

2.1.1 ジェンダー平等

南スーダンには深刻なジェンダー格差があることが、下表の指標から読み取れる。貧困率は女性が世帯主の世帯では57%であるのに対し、男性が世帯主の世帯では48%である。また、初等教育の総就学率は、女子が63.5%、男子が73.3%である。識字率は男性が女性の2倍となっていて、著しい格差がある。また、南スーダンの妊産婦死亡率はサブサハラアフリカの中でも最も高い国のひとつである。このようなジェンダー格差が経済・農業活動における女性のエンパワメントの阻害要因となっている。

表4：ジェンダー平等に関する主な指標

主な指標	女性	男性
貧困率（女性世帯主と男性世帯主）2009年 ¹	57%	48%
初等教育総就学率（GER）2011年 ²	63.5%	73.3%
識字率（15-24歳）2010年 ³	28%	55%
妊産婦死亡率（出産100,000件当たり）2015年 ⁴	789	-

2.1.2 ジェンダー役割

ジェンダー・子ども・社会保障省（MGCSW）はMulti-Donor Trust Fund（MDTF）の支援を受け、2012年に包括的国家ジェンダーアセスメントを実施し、ジェンダー平等と女性の地位について社会経済面、政治面、法律面など多面的なサンプリング調査を行った。この調査により、南スーダンの女性は水汲み、薪集め、料理、洗濯、掃除、子どもや高齢者の世話などの家事労働に

¹ Poverty line was calculated to be 73 Sudanese Pound per person per month. The National Baseline Household Survey 2009 surveyed 5,280 households across all 10 states.

² Education Management Information System (EMIS) report, 2011, Ministry of Education

³ Education Management Information System (EMIS) report, 2010, Ministry of Education

⁴ World Health Statistics, 2017, WHO

多くの労力を費やしていることが明らかとなった。また、コミュニティレベルでは、女性は草刈り、教会の掃除、死者の埋葬、集会やイベントのため仕出しやアルコール作りといった役割を担っている。南スーダンにおける男女の主な役割を下表に示す。女性はさまざまな経済活動に従事しているものの、その多くは男性のサポートをするための無償労働である。

表 5：家庭内及びコミュニティにおけるジェンダー役割

性別	役割分担		
	家庭内	経済活動	コミュニティ
男性	<ul style="list-style-type: none"> 世帯主 結婚し妻と子どもを養う 父親 稼ぎ手 亡くなった兄弟の妻の面倒を見る 	<ul style="list-style-type: none"> 換金作物の収穫 井戸掘り 釣り 狩猟 牛の放牧 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ会合に家族の代表として出席 開発のためにコミュニティに現金を寄付 結婚の持参金の支払い
女性	<ul style="list-style-type: none"> 水汲み 料理 家の建設 出産と子どもの世話 屋根用の草刈り 	<ul style="list-style-type: none"> 穀物の収穫と余剰分の販売 都市部における家族経営のビジネス 牛の飼育 乳搾り 	<ul style="list-style-type: none"> 文化的儀式の先導 コミュニティ会合の調整（参加はしない） 屋根の材料の収集 女の子の教育

出典： Comprehensive Country Gender Assessment, 2012, MGCSW

2.1.3 性及びジェンダーに基づく暴力

長年の内戦と部族間の紛争により、多くの女性と子どもが国内避難民としてキャンプでの生活を余儀なくされ、さまざまな形での性及びジェンダーに基づく暴力に苦しんできた。兵士によるレイプ、誘拐、性的嫌がらせを含む暴力の数は増加している。Human Rights Report⁵によると、政府軍と反政府軍の両方の兵士が一軒一軒の家を物色しながら、殺人、略奪、レイプ、誘拐、恣意的な逮捕を行ったという。さらに、家庭内暴力、妻への暴行、牛の強奪中の女性や子どもの誘拐、強制的な早婚、犯罪への補償として女子を差し出す習慣なども性及びジェンダーに基づく暴力に含まれる。南スーダンでは約 40%の女性は何らかの暴力を受けた経験があるという報告がある⁶。ただし、正式に報告されていないケースを考慮すると、実際の数ははるかに多いと考えられている。現在も続く内戦が状況をさらに悪化させており、暴力を受けた女性や子どもは心理的なトラウマ、エイズ感染、社会的な偏見、望まない妊娠などに悩まされている。このような深刻な状況が女性の経済・農業活動にも負の影響をもたらし、女性農家の収入向上や小規模ビジネスのポテンシャルが十分に活かされていないため、女性の経済的エンパワメントが困難となっている。

⁵ UNMISS, 8 May 2014. Conflict in South Sudan: A Human Rights Report

⁶ Supporting Survivors of Sexual and Gender Based Violence in South Sudan, UNDP South Sudan

http://www.ss.undp.org/content/south_sudan/en/home/ourwork/womenempowerment/successstories/Supporting-Survivors-Sexual-Gender-Based-Violence-South-Sudan.html

2.1.4 ジェンダーと食料安全保障

南スーダンの経済は食料安全保障のための自給的な農業に依存しており、大部分が小規模な家族経営の農家である。女性は南スーダンの農業の顔と言われるほど食料安全保障に貢献しており、自給農業の労働力の80%を占めているが、その貢献度はあまり認識されていない。都市への移住や内戦によって世帯主である男性が居なくなった結果、多くの世帯が女性の世帯主となり、農家に占める女性の割合が多くなった。そのため、女性の参加を促すことなしに農業生産を増加させることは難しい。

南スーダンにおける性別による農業生産性の違いにかかる明確なデータはないが、一般的にサブサハラアフリカ諸国の女性農家の農業生産性は、男性農家と比較し低い傾向にある⁷。これは、伝統的な家父長制と社会文化規範により、女性の家庭内での地位は低く、女性は土地や家畜といった農業資産、農業技術、投入財へのアクセスが限られており、家庭内の意思決定権も持っていない。さらに、女性と子どもは食料危機と栄養不足の影響を特に受けやすい脆弱な存在であり、その多くが避難民として現在も危機的状況にある。避難民の増加と治安の悪化により、もともと不安定だった食料安全保障の状況がさらに深刻化した。国連のHumanitarian Needs Overviewによると、2016年には390万人、つまり人口の3分の1近くが深刻な食料危機に陥った。内戦と不況により人々の生活は破壊され、家畜は略奪または殺され、穀物は壊滅または避難のために栽培時期を逃した。3分の1近くの妊婦と授乳中の女性が栄養不足になっている。何百万人という人々が農業を営めず、食料にアクセスできず、家畜の放牧ができないため、生計が成り立たない状況となっている。

2.1.5 女性の経済的エンパワメント

南スーダンの女性は経済発展及びエンパワメントの機会が非常に限られた状況にある。多くの女性はインフォーマルセクターで働き、未発達な自給的な農業を営んでいる。経済的エンパワメントの阻害要因としては、女性の識字率の低さ、土地、信用、投入財などの生産資源にアクセスできないこと、普及サービスにアクセスできないこと、ビジネススキルや経営能力が低いことが挙げられる。その背景には伝統的な慣習があり、女性の経済への参加を妨げている。

一般的に生産資源は男性に所有され、コントロールされている。包括的国家ジェンダーアセスメント（表6）によると、女性は土地を含む多くの生産資源へのアクセスはある程度できているが、所有とコントロールはほとんどできていないことが分かる。農村部の女性が土地へアクセスをする場合、夫や男性の親類の所有する土地へアクセスしている。2009年に土地法が制定され、女性と男性の平等な権利が明記されたものの、女性の土地に関する権利は未だに保障されず、夫を亡くした寡婦の権利さえも守られていない状況である。

⁷ The cost of the Gender Gap in Agricultural Productivity, World, UN Women, UNDP, UNEP and World Bank Group, 2015

表 6：男女別の生産資源へのアクセス・コントロール・所有

資源	アクセス		コントロール		所有	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
土地	3	5	1	5	1	5
労働力	5	3	5	3	5	3
食用穀物	5	4	5	4	5	4
換金作物	2	5	1	5	1	5
牛	2	5	1	5	1	5
ヤギ	2	5	1	5	1	5
家屋	2	5	4	5	1	5
車両	2	5	2	5	2	5
ロバ	3	5	1	5	1	5
鋤	5	5	5	5	5	5

注：アクセス、コントロール、所有の度合いを1（低い）から5（高い）で示している。
出典：Comprehensive Country Gender Assessment, MGCSW

政府にとって女性の経済的エンパワメントの課題は、計画されたプログラムや事業が財政不足により実施できないこと、支援を最も必要としている女性の現状が十分把握されていないことである。

2.2 南スーダンのジェンダー主流化政策

南スーダンの国家ジェンダー政策（National Gender Policy）は、幅広い関係者との協議を経て2012年に策定された。そのビジョンは、あらゆる差別と暴力から解放され、社会生活のすべての場面で女性、男性、子どもの人権が守られる国を実現することである。この政策の最終目標は、ジェンダー平等の視点がすべての法律、政策、プログラム、政府や民間組織の活動において組み込まれることで、文化・社会・政治・経済などあらゆる側面でジェンダー平等が実現されることである。また同政策は、ジェンダー平等と女性のエンパワメントに係る政府のコミットメントを表明しており、以下の8つの重点分野を示している。

- 1) ジェンダー平等と民主的な統治
- 2) ジェンダーと教育、能力強化
- 3) ジェンダー平等と保健
- 4) ジェンダーと食料安全保障
- 5) ジェンダーと女性の経済的エンパワメント
- 6) 性及びジェンダーに基づく暴力
- 7) ジェンダーと平和構築
- 8) ジェンダーと環境、自然資源管理

MGCSWはジェンダー平等と公正な社会を推進し、女性、子ども、障害者、その他の弱者の権利を守る中枢機関である。同省はジェンダー政策を実施し、中央及び州省庁、その他の政府機関、ドナー、NGO、市民組織、民間セクターなどの関係者を調整する責務を担っている。また以下の役割も持っている。

- ジェンダー平等や子どもの社会保障を推進するための政策やプログラムを策定する
- ジェンダー平等や障害といった課題を国家開発の中で主流化する
- 障害者や社会的弱者の権利と福祉を保障する
- 子どもや社会福祉のためのプログラムや施設を管理する

政府が効果的に国家ジェンダー政策を実施するため、以下の点が提案されているものの、未だ十分には達成されていない状況である。

- 詳細なジェンダー分析を実施し、ジェンダー予算システムを内部化するために、財務・経済計画省（MFEP）及びその他の政府機関の能力を強化する
- すべての計画と予算においてジェンダー配慮を行う
- 国家予算の30%をジェンダー主流化のために配分する

国家ジェンダー政策では省庁横断的ジェンダー調整委員会の設置とすべての省庁にジェンダー担当官を配置することが提言されている。しかしながら、委員会は 2016 年に設置されたばかりで十分に機能していないこともあり、各省におけるジェンダー主流化はあまり進んでいない。

2.2.1 経済・農業関連省庁におけるジェンダーに配慮した政策と戦略

ワークショップ中の議論によると、経済・農業関連省庁の現在の政策と戦略は、男女の異なる役割やニーズを考慮して作成されたものが多いことから、ある程度ジェンダーに配慮していると言える。しかしながら、それらは男女別の統計データや最新の情報に基づいて作成されたものではないことも指摘された。長年の内戦と不況により、多くの省庁にとって現場での調査やアセスメントを通してデータを収集することは非常に困難である。また、ジェンダーの視点に立ったデータ収集と分析に関する行政官の能力が十分でないことも一因となっている。ワークショップの中で以下のような男女別のデータが各省で不足していること、経済・農業分野における女性の貢献が統計上は認識されていないことが明らかとなった。

- 農業普及員として働く女性と男性の数
- インフォーマルセクターに従事している女性と男性の数
- フォーマルセクターに従事している女性と男性の数
- フォーマル及びインフォーマルなビジネスを始めた女性と男性の資金源
- 公的セクターに従事する女性と男性の数
- 民間セクターに従事する女性と男性の数
- 女性及び男性の年金と社会保障に関する情報

南スーダンでは今後、現在の政策や戦略をジェンダーの視点から見直し、明確なジェンダー指標を取り入れていく必要がある。また、それらの政策や戦略を実施するための中央・州の職員的能力向上も不可欠である。下表はワークショップの成果としてまとめた経済・農業関連省庁のアクションプランであり、サブセクターごとのジェンダー課題、必要な政策介入、ジェンダーに配慮した政策を実施するための活動を示している。

表7：ジェンダーに配慮した政策に関する経済・農業関連省庁のアクションプラン

ジェンダー・子ども・社会保障省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
ジェンダー主流化	<ul style="list-style-type: none"> 男女別データが不足している 開発パートナーや関連省庁との連携が弱い ジェンダー担当官の能力が不十分している 女性の経済的エンパワメントが不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> 全省庁におけるジェンダー主流化の推進 省庁横断的ジェンダー調整委員会の活性化 国家ジェンダー政策、アファーマティブアクション、障害者政策、社会保障政策、児童福祉法のレビューと策定 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な省庁横断的ジェンダー調整委員会の開催 全中央・州政府におけるジェンダー担当官配置の推進 全中央・州政府におけるジェンダー主流化研修の実施
農業・食料安全保障省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
穀物	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーユニット、ジェンダー委員会が設置されていない 政策におけるジェンダー視点の指標が欠如している 女性農家の土地、投入財、信用へのアクセスが制限されている 女性農家の農業技術、投入財、市場へのアクセスが制限されている 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁の全プログラム・事業におけるジェンダー・横断的課題の主流化 ジェンダーユニット、ジェンダー委員会の設置 生産増加と生産性向上のための女性への農業投入財の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁職員に対するジェンダー研修の実施 ジェンダーユニット、ジェンダー委員会の設置 ジェンダー委員会との会議の開催 ジェンダー委員会に対する意識向上研修の実施
畜産・漁業省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
普及	<ul style="list-style-type: none"> 女性の普及サービスへのアクセスが制限されている 女性普及員が少ない 女性は資産のコントロールができない 	<ul style="list-style-type: none"> 女性普及員増加のためのアファーマティブアクション 	<ul style="list-style-type: none"> 女性普及員 10名の採用
組織的能力強化	<ul style="list-style-type: none"> 省庁においてジェンダーに配慮した計画・予算策定がなされていない 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁の管理職や職員に対するアドボカシーや意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の研修の実施
研修と推進	<ul style="list-style-type: none"> 省庁内に女性の上級職もしくは管理職が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 女性職員を対象としたアファーマティブアクションと上級職への推進 	<ul style="list-style-type: none"> 女性職員5名の国内、海外のリーダーシップ及びマネージメント研修の受講 2名の女性職員の上級職への昇進
ジェンダーワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> 省庁内のジェンダーに関する情報整備がされていない 	<ul style="list-style-type: none"> 計画・予算策定におけるジェンダー主流化の保障 ジェンダーに配慮した計画・予算策定 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーワーキンググループの設立 月例会議の実施
水資源・灌漑省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
ジェンダー主流化	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーに関する知識が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーに関する意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化に係るワークショップの実

	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化ガイドラインが作成されていない ジェンダーに関する研修ニーズアセスメントが実施されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の政策にジェンダー問題の取り込み及びジェンダー視点の適用 省庁のジェンダー担当官とジェンダー委員会の能力強化 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁の資料からジェンダー格差のレビュー 行政官対象の研修ニーズアセスメントの実施
水と衛生	<ul style="list-style-type: none"> 省庁の事業内のジェンダー格差を特定する 給水・衛生施設のモニタリング及び評価が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー監査の実施 給水・衛生施設や水利用組合の運営のフォローアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーアセスメントツールの導入 ジェンダーに関する調査の実施 モニタリング・評価のツールの査定 フィールド視察、インタビュー、脆弱性アセスメントの実施
労働・公共事業・人材開発省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
労働・産業関連	<ul style="list-style-type: none"> 職場と社会における男女の力関係が不均衡である 雇用機会が不平等である 行政能力が不均衡である 労働及び産業政策がジェンダーに配慮されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 社会における男女の基本的な権利の保障 平等な雇用及び研修機会の保障 労働・産業政策におけるジェンダー主流化 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化政策のレビュー 男女別データ収集アセスメントのための実施 産業振興に係るジェンダーの重要性の意識向上 モニタリング・評価 会議の実施
職業訓練と起業家育成	<ul style="list-style-type: none"> 男女間の職業訓練機会が不平等である スキルを選択する際に男女間で固定概念がある 政策がジェンダーに配慮されていない 規制枠組みがジェンダーに配慮されていない 男女間で講師の数に差がある 研修インフラが不足している 男女では社会で直面する問題が違う 男女別データが不足している 退職前のオリエンテーションがジェンダーに配慮されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 男女間の平等な職業訓練機会 センターで働く女性職員の増加 政策及び規制枠組みのジェンダー主流化 女性の需要を満たすインフラの提供 職業訓練におけるアフターマティブアクションの実施 年金と社会保障政策のジェンダー主流化 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化政策のレビュー 指導者や講師志願に関する女性への宣伝と推進 講師のジェンダーに係る意識向上 女性や少女へ準備研修の提供 男女別データ収集のためのアセスメントの実施 退職前オリエンテーションの内容の構築 年金と社会保障基金の成果の査定
通商・産業・投資省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
ジェンダー主流化	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー担当官とジェンダー委員会の業務を支援するための物資が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー担当官とジェンダー委員会の能力強化と業務の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁内のジェンダー担当官の任命 省庁内のジェンダー委員会の設立 委員会会議の実施 ジェンダー主流化研修

			の実施 ・意識向上とアドボカシー ・他省庁との連携
ビジネススキルと起業家育成	・女性の能力とビジネススキルが十分でない ・男女が利用できるビジネス開発センターがない	・男女が利用できるビジネス開発センターの設立	・コンサルタント会社の雇用 ・開発計画（予算ベース） ・センターの建設 ・センターの運営
ビジネススキルと起業家育成	・女性の生産財へのアクセスが制限されている ・男女ともに起業やビジネスを拡大するための資本が不足している	・男女が利用できる企業開発基金の設立	・コンサルタント会社の雇用 ・企業開発基金の設立と運営 ・起業家へ元手資金の提供
財務・経済計画省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
ジェンダー主流化	・省庁内の全セクターで職員の昇進においてジェンダー格差がある	・差別のない女性の上級職への昇進	・全課の職員の登録
女性参加	・省庁で意思決定権のある女性管理職が少ない	・差別のない職員の能力強化	・能力強化（研修やスキルの取得）
ジェンダーコンプライアンス	・全省庁においてジェンダー政策とジェンダーに配慮した予算策定が履行されていない	・ジェンダーに配慮した予算認定書を発行する平等機会委員会の設立	・地域事務所への職員の配属
環境・林業省			
サブセクター	ジェンダー課題	必要な政策介入	活動
ジェンダー主流化	・ジェンダー担当官とジェンダーユニット、ジェンダー委員会の能力が不十分である	・ジェンダーユニットとジェンダー委員会の能力強化	・会議と研修の実施 ・調査の実施
環境	・環境社会影響アセスメント（ESIA）の公聴会への参加が少ない	・環境アセスメントの意思決定過程におけるコミュニティによる参加の関心の向上	・関係者やコミュニティの住民との会議の実施
自然資源	・林産品の開発と活用	・女性のエンパワメントと貧困削減	・森林の活用と林産品の利益に関する関心の向上 ・森林減少を防ぐための省エネ技術の導入（燃料、炭、材木）

各省庁では独自のジェンダー課題を特定し、政策介入を提案しているが、共通の課題も下記のとおり共有された。

- ・多くの経済・農業関連省庁において、ジェンダーやジェンダー平等に関する理解が不足しており、未だにジェンダーを女性のみの問題として捉えている職員が多いのが現状である。彼らのマインドセットや態度を変えるには、より多くの啓発活動が必要である。
- ・多くの経済・農業関連省庁において職員数の男女比のアンバランスが大きな課題である。

女性の割合の目標値を25%以上と定めたアファーマティブアクション（差別是正措置）が十分に実施されておらず、上級職を目指す女性も少ないため、女性の管理職は非常に少ない。今後、新規採用におけるアファーマティブアクションを強化する必要がある。

- 経済・農業関連省庁の職員に対する能力強化も十分に実施されていないため、ジェンダー主流化について適切に理解している職員が不足している。そのため、ジェンダー担当官のみならず次官、局長、課長など管理職の能力強化を行うことが重要である。ジェンダー分析やジェンダーに配慮した計画や予算について、より多くの研修、会議、議論を行わなければならない。
- ジェンダー主流化を推進する法的枠組みを整備するためには、政治的な支援が得られるようなロビー活動やアドボカシーも重要である。
- 経済・農業関連省庁のジェンダー主流化の実施メカニズムは、中央レベルでも州レベルでもまだ弱いと言える。ジェンダーユニットやジェンダー委員会を既に設置した省庁もあれば、まだ設置できていない省庁もある。各省庁のジェンダー担当官は運営のための予算を持っておらず、ジェンダー関連活動を行うのが非常に難しい。
- コミュニティレベルでジェンダー主流化を行うためには、女性の教師、女性の農業普及員、女性の畜産指導者を増やし、彼女たちの能力強化のためのプログラムが必要である。
- 省庁横断的な連携も弱いため、ジェンダー調整委員会を活性化させ、国家ジェンダー政策の実施状況をモニタリングしたり、男女別のデータや情報を共有したり、すべてのセクターにおけるジェンダーに関する行政官の能力強化計画を作成することが必要である。

2.2.2 ジェンダー予算

南スーダン政府ではジェンダー予算の制度はまだ導入されていない。前節で述べたとおり、国家ジェンダー政策では、ジェンダー予算を導入することですべての政策、法律、プログラム、事業にジェンダー視点を組み、異なる男女のニーズに対応すべきであると提言している。また、ジェンダー予算の達成に向けて、定期的に国家予算及びすべてのセクターの予算をジェンダー視点から見直し、ジェンダー課題を見つけ出すことが重要だと述べている。ジェンダー政策の実施のためには、MGCSW と MFEP が協働でジェンダー予算の導入プロセスや体制を調整することが求められている。加えて、MFEP は経済・農業関連省庁のみならずすべての省庁の年度計画や予算がジェンダーの視点から策定されているかをモニターする役割が期待されている。

しかしながら、現在の危機的な経済状況では、南スーダンのほとんどの省庁でジェンダー主流化は優先課題ではなく、ジェンダー関連活動の予算を確保するのは非常に困難である。経済・農業関連省庁においても、ジェンダーユニットや委員会は予算を持っておらず、各省庁がドナーなど外部からの支援を受けない限り、プログラム・事業の予算を確保できない状況である。現行の予算制度では各省庁の上限額が MFEP によって決められており、予算書の中にはジェンダー主流化活動に関する項目がない。また、南スーダンでは予算が計画通りに執行されるかどうか不透明な状況が続いており、上級職の判断や優先順位が変わると、予算の執行や使途も

影響を受ける。そのため、ジェンダーに配慮した政策が策定されても、実施するための予算がつかないことが多い。

実際のところ、ジェンダー予算は追加の予算を必要とするわけではない。ジェンダー予算を導入するためには、現在の政策や計画をジェンダーの視点から見直し、ジェンダー課題を拾い上げ、男女の異なるニーズに沿った形で予算の再配分をすることが重要である。現在の予算の範囲内で、ジェンダー主流化活動を他の活動に組み込む工夫をしなければならない。例えば、職員のトレーニングの予算項目の中に、ジェンダー主流化の研修を含めることはどの省庁においても可能である。

2.3 ジェンダー及び社会的弱者に配慮した経済・農業分野のプログラム・事業実施の優良事例と教訓

ワークショップの中で参加者は、ウガンダのジェンダーに配慮した政策、計画、プログラム、事業の知見と経験について学ぶ機会があった。第1回ワークショップではウガンダのジェンダー・労働・社会開発省が国家ジェンダー政策やジェンダー予算について講義を行った。第2回ワークショップでは、参加者が北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（Northern Uganda Farmers' Livelihood Improvement Project: NUFLIP）の現場を訪問し、ジェンダーに配慮した農業分野の事業を視察することができたほか、紛争影響地域で社会的弱者を技術的・経済的に支援するテラ・ルネッサンスという日本のNGOを訪問した。これらの講義や視察を通じて、参加者は以下の優良事例と教訓を学んだ。

1) 優良事例

- ウガンダではジェンダーと開発（GAD）及び女性と開発（WID）の両方のアプローチを政府のプログラムや事業で適用している。Uganda Women's Entrepreneurship Programme（UWEP）はWIDアプローチに基づいており、特に貧困女性への経済的支援を行っている。ジェンダー不平等が深刻な地域では、特別プログラムとして女性や弱者のみをターゲットにすることも重要である。
- ジェンダー予算を導入するためには、中央省庁として法的枠組みを整える必要がある。ウガンダでは2015年に公共財政管理法（Public Finance Management）を制定し、ジェンダーコンプライアンスの規定を定めた。各省の予算書がジェンダー及び社会的弱者配慮の視点から作成されているかをチェックし、財務大臣が許可書を発行する仕組みを整えた。
- ウガンダのジェンダー予算導入の経験を踏まえると、関連法を制定するなど法的枠組みを整えなければならないため、短期間に達成できるものではない。南スーダンでも中・長期的な取り組みとして、すべての省庁において予算サイクルの中にジェンダー視点を導入していくことから始めるべきである。
- コミュニティレベルでプログラムや事業を実施する際には、NGO・市民組織の役割が非常に重要である。ウガンダでは政府とNGO・市民組織のネットワークが強く、予算の策定にも参加している。

- NUFLIP の対象農家グループはよく組織化されており、生計向上を目指して協働している。また、農家グループメンバーは、圃場の問題はチームの問題として捉えている。
- NUFLIP の対象農家グループは、伝統的な農法を科学的な農法に改善したり、家計管理のための現金管理を導入したりと、新しいアイデアを受け入れている。
- NUFLIP の対象農家グループでは女性、男性、障害を持った人々が一緒に働くことで、ジェンダーや社会的弱者に配慮した活動を行い、お互いに助け合っている。
- NUFLIP が導入している野菜栽培技術や食料在庫管理カレンダー、現金管理ツールなどは、小規模農家の生計向上にとって効果的である。
- 文字や数字の代わりに絵や写真を使うなど、NUFLIP の教材は非識字者にとってわかりやすく参加しやすい工夫がある。
- NUFLIP では夫婦がともに家族の家計管理計画について話し合い、協力し合っている。
- テラ・ルネッサンスの職業訓練支援は、内戦中に LRA に誘拐され、自ら少年兵としてコミュニティに危害を加えた経験を持つ人々をコミュニティへ戻し、彼らと地域住民を和解させるためにとても重要である。

2) 教訓

- より多くの女性が計画及び予算策定のプロセスに参加することができれば、女性のニーズや優先順位が公的サービスによってカバーされる可能性も高まる。
- より公平で持続的な発展のためには、社会的弱者を計画及び予算策定に参加させることが不可欠である。これは特に紛争の影響を受けた場所で、寡婦、障害者、国内避難民、孤児、子どもが世帯主の世帯など、社会的弱者が差別や偏見に苦しんでいる地域に当てはまる。
- ジェンダー予算の導入には、明確で強い政治的な意思が必要である。
- 予算の規模はマクロ経済に関する政府の判断によって変わってくる。ジェンダー予算の導入は税金や貿易といったマクロ経済政策にジェンダーの視点を組み込むための重要なステップになる。
- 女性農家の組織化はエンパワメントに効果的な手段である。どのように食料の在庫を管理し、現金を管理するかを学ぶことは生計向上にとって非常に重要である。まだ女性は自然環境からの恩恵を受ける立場として、持続的な資源管理についても学ぶ必要がある。
- 対象農家をグループに分ける際、障害者などの社会的弱者をグループに組み込むことが重要である。グループワークを通してチームワークやコミュニティ意識を育て、互いに助け合うことができるようになる。
- 多くの人たちが飢餓で苦しんでいる南スーダンでは、自給農家は自分たちで食料在庫管理の方法を知る必要がある。
- 紛争中に形成されたマインドを変えるには時間がかかるため、元少年兵を訓練し、精神面のサポートを長期間に渡って行うことが重要である。
- 南スーダンにはもっと多くの職業訓練校が必要である。元少年兵や寡婦、障害者などを優先し、彼らに教育を受けさせることが望ましい。

- MGCSW は、女性や社会的弱者を対象とした収入向上活動支援や企業化支援を行うべきである。
- 農家グループのための圃場を設置し、よくトレーニングされた農業普及員から栽培技術を学ぶことは効果的である。
- コミュニティで農家とともに働く農業普及員をトレーニングしなければならない。
- 事業の開始時には、ベースライン調査としてジェンダーの視点から情報収集と分析を行うことが必要である。
- テラ・ルネッサンスのプロジェクトから、障害を持つことは能力がないことではないと学んだ。職業訓練を通じて内戦中に誘拐された若者がさまざまな問題を解決し、心を癒していることがわかった。
- 内戦後にコミュニティ内でも和解を促すことが平和の維持にとって特に重要であることがわかった。

Box 1: 北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト

アチョリ地域では、長期間の内戦の影響により農業に従事した経験の少ない農家が多く、男性の農業従事率が低く、寡婦世帯が多いなど、農家世帯としての基盤が弱い。そのため、農家世帯の生計向上を実現するためには、世帯の代表者に技術支援を行うだけでなく、他の家族にも本プロジェクトのアプローチや意義を明確に理解してもらい、家族全員がプロジェクト活動に協力する環境を作り、家族全員の裨益と幸福を実現する仕掛けを作っていくことが重要である。プロジェクトでは、市場志向型農業、ジェンダー、家計管理などの研修を「子供も大人も含めた家族全員の裨益」を達成するための生計向上アプローチとして統合化し、家族全体の底上げを実現する。この家族全員の裨益の実現のため、①市場志向型農業の実践により、どのように収入を増加させるか、②その収益を何のためにどのように使うか、③家庭内でどのように労働分担するか、④家族（特に子供）の健康を維持するためにどのような取り組みを行うかなどを家庭内での話し合いを通じて決定することを推奨している。



播種の研修に参加する女性と男性の農家



研修教材は非識字者向け



家計管理についてカレンダーを作成しながら話し合う夫婦

プロジェクト期間：2015年12月-2020年11月

実施機関：農業畜産水産省 (MAAIF), グル、キトゥグム、パデル、アムル、ヌウォヤ、ラムオ、アカゴ、オモロ県

支援機関：JICA

対象地域：アチョリ地域 8 県 (約 30,000km²)

対象人口：約 150 万人

Box 2: テラ・ルネッサンス (グル事務所)

2006年からグルで活動をしている日本のNGOで、神の抵抗軍によって誘拐された元少年兵をコミュニティに社会復帰させることを目標にしている。彼らの理念は、「すべての人は未来を作る力を持っている、本当の変化は人間の内部の変化から始まり、すべては常に変化している」ことである。現在は彼らの自立のためのスマイルハウスと呼ばれるセンターを運営し、4つのプロジェクトを実施している。

- 1) 能力強化支援：1年半の職業訓練コースで木工、洋裁、ドレス作り、ドレスデザイン、工芸品、識字クラスがある。
- 2) 短期的支援：トレーニング期間中に食料、医療、住居を提供する。

- 3) 心理的支援：個別またはグループカウンセリング、平和教育、伝統ダンスや音楽、演劇クラスがあり、トラウマの軽減や心理的な安定を目指す。
- 4) 小規模ビジネス支援：トレーニング終了後、ビジネスを始めるための初期投資と継続するためのマイクロファイナンスを提供する。最初の1年間の税金の支払いを助け、地方政府からのビジネスライセンス取得のサポートも行う。

		
誘拐された少女が参加する洋裁のクラス	誘拐された少年が参加する木工のクラス	南スーダンの参加者とスマイルハウス
支援機関：テラ・ルネッサンス（京都）		
対象地域：グル市内、対象者：誘拐されて帰還した少年・少女、及び近隣の学校をドロップアウトした子ども・孤児		

2.4 経済・農業分野のジェンダー主流化に向けた中央・州政府の能力強化と連携強化

第2回ワークショップにおいて、経済・農業分野のジェンダー主流化に関する行政官の能力強化計画を中央と州レベルで作成した。計画内容には能力強化の対象者、優先分野や実施方法を盛り込んだ。さらに、中央と州省庁の連携をどのように強化していくかを議論し、いくつかの活動を提案した。そのポイントは以下のとおり。

- 次官レベルはジェンダー主流化に関する包括的な知見を身につける必要があり、ジェンダーに配慮した計画・予算の策定、アドボカシーやロビー活動、リーダーシップに関する研修が必要である。
- 局長レベルもジェンダー主流化に関する包括的な知識を身につける必要があり、ジェンダーに配慮した計画・予算の策定、ジェンダー分析、ジェンダーに配慮したPCM手法、プロポーザル作成に関する研修が必要である。
- ジェンダー担当官と課長レベルは、他省庁との調整能力、ジェンダー啓発を行うファシリテーション能力、ジェンダー分析や男女別データ収集、ジェンダーに配慮した計画・予算の策定やPCM手法についての実践スキルに関する研修が必要である。
- 研修の実施にあたっては、特にジェンダー担当官の能力向上のための指導者研修（TOT）を行うことを優先すべきである。その他、ワークショップ、交流訪問、フィールド訪問、メンターやコーチング、会議を通じた日常的な情報交換などを通じた能力強化が考えられる。また、ジェンダー研修を行うための研修計画とマニュアル作りが不可欠である。
- 中央と州省庁間では定期的に会議が開催されていないため、連携体制を構築するためには、より頻繁な合同会議や合同ワークショップが必要である。

表8：経済・農業分野におけるジェンダー主流化のための能力強化計画

	対象者	能力強化の優先分野	能力強化の手段
中央レベル	Undersecretary (次官)	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化に関する知識 ジェンダーに配慮した計画・予算の策定 PCM アドボカシーやロビー活動 リーダーシップスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を通しての情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察
	Director General (局長)	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化に関する知識 ジェンダーに配慮した計画・予算の策定 ジェンダー分析 PCM プロポーザルのライティングスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を通しての情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察
	Director / Gender Focal Person (課長/ジェンダー担当官)	<ul style="list-style-type: none"> 他省庁とのコーディネーションスキル ジェンダー啓発ワークショップにおけるファシリテーションスキル ジェンダー分析と情報収集 PCM ジェンダーに配慮した計画・予算の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁横断的ジェンダー調整委員会開催時の情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察/フィールド視察
	Inspector	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー分析と情報収集 ファシリテーションスキル モニタリング・評価スキル 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を通しての情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察/フィールド視察 メンタリングと指導
州レベル	Director General (局長)	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー主流化に関する知識 ジェンダーに配慮した計画・予算の策定 ジェンダー分析 PCM アドボカシーやロビー活動 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を通しての情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察
	Director / Gender Focal Person (課長/ジェンダー担当官)	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーションスキル ファシリテーションスキル ジェンダー分析と情報収集 PCM ジェンダーに配慮した計画・予算の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 省庁横断的ジェンダー調整委員会開催時の情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察/フィールド視察
	Inspector	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーションスキル ジェンダー分析と情報収集 モニタリング・評価スキル 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を通しての情報共有 トレーニングワークショップ 相互視察/フィールド視察 メンタリングと指導

3. 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状と課題

3.1 東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状と課題

経済的エンパワメントとは、女性と男性が経済成長のプロセスに参加し、貢献する意義を感じながら、互いを尊重し合い、公平な便益を得るために能力を身につけていくことを意味する。経済的エンパワメントによって、女性も男性も雇用や資産、金融サービス、技術、市場情報といった経済資源や機会へアクセスしやすくなる。経済的エンパワメントは持続可能な開発の前提条件であり、貧困削減や経済成長の手段でもある。女性の経済的力が高まることはジェンダー平等の達成のみならず、貧困撲滅に有効な経済成長にとっても必要不可欠である。また、ジェンダー平等は女性だけでなく、家族や社会にとっても良い結果を生み出す。さらに、ジェンダー平等を推進するためには、女性や男性だけでなく、障害者や国内避難民、元兵士、紛争生存者や被害者、エイズや慢性疾患患者など社会的弱者への配慮を促していくことも重要である。

本節では、第3回ワークショップにおいて、南スーダンやウガンダ、ケニア、ルワンダからの参加者が共有した知見と経験を基に、東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る現状や問題点の概要を説明する。

3.1.1 経済参加・資源へのアクセスとコントロール・経済的自立

1) 経済参加

東アフリカ諸国と他地域を比較した女性の経済参加に関する指標を下表に示す。東アフリカ諸国の女性の労働参加率（62%～86%）は、サブサハラアフリカやラテンアメリカ・カリブ、東アジア・太平洋など他地域の参加率（55%から 64%）と比べて高くなっている。しかしながら、女性の正規フルタイム労働者の割合は、東アフリカ諸国も他地域と同様（29%から 40%）で、南スーダンでは非常に低く（23.3%）なっている。南スーダンでは、女性トップ管理職を持つ企業の割合（9.5%）や女性経営企業の割合（21.9%）も他地域と比較して非常に低くなっている。これは、企業の重要な決定事項に対する女性の影響力が低いことを意味している。

表9：女性の経済参加に関する主な指標

指標	南スーダン	ウガンダ	ケニア	ルワンダ	サブサハラ アフリカ	ラテンア メリカ& カリブ	東アジア& 太平洋
女性の労働参加率 ⁸	N/A	76%	62%	86%	64%	55%	63%
女性の正規フルタイム労働者の割合 ⁹	23.3%	40.1%	29.1%	32.4%	29.3%	37.9%	37.5%
女性トップ管理職を持つ企業の割合 ¹⁰	9.5%	15.4%	13.4%	19.7%	15.3%	21.5%	21.4%
女性経営の企業の割合 ¹¹	21.9%	26.6%	48.7%	42.7%	36.0%	39.8%	53.8%

東アフリカ諸国では女性が経営する企業の数が増加している。ウガンダでは、過去10年間で女性経営の企業が236%増加したが、これは男性経営の企業の増加率（153%）に比べて1.5倍である¹²。ケニアでは、2000年以降約46万2千の企業が毎年設立されているが、44万5千の企業がインフォーマルセクターで、そのうち約85%は女性経営の企業である¹³。女性経営の企業は主に零細・小企業として国家経済に多大な貢献をしている。ケニアでは、企業の48.7%が女性経営であり、GDPの約20%に貢献している¹⁴。ルワンダでは、企業の42.7%が女性経営者で、インフォーマルセクターでは58%となり、GDPの約30%を占めている¹⁵。

このような女性たちの潜在能力に関わらず、女性経営の企業は雇っている従業員の数は少なく、従業員のほとんどが家族や見習いとなっている。女性は仕事だけでなく家事も同時に行うため、家から仕事の指示を出すなど工夫をしながら、仕事と家事を両立させている。経済活動に従事している大多数の女性は、農業、農産品加工、食品加工、衣料品、小売業、サービス業などのインフォーマルセクターに属している。

下表は東アフリカ諸国の大部分の女性労働者が農業に従事していることを示している。南スーダンでは、80%以上の女性が家族労働者として農業に従事している¹⁶。男性が換金作物を育て市場で売るのに対し、女性は主に家族のための食料として作物を栽培している。非農業分野・非伝統的分野で働く女性の数は増えているが、女性の多くはインフォーマルセクターの小規模ビジネスに従事し、男性よりも収入が少ない。

⁸ The Little Data Book on Gender, World Bank, 2016

⁹ Enterprise Surveys, South Sudan in 2014, Uganda in 2013, Kenya in 2013, Rwanda in 2011, Sub-Saharan Africa in 2014, Latin America and Caribbean in 2015, East Asia and Pacific in 2015, World Bank and International Finance Cooperation

¹⁰ Ibid

¹¹ Ibid

¹² Women's Entrepreneurship Development in Uganda, International Labour Organization, 2014

¹³ Voice of Women Entrepreneurs in Kenya, International Finance Cooperation, 2008

¹⁴ Voice of Women Entrepreneurs in Kenya, International Finance Cooperation, 2008

¹⁵ Voice of Women Entrepreneurs in Rwanda, International Finance Cooperation, 2006

¹⁶ Immaculata Maina, South Sudan Food Security: Gender Equity Scoping Report to CIDA South Sudan Programme, 2011

表 10：農業とインフォーマルセクターにおける女性労働者に関する主な指標

指標	南スーダン	ウガンダ	ケニア	ルワンダ
農業に従事する女性の割合 (自給のための農業生産を含む) ¹⁷	84.0%	76.7%	68.0%	84.4%
無償家族労働者の女性の割合 ¹⁸	80%	43.3%	53.2%	44.6%
インフォーマルセクターに従事する女性の割合 ¹⁹	N/A	86.2%	71%	87.7%
自営で働く女性の割合 ²⁰	N/A	92%	78%	23.7%

社会的弱者の経済参加はまだ活発ではなく、彼らに対する嫌悪や差別は経済参加への大きな制約となっている。南スーダンでは、社会的弱者の多くが家を追われて避難し、仕事がない状況にある。

2) 生産的資源へのアクセスとコントロール

女性がビジネスを始め経営を続けていくと、男性より多くの課題に直面する傾向にある。これは、農村地域において、女性が男性に比べ生産資源や資本へのアクセスで不利な立場にあることが原因である。教育レベルが低いことや土地などの担保がないことから、女性は資本や融資へのアクセスが制限されている。また、読み書きが出来ないため、契約書に署名できない女性も大勢いる。

南スーダンやウガンダ、ケニアでは、農村女性の多くが土地や家、家畜といった資産の所有権を持たず、夫や男性の親族が所有している場合が多い。憲法では全国民に平等な権利が保障されているにも関わらず、伝統的な家父長制や慣習法によって男女間に不平等な力関係が残っている。ケニアでは、土地所有権のわずか1%が女性の名義となっており、5~6%が共同名義となっている²¹。ウガンダでは、16%の女性が登記された土地を所有している²²。ルワンダでは他国よりも高く、31.6%の土地が女性名義となっている²³。土地や他資産への不平等なアクセスは、女性がビジネスを始める際に融資を受けられない障害となっている。男性と同様に女性が土地や資産を平等に所有し、管理することができれば、農業生産力も上がり、家族の食料安全保障も改善することができる。

3) 経済的自立

東アフリカの農村女性は、家庭内や社会における地位が低く、自信や自己肯定感を持ってない場合が多い。女性は自分の人生や家計についての意思決定権がなく、女性が収入を得ても、お金

¹⁷ South Sudan Statistical Yearbook 2011, National Bureau of Statistics and Key Indicators of the Labour Market database, Uganda in 2013, Kenya in 2005, Rwanda in 2012, International Labour Organization

¹⁸ The Little Data Book on Gender, World Bank, 2016, Analysis of Gender and Youth Employment in Rwanda, African Development Bank, 2014

¹⁹ Uganda Bureau of Statistics, 2013, Kenya Labour Market Profile 2016, and Labour Force Survey Report, National Institute of Statistics of Rwanda, 2016

²⁰ The Little Data Book on Gender, World Bank, 2016, and Labour Force Survey Report, National Institute of Statistics of Rwanda, 2016

²¹ Voice of Women Entrepreneurs in Kenya, International Finance Cooperation, 2006

²² Women's Entrepreneurship Development in Uganda, International Labour Organization, 2014

²³ Voice of Women Entrepreneurs in Rwanda, International Finance Cooperation, 2008

をどのように使うかを決めるのは男性である。これは、家族やコミュニティにおける社会文化規範に因るところが大きい。このような障壁を取り除くためには、女性の経済的自立に関する考え方を変える必要がある。女性が自分の収入に関する意思決定権を持てるようになると、子どもの教育や健康、栄養改善のためにお金を使い、家族全員の生活の質の向上につながりやすい。

3.1.2 女性の起業家支援

男性経営の企業と比べ、女性経営の企業は規模が小さく、利益獲得や成長の見込みが低い分野に集中している。男女が選ぶ仕事の分野には固定概念があり、例えば東アフリカの女性がエンジニアになるのは壁がある。ルワンダでは、大多数の女性起業家が小売業（82%）に従事し、残りはサービス業（16~17%）や製造業（1~2%）に集中している²⁴。ケニアでは、女性経営の企業の75%が小売業及びサービス業に従事しており、その中でも技術サービスとケータリングサービスが多くを占めている²⁵。ウガンダでは、大多数の女性企業は小売業（60%）及び宿泊・飲食サービス業（19%）に集中している²⁶。

女性経営のビジネスは長続きしない傾向にあり、2年以上経営を続けることが難しい。ケニアでは、3年以上経営している女性起業家はわずか10%しかいない²⁷。女性は研修を受けたり、新しい知識や技術を取得したりする機会が限られている。経営能力や専門的なスキルの欠如、研修への参加機会の欠如は、ビジネスの成功において阻害要因となっている。

3.1.3 政府の支援及びNGO・市民組織の現状

女性起業家にとって制約は多いものの、東アフリカは女性の起業家支援において一定の成果を遂げてきた。これらの成果は、女性が立ち上げたNGOや市民組織の支援によるところが大きい。South Sudan Entrepreneurship Association、Rwanda Women's NetworkやRwanda Chamber of Women Entrepreneurs、Women of Uganda NetworkやUganda Women's Entrepreneurs Association Limited、ケニアのFederation of Women Entrepreneurs Associations、Association of Women in Agricultural Network、Organisation of Women in International Tradeなどは、小規模な女性組織をとりまとめるネットワーク型組織としてジェンダー平等や女性の経済的エンパワメントの提唱に重要な役割を果たしてきた。

他方、これらの組織の活動は政府の積極的な取り組みによって支えられている。南スーダン、ウガンダ、ケニア、ルワンダでは国家ジェンダー政策が策定されており、女性起業家支援やアフーマティブアクション（差別是正措置）に関する政策も含まれている。政府の取り組みの優先分野としては、ジェンダーに配慮した政策と規定の策定、ジェンダーに関する意識向上や

²⁴ Voice of Women Entrepreneurs in Rwanda, International Finance Cooperation, 2008

²⁵ Voice of Women Entrepreneurs in Kenya, International Finance Cooperation, 2006

²⁶ Women's Entrepreneurship Development in Uganda, International Labour Organization, 2014

²⁷ 第3回ワークショップのOrganisation for Women in International Trade in Kenyaによるプレゼンテーションに基づく。同様のデータはIOSR Journal of Humanities And Social Science (IOSR-JHSS), Constraints Facing Women Entrepreneurs In Kenya: A Case Study of Micro And Small Enterprises in Kisii County, Volume 16, Issue 6, 2013にも記載。

啓発活動、ビジネススキル研修や市場情報の提供、生産資産と財政的支援へのアクセスの向上、インフォーマルセクターのビジネスに関する調査、女性に対する負の文化的慣習の排除である。

南スーダンのジェンダー・子ども・社会保障省（MGCSW）は州政府のジェンダー・教育省と協力し、世界銀行を通して Multi-Donor Trust Fund（MDTF）から資金提供を受け、女性の経済的エンパワメントプロジェクト（Women Economic Empowerment Project）を実施してきた。国際連合工業開発機関（UNIDO）は女性の経済活動支援ための施設を建設し、カナダ政府からの支援を受け、野菜栽培や加工、包装などの活動を行ってきた。現在の政治・経済状況では、南スーダン政府が独自にジェンダー平等や女性の経済的エンパワメントの政策を実施するのは難しい。政府の予算は職員の給与と日常業務に使われ、プログラムや事業を実施するための予算が不足しているためである。

表 11 にウガンダ・ケニア・ルワンダにおける女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る主な政策とプログラム・事業を示す。

ウガンダではジェンダー・労働・社会開発省が主導し、2016 年より 5 年計画で Uganda Women's Entrepreneurship Programme を実施している。このプログラムの目的は、女性の金融サービスへのアクセス向上と、企業成長の戦略、製品やサービスの付加価値の付け方、マーケティング戦略を女性に提供することである。このプログラムによって、対象の貧困女性が収入向上のために起業する場合、女性エンパワメント基金から無利子で融資を受けられるようになった。

ケニア政府は Vision2030 で掲げた公正な社会とジェンダー平等の実現に向けて、数多くの政策を基金という形で実施してきた。Uwezo Fund は Vision2030 を達成するためのフラグシッププログラムとして、女性・青年・障害者の融資を通して金融へのアクセスを向上させ、ビジネス支援や起業化支援を行っている。また、ケニア政府は労働力調査を実施し、無償労働やインフォーマルセクターにおける男女別のデータを収集した。さらに、国家アファーマティブアクション基金（National Government Affirmative Action Fund）、女性起業基金（Women Enterprise Fund）、青年起業基金（Youth Enterprise Fund）、女性・青年・障害者のための調達アクセス（Access to Government Procurement Opportunities for Women, Youth and PWDs）といった様々なアファーマティブアクションや基金を設立した。

ルワンダでは、政府によって女性の経済的エンパワメント推進のための環境や法的な枠組みが整備されており、土地や資産を男女で平等に所有・管理できるようになっている。ジェノサイド後の 2003 年に制定された新憲法では、ジェンダー平等の重要性が説かれ、女性の平等の権利を保障する法規定が盛り込まれている。政府の強いコミットメントにより、国民全員が家族資産の所有権や遺産を相続する権利が保障されている。NGO や市民組織が政策策定の初期段階から参加することで、ジェンダーを政府の優先分野として盛り込むことができるようになっていく。また、独立機関としてジェンダーモニタリング局（Gender Monitoring Office）が設置され、政府や民間セクターのジェンダーに関するコンプライアンスをモニタリングしたり、財務の透明性の観点からジェンダー平等が達成されているかを評価している。

表 11：ウガンダ・ルワンダ・ケニアの女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る主な政策とプログラム・事業

	ウガンダ	ケニア	ルワンダ
国家ジェンダー政策	<ul style="list-style-type: none"> The Uganda Gender Policy, 1997 (revised in 2007) 	<ul style="list-style-type: none"> The Kenya National Policy on Gender and Development, 2000 The National Gender Policy, 2011 	<ul style="list-style-type: none"> The National Gender Policy, 2004 (revised in 2010)
その他政策及び法的枠組み	<ul style="list-style-type: none"> The Constitution of Uganda Uganda Vision 2025 The Poverty Eradication Action Plan The Local Government Act The Social Development Sector Strategic Investment Plan 	<ul style="list-style-type: none"> The Constitution of Kenya, 2010 The Kenya Vision 2030 Gender and Education Policy 2007 	<ul style="list-style-type: none"> The Rwanda National Constitution 2003 The New Civil Code Vision 2020 Economic Development and Poverty Reduction Strategy The National Decentralisation Policy
プログラム・事業・基金	<ul style="list-style-type: none"> Uganda Women's Entrepreneurship Programme Youth Livelihoods Programme Agricultural Credit Programme 	<ul style="list-style-type: none"> Uwezo Fund National Government Affirmative Action Fund Women Enterprise Fund Youth Enterprise Fund Access to Government Procurement Opportunities for Women, Youth and PWDs 	<ul style="list-style-type: none"> High Intensive Labour Program Vision 2020 Umurenge Programme Women Guarantee Fund Survivors' Fund
実施機関	<ul style="list-style-type: none"> Ministry of Gender and Community Development Ministry of Planning and Economic Development Equal Opportunities Commission Ministry of Local Government 	<ul style="list-style-type: none"> Ministry of Public Service, Youth and Gender Affairs National Commission on Gender and Development National Council for Persons with Disabilities 	<ul style="list-style-type: none"> Ministry of Gender and Family Promotion Gender Monitoring Office National Women's Council The National Gender Cluster

3.2 東アフリカ諸国の女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントの優良事例と教訓

第 3 回ワークショップ期間中、参加者はウガンダの NGO を訪問し、女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに関する優良事例を視察した。視察先は、カンパラ市内にある Bead for Life、Engage in Action for Safe Environment、Reach Out Mbuya の 3 つの NGO で、技術訓練やビジネススキルの研修と収入向上活動を通して、コミュニティの貧困女性や社会的弱者を支援している。さらに、ウガンダの NGO の訪問後、参加者が南スーダン、ケニア、ルワンダ、ウガンダの NGO・市民組織の活動に関するプレゼンテーションを行い、知見や経験を共有した。主なポイントは以下のとおり。

1) 優良事例

- Bead for Life は Street Business School を立ち上げ、貧困女性に対し、ビジネススキル、起業スキル、市場戦略や売り上げ記録の付け方など様々な実践的な研修を提供している。6 ヶ月の研修を、賃料・講師の給与・研修マニュアル・講師による 3 回の個別コンサルテーション

(家庭訪問)費用を含め、研修生一人当たり 346 米ドルのコストで実施している。研修生に対して研修は無償でおこなっているが、金銭的な支援は行っていない。研修が終了してから 2 年経った後も、約 80%以上の卒業生が自ら立ち上げた小規模ビジネスを続けており、1 日平均 25,000~30,000 ウガンダシリング (7~8 米ドル) の所得を得ている。




- **Bead For Life** は **Street Business School** の卒業生に対し、定期的にフォローアップを行い、卒業生のネットワークを構築している。同コミュニティ内にスクールの卒業生がいることは、問題に直面した際に互いに助け合えるというメリットがあり、成功要因の一つになっている。
- **Bead for Life** は、ウガンダだけでなく他の東アフリカ諸国にも活動を広げている。研修を担当する指導者の数を増やすため、8 日間の集中研修コースを実施し、研修モジュールや研修教材の提供も有償で行っている。これまでルワンダやケニア、ソマリアから研修を受けに来ている。
- **Engage in Action for Safe Environment** の受益者は、収入向上活動として、バナナやキャッサバの皮などの家庭ごみを使用して省エネタイプの燃料や有機肥料を作っている。持続性のある独自の商品を作り出し、現地で調達可能な無料もしくは低価格の材料を用いているため、より多くの利益を得ることができる。
- **Reach Out Mbuya** は、エイズとともに生きる人々に対する偏見や嫌悪をなくすため、コミュニティ内の HIV やエイズ問題に関する意識向上や啓発を行ってきた。その結果、子どもの死亡率や母親から子への感染率が大幅に下がった。
- **Reach Out Mbuya** は職業訓練として、洋裁の基礎・応用コースやケータリングコース、靴や鞄などの革工芸コースを開講し、貧困女性やエイズとともに生きる人々の経済的自立を支援している。
- **Reach Out Mbuya** は、村レベルの貯蓄貸付組織 (VSLA) の設立やビーズ製品の作成と販売を通して、スラム地域に住んでいる寡婦や若い母親、孤児、非識字者、障害者、紛争被害者といった社会的弱者支援も行っている。**Mother to Mother** アプローチと呼ばれるメンターシップ制度を採用し、研修を受けた母親が同コミュニティの母親に対し、技術的支援だけでなく心理的サポートもできる体制を整えている。彼女らは女性が抱える問題を熟知しており、同じコミュニティにいる女性同士相談しやすいという利点がある。

Box 3: Bead for Life

アメリカに本部がある国際NGOで、ウガンダ国内で約46,000人を支援しており、世界で100万人を支援することを目指している。彼らの理念は、女性が世界とつながりを持つことで貧困から抜け出し、女性のための持続的な機会を作り出すことである。この理念の下、**Bead for Life**は起業したいと考えている貧しい女性に対して、**Street Business School**と呼ばれる6ヶ月間の技術訓練コースを開講している。このスクールは移動型の教室で、コミュニティ内で研修が行われている。研修では、起業する際に必要なスキルを女性に教えており、彼女たちの自信向上と自己エンパワメントを促している。出来るだけ多くの女性にビジネススキルを習得してもらうため、プログラムを世界中に広め、他や組織団体に共有することを目指している。

		
ケニアの参加者とストリートビジネススクールの卒業生	参加者を歓迎する Bead for Life のスタッフ	ワークショップ参加者と Bead for Life のスタッフ
対象地域: : カンパラを中心にウガンダ全国		
対象者: : コミュニティの貧困女性		

Box 4: Engage in Action for Safe Environment		
<p>カンパラにあるナムウォンゴというスラム街に住んでいる女性を支援しており、小さいながらも非常に活動的な NGO である。設立者の Irene Namagamba 氏は、Bead for Life で働いた後、自身で NGO を立ち上げ、女性と対象とした収入向上活動を行っている。環境に優しい活動を目指しており、野菜の皮などの家庭ごみを利用し、省エネの料理用燃料や有機肥料を作っている。受益者の中には、アフリカ布やビーズ、プラスチックを使った手工芸品を作っている女性もいる。外部からの支援は一切なく、自分たちの収益だけで活動を続けている。</p>		
		
家庭ごみから炭 (char) を作る過程	Char から作った有機肥料	布やビーズなどの手工芸品
対象地域: カンパラ市内のナムウォンゴ地区		
対象者: ナムウォンゴに住む貧困女性		

Box 5: Reach Out Mbuya		
<p>キリスト教をベースとしたローカル NGO で、エイズとともに生きる人々を啓発活動や職業訓練、コミュニティ内における収入向上活動を通して支援している。貧しい家庭の少年少女や孤児たちの経済的エンパワメントを目的として、カンパラ市内のバンダ地区で職業訓練校を運営し、洋裁の基礎・応用コースやケータリングコース、靴や鞆などの革工芸コースを開講している。また、VSLA の設立やビーズ製品を作る活動を通して、Acholi Quarters と呼ばれる貧困地区に住む寡婦や孤児、障害者、紛争被害者などの社会的弱者の女性も支援している。</p>		
		
職業訓練校で洋裁を学ぶ少女	職業訓練校で革製品を作る少年	Acholi Quarters で女性の受益者と交流する南スーダンからの参加者
対象地域: : カンパラ市内のンブヤ地区、バンダ地区、キナワタカ地区、アチオリクォーターズ地区とルイーロ県のカサーラ地区		
対象者: : エイズとともに生きる人々、貧しい家庭の少年少女、孤児、寡婦、障害者、紛争被害者などの社会的弱者		

- **South Sudan National Commission for War Disabled, Widows and Orphans** は、旧 10 州の内 8 州において紛争によって寡婦となった女性を対象に生計向上のための洋裁研修を行っており、研修終了時には女性にミシンや布を提供している。この試みは有益なプロジェクトとして認知され、現在女性たちは洋服や学校の制服を作ることで収入を得ている。このプロジェクトの他にも、生活が厳しい家族にシェルターや家を建設したり、紛争寡婦に現金を給付したり、雇用に関してアドボカシーやロビー活動を行ったりしている。
- **South Sudan Women Entrepreneur Association** は、南スーダンの女性起業家を支援し、持続的な開発と彼女らの生活の向上を目的とした非営利団体である。主なプログラムとしては、ビジネススキルや財務スキル、貯蓄の方法などの研修を提供している。**SACCO** を設立し、小・中規模ビジネスを始めるために必要な融資や資本に女性がアクセスしやすいようにしている。また、伝統的な陶器や機織り、シアバターや蜂蜜の収穫や加工などの収入向上活動を行ったり、農村部で農業に従事している女性を支援している。
- **Uganda Women Entrepreneurs Association Ltd.** は、ウガンダの女性の起業の推進や世界中のビジネス女性とのネットワークの構築を通して、女性のためのプラットフォームを提供している。**Africa Businesswomen's Network** のような他のアフリカや地域団体と活動している、ウガンダの主要団体である。能力強化やネットワーク、アドボカシーを通して、女性起業家のエンパワメントを推進している。
- **Organization of Women in International Trade, Nairobi Chapter** は、国内及び国際貿易に携わっているケニアのビジネス女性のためのフォーラムである。女性起業家がビジネス拡大に必要な資本へアクセスしやすくなるように、6 ヶ月のプログラムを通して、リーダーシップやビジネススキル、投資に関する知識を提供している。
- **AVEGA AGAHOZO (Rwanda's Association of Genocide Widows)** はルワンダのローカル NPO として、虐殺によって寡婦となった女性の心のケアや経済的エンパワメントを目的に設立された。活動としては、寡婦が作ったアクセサリーをアメリカやヨーロッパへ販売している。一日の平均収入は、寡婦一人当たり 10,000 ルワンダフラン (13 米ドル) となっている。**AVEGA** は虐殺生存者エンパワメントプロジェクト (**Survivors Empowerment Project**) も実施しており、収入向上活動として中小規模の起業を目指す寡婦に対して研修を行っている。このプロジェクトにより、寡婦は銀行口座の開設や金融機関の利用が可能となった。また、**AVEGA** は 3 つの保健センターを設立し、医療サービスや心理的トラウマを持った人たちに対してカウンセリングを行っている。このプログラムは、虐殺生存者のための援助基金として政府から支援を受けており、95%の資金が政府の援助で賄われている。
- **Rwanda Chamber of Women Entrepreneur** は、能力強化やアドボカシー、ネットワークの構築や情報提供を通して女性のエンパワメントを推進している、ルワンダで唯一の女性起業家のネットワーク型組織である。ルワンダでは、政府の積極的な取り組みにより、公共セクターと民間セクターが協働して女性のエンパワメント推進のための活動ができる環境が整備されている。

2) 教訓

- 技術訓練を提供するだけでは女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントは達成できない。それぞれ異なる社会文化的課題を抱えているため、包括的なアプローチが必要である。女性及び社会的弱者は、カウンセリングや話し合いを通して自信や自己肯定感、当事者意識を高める必要がある。例えば、Reach Out Mbuya の Mother to Mother アプローチといったメンターシップ制度や仲間からのサポートは、彼らの背景をより知る上で有効な方法であり、東アフリカ諸国のコミュニティでも応用できる。また、研修や会議中に乳児を預ける場所があることは、母親の経済的活動への参加を促すことにつながる。
- VSLA の設立は、女性及び社会的弱者の経済的自立を促す重要なステップとなる。起業資本や返済しやすい融資の利用は、起業家にとって最大のニーズである。女性及び社会的弱者が VSLA のメンバーになることができれば、初期投資の資金としてお金を借り、将来の投資のために貯蓄する方法を学ぶことができる。VSLA の利点として、低価格の運用費用、小口取引、融通の利く素早い支払いがある。さらに、個々人の自尊心を高め、コミュニティ内のソーシャルキャピタル（社会関係資本）の確立に役立つ。課題としては、融資額の制限、短期間の融資、フォーマルな金融機関ではないことが挙げられる。Savings and Credit Cooperatives（SACCOs）という郡レベルの貯蓄貸付組合のメンバーになることは、より高額で長期間の融資を受けるための次のステップとなる。
- コミュニティにおいてジェンダーや社会的弱者に対する関心を高め、配慮する環境を作ることは、嫌悪や差別をなくすために必要不可欠である。コミュニティ内の融和なしには、彼らの経済的エンパワメントや自立は達成できない。
- 女性及び社会的弱者のビジネスを持続させ、拡大させるためには、国内・海外市場へのアクセスやソーシャルメディアなどのツールの提供、製品に付加価値を付けたり、商品の背景を説明するための能力強化が必要である。例えば、質の良い手工芸品に作り手の名前や彼らのストーリーを書いたタグを付ける工夫をすると、お土産店やカフェ、レストラン、オンラインショップでの販売を伸ばすことにつながる。
- NGO や市民組織の多くは他組織と国際的なネットワークを持っている。そのようなネットワークを活かして情報や知見を共有することは、職員の能力強化やプログラムをより効率的に実施する上で有用である。
- 女性起業家を支援する環境を整備するため、政府は NGO や市民組織と協働して政策を策定する必要がある。NGO や市民組織は政府より現地の状況を熟知しているため、草の根レベルの人々の現状に関する情報を政府と共有することが望ましい。また、政府はジェンダーに関するデータ収集の調査を実施し、プログラムや事業の適切な立案や効果的な実施のために、調査の情報を NGO や市民組織と共有する必要がある。
- NGO や市民組織、民間セクターは、女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに配慮した計画立案と予算策定のため、政策策定の初期段階から関わる必要がある。ルワンダは、紛争後の政府がジェンダーを優先課題とし、政府の手厚い支援によって女性のエンパワメントを支援している良いモデルとなっている。
- 寡婦や孤児、障害者といったコミュニティ内の弱者を特定し、彼らのニーズを理解することは必要不可欠である。このような行動により、彼らの利益に直接つながるプログラムや

事業形成が可能となる。ウガンダでは、政府の地方分権化によって郡レベルのコミュニティ開発担当官（Community Development Officer: CDO）がコミュニティにいる住民と直接関わりを持つことで、住民のニーズを特定し、それを県レベルの CDO に報告する体制が作られている。ジェンダーや社会的弱者の問題を横断的課題として捉え、県や郡レベルの開発計画に盛り込むことで、政府だけでなく開発ドナーや NGO・市民組織から財政的・技術的な支援が受けやすくなる。

4. 経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る協力枠組みの提案

4.1 ワークショップの結論

本章では第1回～第3回のワークショップで明らかにされた課題や展望に基づき、南スーダンの経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る今後の協力枠組みと JICA の支援の方向性について述べる。まず、ワークショップで把握された現状、課題、今後の展望を以下にまとめる。

(1) ジェンダー主流化

南スーダン政府はジェンダー平等とジェンダー主流化を国家戦略の1つとして推進してきた。特に、MGCSW はジェンダー平等推進の中核機関として、国家ジェンダー政策の策定、省庁横断的ジェンダー調整委員会の設立、すべての省庁におけるジェンダー担当官の配置といった取り組みを進めてきた。しかしながら、ほとんどの省庁では人的・技術的・財政的キャパシティが不足しており、国家ジェンダー政策の実施や省庁横断的ジェンダー調整委員会の開催、ジェンダーに配慮した政策・プログラム・事業の実施、ジェンダー予算の配分が困難な状況である。ジェンダー主流化の実施メカニズムは、中央レベルでも州レベルでもまだ弱いと言える。ジェンダーユニットやジェンダー委員会を既に設置した省庁もあれば、まだ設置できていない省庁もある。各省庁のジェンダー担当官は運営のための予算を持っておらず、ジェンダー関連活動を行うのが非常に難しい。また、職員に対する能力強化も十分に実施されていないため、ジェンダー主流化について適切に理解している職員が不足している。未だにジェンダーを女性のみの問題として捉えている職員が多いのが現状である。そのため、ジェンダー担当官のみならず次官、局長、課長など管理職の能力強化を行うことが重要である。今後も南スーダンにおいてジェンダー主流化を推進していくためには、アドボカシーやロビー活動に加えて、行政官の能力向上が最も重要な課題と言える。そしてジェンダーの視点から現在の計画を見直し、ジェンダー予算の導入のための法的枠組みを整備していくこと、そして国レベルからコミュニティレベルまでのプログラムや事業の実施におけるジェンダー主流化ガイドラインを作成することが不可欠である。

(2) ジェンダーと食料安全保障

南スーダンの女性は自給的農業の労働力の約8割を占めているものの、食料安全保障における女性の役割や貢献は認識されていない。多くの女性は無償の家族労働として家庭消費のための食料生産に従事している。女性と子どもは食料危機と栄養不足の影響を特に受けやすい脆弱な存在であり、その多くが避難民として現在も危機的状況にある。また、伝統的な家父長制と社会文化規範により、女性は土地や家畜といった農業資産、農業技術、投入財へのアクセスが限られており、家庭内の意思決定権も持っておらず、農業生産性も低い傾向にある。このような制約要因を取り除き、女性のエンパワメントに向けて心構えを変えていく啓発活動が必要である。

女性が家庭内で収入や支出に関する意思決定権を持つことができれば、子どもの健康や栄養改善のためにお金を使い、食料安全保障により貢献することができる。

(3) 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント

起業家育成にとって重要な経営、財務、経理、リーダーシップ、グループ管理などのビジネススキルが不足している。南スーダンではビジネス女性及び社会的弱者のグループ化や組織化が十分されておらず、技術研修の対象となっていないことが主な原因である。今後は政府による技術訓練や職業訓練の機会を増やし、起業家支援を行う必要がある。また、多くの女性及び社会的弱者は、Village Savings and Loan Associations (VSLAs)という村レベルの貯蓄貸付組織やSavings and Credit Cooperatives (SACCOs)という郡レベルの貯蓄貸付組合にアクセスすることができず、ビジネスを始める際の初期投資ができないことが大きな課題である。さらに、社会的弱者にとっては、コミュニティによる嫌悪や差別が経済的エンパワメントの大きな制約要因となっている。そのため、技術研修だけでなく、彼らの自信や自己肯定感、自立を促すためのカウンセリングや相談といった心理的サポートが欠かせない。

(4) 経済・農業分野の行政官の能力強化

上記に加え、一連のワークショップを通じて、参加者はジェンダー主流化に関する以下の知見とスキルを身につけることができた。

- ジェンダー主流化と社会的弱者配慮の基本概念
- ジェンダー分析の実践的ツールである、性別役割分析 (Gender Role Analysis)、ジェンダー活動分析 (Daily Activity Profile)、アクセス・コントロール分析 (Access and Control Profile)、意思決定分析 (decision making analysis)
- ジェンダー予算の基本概念と実践的ツールであるジェンダー視点に立った政策評価(Gender-Aware Policy Appraisal)
- ジェンダーの視点に立ったプロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM) 手法 (Stakeholders Analysis, Problem Analysis, Objective Analysis, Project Design Matrix)
- コミュニティにおける家計管理の実践的手法 (Food stock calendar, Cash management calendar)
- 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントの基本概念

ワークショップのアンケート結果 (別添資料 4、9、13) によると、各参加者の上記項目に関する理解度には多少の差があった。これは各省庁において彼らが担当している専門分野の違いや経験年数によると考えられる。過去にジェンダー分析を実施した経験があり、すぐにでも他者への指導が可能な参加者がいた一方、ジェンダー主流化について学ぶのは初めての参加者もいた。そのため、今後は各省庁の職員のニーズやレベルを把握したうえで、より多くの研修を実施することが期待される。

なお、ワークショップの中で、経済・農業分野のジェンダー主流化に関する行政官の能力強化計画を中央と州レベルで作成した。計画内容には能力強化の対象者、優先分野や実施方法を盛り込んだ。そのポイントは以下のとおり。

- 次官レベルはジェンダー主流化に関する包括的な知見を身につける必要があり、ジェンダーに配慮した計画・予算の策定、アドボカシーやロビー活動、リーダーシップに関する研修が必要である。
- 局長レベルもジェンダー主流化に関する包括的な知識を身につける必要があり、ジェンダーに配慮した計画・予算の策定、ジェンダー分析、ジェンダーに配慮した PCM 手法、プロポーザル作成に関する研修が必要である。
- ジェンダー担当官と課長レベルは、他省庁との調整能力、ジェンダー啓発を行うファシリテーション能力、ジェンダー分析や男女別データ収集、ジェンダーに配慮した計画・予算の策定や PCM 手法についての実践スキルに関する研修が必要である。
- 研修の実施にあたっては、特にジェンダー担当官の能力向上のための指導者研修（TOT）を行うことを優先すべきである。その他、ワークショップ、交流訪問、フィールド訪問、メンターやコーチング、会議を通じた日常的な情報交換などを通じた能力強化が考えられる。また、ジェンダー研修を行うための研修計画とマニュアル作りが不可欠である。

4.2 ジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る協力枠組み

南スーダンの経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る今後の協力枠組みを下表に示す。協力枠組みにはゴール、優先分野、プログラム目標、短期的戦略・アクション、中・長期的戦略・アクションが含まれている。南スーダン政府（GOSS）が自立的に実施すべきものと JICA が支援する可能性のあるものに分けて記載した。また、下表において示された戦略・アクションについて主なものを 4.2.1 から 4.2.3 において詳述する。

表 12：経済・農業分野のジェンダー主流化と女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに係る協力枠組み

ゴール	優先分野	プログラム目標	戦略/アクション	
			短期（1～3年）	中・長期（3～10年）
南スーダン国民のジェンダー平等の実現	1. 中央・州政府とNGO・市民組織によるジェンダー主流化	1.1 すべての省庁にジェンダーユニットまたは委員会を設置し、中央及び州において省庁横断的ジェンダー調整委員会（IMGCC）を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)すべての省庁にジェンダー担当官を配置し、ジェンダーユニットまたは委員会を設置する • (GOSS) IMGCC の会合を定期的に行い、NGPの進捗確認、男女別データや情報の共有、すべてのセクターのジェンダー能力強化計画を作成する。 • (GOSS and JICA)合同会議や合同ワークショップを開催し、中央と州省庁の連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA)ジェンダーユニットまたは委員会のジェンダー主流化に関する能力を強化する。 • (GOSS and JICA)会議、ワークショップ、相互訪問、スタディツアー、共同研究などを通じて、国内ならびに東アフリカ地域内のジェンダー主流化ネットワークを強化する。
		1.2 中央及び州の行政官とNGO・市民組織の職員のジェンダー主流化に係る能力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA)中央及び州レベルでジェンダーに関する研修ニーズアセスメントを実施する。 • (GOSS and JICA)包括的能力強化計画と研修マニュアルを作成する。 • (GOSS and JICA)すべてのセクターのジェンダー担当官と Director General（局長）を対象とした研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA)中央及び州省庁の職員ならびに NGO・市民組織の職員の能力を強化する。
		1.3 ジェンダー予算に関する法的枠組みを導入する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA)すべての省庁の予算をジェンダーの視点から評価する。 • (GOSS)ジェンダー予算の導入に向けて、ジェンダーワーキングタスクフォースと平等機会委員会を設立する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA)すべての政府予算のジェンダー主流化のため、法的枠組みとガイドラインを整備する。
		1.4 すべての省庁においてジェンダーに配慮した政策と予算を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA)男女別データを収集し、関係者と共有する。 • (GOSS and JICA) ジェンダーに配慮した政策と予算を策定するため、関係者会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)ジェンダーに配慮した政策と予算の実施をモニタリングする。 • (GOSS) ジェンダーに配慮した政策と予算の実績を評価し、関係者にフィードバックする。

		1.5 中央レベルからコミュニティレベルまでジェンダーに配慮したプログラムや事業実施のためのジェンダー主流化ガイドラインを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)政策策定、事業の計画・実施・モニタリング・評価におけるジェンダー主流化の理念とプロセスを定義する。 • (GOSS)中央からコミュニティレベルまで、ジェンダー主流化の実施メカニズム、関係者の責任と役割を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA) ジェンダー及び社会的弱者への配慮チェックリストを含むジェンダー主流化ガイドラインと作成する。 • (GOSS)ジェンダーモニタリング局を設置し、政府と民間の事業のジェンダーコンプライアンスを確認する。
2. ジェンダーと食料安全保障	2.1 女性と子どもの食料安全保障に係る脆弱性に対応するための事業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA) 貧困女性、子ども、国内避難民、難民、寡婦、孤児、障害者の食料安全保障の現状と課題について、ジェンダーの視点から分析を行う。 • (GOSS)女性の家事労働負担を軽減するための政策やプログラム作りのため、省力化技術の調査研究に投資する。 • (GOSS)女性農家の組織化・組合化を進め、投入財や普及サービス、市場や信用へのアクセスを改善する。 • (GOSS)女性農家を支援する基金を立ち上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA) ジェンダーに配慮し、女性と社会的弱者の参加を促す NUFLIP のような農業分野の生計向上プロジェクトを実施し、女性と子どもの栄養状態を改善する。 • (GOSS and JICA) 包括的農業開発マスタープラン (CAMP) の実施フェーズを通して、男性だけでなく女性の農業普及員を増やし、栽培方法、食料の貯蔵や保存、農産物の付加価値付け、市場戦略等について能力強化を行う。 	
	2.2 ジェンダーに配慮した食料安全保障政策と法的枠組みを策定する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA) CAMP の実施フェーズを通して、食料安全保障と農業、畜産、漁業、水資源、輸送、貿易におけるジェンダー課題について調査を行う。 • (GOSS and JICA) ジェンダーに配慮した食料安全保障政策と予算を作成するため、関係者会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)小規模農業とインフラへのアクセス改善のための十分な予算を確保する。 • (GOSS)ジェンダーに配慮した食料安全保障政策の実施をモニタリングする。 • (GOSS) ジェンダーに配慮した食料安全保障政策と予算の実績を評価し、関係者にフィードバックする。 	
	3. 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント	3.1 女性起業家のビジネス経営、財務、技術に係る能力向上を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)女性起業家の組織化を支援する。 • (GOSS and JICA) ジェンダー担当官やコミュニティ普及員への研修を通じて、VSLAs や SACCOs の設立を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS and JICA) 職業訓練と技術訓練を支援し、女性や社会的弱者の参加を促す。 • (GOSS)女性の金融サービスへのアクセスを改善することで、起業家育成を推進する。

		<p>3.2 政府とNGO・市民組織の連携により、より良いビジネス環境を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)女性及び社会的弱者の起業家育成に関する政治的な意向を高める。 • (GOSS and JICA)男女の共同名義で企業登録ができるように法的枠組みと規定を見直す。 • (GOSS)女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントを進める NGO・市民組織の設立を支援する。 • (GOSS and JICA) 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントに関する政府と NGO・市民組織の連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> • (GOSS)女性経営企業の競争力を高めるような政策やプログラムを策定する。 • (GOSS)女性起業家を支援する基金を設立する。 • (GOSS)男女が平等に土地所有権を持てるように土地所有システムを改革する。 • (GOSS and JICA) 水道、道路、橋、電気といった基礎インフラへの投資を通して、水汲みや薪運びなど女性の無償労働の負担を軽減する。
--	--	---	--	---

4.2.1 優先課題 1：中央・地方政府と NGO・市民組織によるジェンダー主流化

ジェンダー主流化については、経済・農業関連省庁のみならず、ジェンダー省及び他省庁と一体となって推進することが重要である。

1.1 すべての省庁にジェンダーユニットまたは委員会を設置し、中央及び州において省庁横断的ジェンダー調整委員会を活性化させる。

短期的戦略・アクション

- ジェンダー担当官を配置する。その際に中級または上級職の行政官を任命することにより、省庁における重要な決定事項にジェンダーの視点から影響力を持てるようにする。またジェンダー担当官が使える予算を少しでも持つことにより、各省庁でジェンダー啓発や研修、会議を行うなど小規模な活動を行えるようにする。
- ジェンダーユニットまたは委員会を中央・州省庁に設置し、その役割を明確化する。メンバーには各課の代表及びジェンダー担当官が入り、すべてのセクターでジェンダーに配慮した計画や予算が策定されるように促す。
- 省庁横断的ジェンダー調整委員会の定期会合を開催し、国家ジェンダー政策の進捗状況の確認や男女別統計データや情報の共有、すべてのセクターにおける包括的な能力強化計画の作成などを進める。
- 中央と州省庁の良好な関係を構築し、連携を強化する。中央の各省庁が政策・プログラム策定や事業の立案を行うのに対し、それらを実施するのは州省庁の役割であるため、両者の良好な関係の構築と連携の強化は、ジェンダー政策の実施にとって非常に重要である。ジェンダーに配慮した計画と予算の策定、プログラムや事業の実施・モニタリング・評価について、中央と州のジェンダー担当官がより頻繁に会議を開いて情報交換を行うとともに、合同研修やワークショップを開催することで両者の連携強化を目指すべきである。第 2 回ワークショップのように両者を含めたワークショップを MGCSW と JICA が今後も開催することが期待される。

1.2 中央及び州の行政官と NGO・市民組織の職員のジェンダー主流化に係る能力を強化する。

短期的戦略・アクション

- 中央・州政府と NGO・市民組織におけるジェンダー主流化を実施するため、関係者の包括的な能力強化計画と研修マニュアルを作成する。特に、ジェンダー平等推進の中核機関である MGCSW と各省のジェンダー担当官、省庁横断的ジェンダー調整委員会、各省ジェンダーユニット、局長、政治家、NGO・市民組織の職員を対象とした研修を行い、ジェンダー分析、ジェンダーに配慮した計画と予算の策定を優先分野として扱うべきである。各省の計画・財務課の局長は年度計画や予算の策定の責任者であり、次官など上級職への働きかけもできるため、彼らの能力強化が非常に重要である。これら能力強化計画の作成、研修マニュアルと教材の作成、研修の実施については今後 MGCSW と JICA が連携して行う可能性を検討することが望まれる。

1.3 ジェンダー予算に関する法的枠組みを導入する。

短期的戦略・アクション

- ジェンダーに配慮した計画と予算の策定のため、MGCSW と財務経済計画省（MFEP）がジェンダーワーキングタスクフォースを立ち上げる。メンバーには各省の計画・財務課の局長が含まれる。

中・長期的戦略・アクション

- ジェンダー予算の導入については、まず MGCSW が先頭に立って、ジェンダー予算策定ガイドラインの作成、予算策定におけるジェンダーコンプライアンス規定の設置、ジェンダーに配慮した予算書の作成を MFEP と協働で行うべきである。このプロセスは JICA も支援する可能性が考えられるものの、ウガンダ及びブルワンダがジェンダー予算のための法的枠組みや実施体制の構築に成功した経験を踏まえると、これら隣国からの技術的な支援も検討すべきである。下表は南スーダンにおけるジェンダー予算の導入・実施のための各機関の責任と役割を示している。

表 13：ジェンダー予算のための実施メカニズム

アクター	メンバー／役割と責任
MGCSW	ジェンダー主流化とジェンダーに配慮した予算策定のプロセスを主導する。すべての省庁のジェンダー担当官へ技術研修を実施する。他の省庁と連携しながら、ジェンダー主流化ならびにジェンダー予算を推進するためのガイドラインやツールを策定する。
ジェンダーユニットまたは委員会	各省に設置され、ジェンダー主流化活動を促進する役割を持つ。メンバーはジェンダー担当官とすべての課の代表者。
ジェンダーワーキングタスクフォース	MFEP が設置し主導する。メンバーは、すべての省庁の計画課の職員、国家統計局、平等機会委員会、市民組織の代表など。タスクフォースはジェンダー予算の実施を監督するほか、評価するためのツールやガイドラインの作成も行う。
平等機会委員会	中央レベルで設置され、予算枠組み、政策書、国家予算をジェンダーの視点から評価し、ジェンダーに配慮した予算認定に関して各省庁へアドバイスする。
MFEP	平等機会委員会と連携しながら、ジェンダーに配慮した予算認定書の発行をする。

1.4 すべての省庁においてジェンダーに配慮した政策と予算を策定する。

短期的戦略・アクション

- ジェンダーに配慮した政策、戦略、計画、予算の策定のため、男女別の統計データを定期的に収集する。各省が限られた予算の中でデータ収集をするためには、特にジェンダー課題の深刻なサブセクターを優先するべきである。またすでに収集した情報を省庁間でいかに共有するかが重要である。例えば、2012年にMGCSWが実施した Comprehensive Country Gender Assessment は各セクターの男女別データや現状分析を詳細に行っているため、すべての省庁で共有すべきである。

1.5 中央レベルからコミュニティレベルまでジェンダーに配慮したプログラムや事業実施のためのジェンダー主流化ガイドラインを作成する。

中・長期的戦略・アクション

- より効果的なジェンダー政策の実施のため、中央から地方レベルまでの政策・プログラム・事業の計画・実施・モニタリング・評価におけるジェンダー主流化ガイドラインを整備することも重要である。ガイドラインには、各段階で使うべきジェンダー分析のツール、ジェンダー予算の策定ツール、ジェンダーに配慮した PCM 手法のほか、ジェンダー及び社会的弱者への配慮チェックリストを作成することが望ましい。今後このガイドライン策定のプロセスを JICA が支援する可能性を検討することが期待される。

4.2.2 優先課題2：ジェンダーと食料安全保障

2.1 女性と子どもの食料安全保障に係る脆弱性に対応するための事業を推進する。

短期的戦略・アクション

- 南スーダンにとって食料安全保障におけるジェンダー格差、特に内戦の影響を受け急増している国内避難民、難民、寡婦、障害者を含む貧困女性や子どもの課題を明らかにし、対応していくことは緊急の課題である。UNHCRの報告²⁸によると、2017年8月までに南スーダンからウガンダに避難した人々は100万人を越え、その他の近隣国と合わせると200万人を超える難民が流出している。ウガンダへの難民のうち85%以上は女性や子どもで、家族が離散しているケースが多い。難民キャンプでは、国連機関やドナー、NGOが緊急支援を実施しているが、人手不足や資金不足のため基本的ニーズが満たされていない。今後も避難生活が長引く可能性や、将来大勢の帰還民が発生する可能性を考慮すると、キャンプ生活における難民の自立支援が大きな鍵となる。例えば、穀物の自給を目指した栽培技術の指導、収入向上を目的とした園芸作物栽培の指導などは、非常に有益な生計向上支援となり得る。
- 南スーダンの女性農家の組織化を進め、グループや組合としてドナーや政府からの技術的・財務的支援を受けられるようにする。女性農家が組織化されていないために、農業資材や普及サービス、市場・信用へのアクセスが限られている。

中・長期的戦略・アクション

- 今後の南スーダンでは、食料安全保障に係る脆弱性に対応するため、小規模農家の農業生産性向上と同時に、ジェンダー視点を取り入れた農家の食料安全保障及び生計向上、並びに栄養改善を目指す事業の実施が望まれる。JICA が現在実施中の北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）はこのような事業の好事例となる。これはウガンダ北部も南スーダンも、紛争影響地域において女性と社会的弱者が自給的農業を営み、生産性の低さ、収入の低さ、コミュニティからの差別などに苦しんでいる同様の背景があるためである。NUFLIP の対象農家グループでは女性、男性、障害を持った人々が野菜栽培のための圃場で一緒に働き、チームワークやコミュニティ意識を育て、互いに助け合うことができたようになった。家族全員の栄養面や食料安全面考慮した営農計画を作成し、野菜栽培から得た収入の使い道は夫婦で話し合い、子どもの教育や栄養改善のために使うようになった。

²⁸ <http://www.unhcr.org/news/press/2017/8/599457a34/south-sudan-refugees-uganda-pass-1-million-mark-unhcr-renews-call-help.html>

NUFLIP で実施している一連の野菜栽培技術研修、市場志向型農業の導入、家族全員の幸せのための目標設定、ジェンダーや社会的弱者への配慮のための研修、家計管理研修（食料在庫と家畜の管理カレンダー、現金管理カレンダー）、栄養改善・衛生改善研修、非識字者に配慮した視覚的な研修教材などは、南スーダンにとっても導入可能な事例である。

2.2 ジェンダーに配慮した食料安全保障政策と法的枠組みを策定する。

中・長期的戦略・アクション

- ジェンダーに配慮した食料安全保障政策については、JICA が支援を続けてきた南スーダン包括的農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト（CAMP）において、ジェンダー視点に基づいた現状分析が行われ、男性だけでなく女性の農業普及員を増やし、栽培方法、食料の貯蔵や保存、農産物の付加価値付け、市場戦略等について能力強化を行うことが提案されている。例えば、自給農家によるソルガム生産プロジェクトでは、農業普及員へジェンダーに関する研修を行うとともに、ジェンダー分析に基づいて女性農家に対する栽培指導を行い、家族全員の食料安全確保と栄養改善を目指すべきと提案されている。今後 CAMP の実施フェーズで、事業が実施されることを通じて南スーダンの食料安全保障に長期的に貢献することが望まれる。

4.2.3 優先課題3：女性及び社会的弱者の経済的エンパワメント

3.1 女性起業家のビジネス経営、財務、技術に係る能力向上を推進する。

短期的戦略・アクション

- 女性の起業家育成にとって重要な経営、財務、経理、リーダーシップ、グループ管理などのビジネススキルの実践的なトレーニングの機会を提供する。ウガンダの Bead for Life の Street Business School は 6 ヶ月という短期間で貧困女性をビジネス女性に育成するという良いトレーニングのモデルである（第 3 章）。このモデルはウガンダ全国だけでなく、ルワンダ、ケニア、ソマリアでも導入されており、今後南スーダンでもローカル NGO との連携によって適用することが可能である。
- 女性及び社会的弱者が起業のための初期投資と将来のための貯蓄ができるように、Village Savings and Loan Associations (VSLAs) という村レベルの貯蓄貸付組織（第 3 章）を立ち上げる。少額融資によって VSLA のメンバーが助け合う信用システムのため、お互いを尊重し合い、コミュニティ内での社会資本を形成することができる。Savings and Credit Cooperatives (SACCOs) 立ち上げることは、より大きな融資を長期間行う次のステップである。
- 女性及び社会的弱者の経済的エンパワメントを支援する NGO・市民組織と政府の連携を強化する。ルワンダでは政府の政策策定や計画策定の初期の段階から NGO・市民組織が参加することで、ジェンダーが政府の優先課題として常に取り上げられている。また、ジェンダーモニタリング局という省庁から独立した機関が設置され、政府や民間セクターの活動・予算におけるジェンダーコンプライアンスをモニターしている。ジェンダー平等への

取り組みが財務的な透明性にも貢献している良い例である。南スーダンにおいてもこのような NGO・市民組織と政府の連携が強化されるべきである。

中・長期的戦略・アクション

- 今後南スーダンでは職業訓練や技術訓練の施設を増やすことが必要である。内戦の影響を受けた元少年兵、寡婦、孤児、障害者、避難民などの社会的弱者を受益者として優先し、彼らの自立につながるようなスキルを身につけるための機会を増やさなければならない。ウガンダ北部の NGO テラ・ルネッサンスは、神の抵抗軍（LRA）によって誘拐された子どもと誘拐した側の子どものコミュニティに再統合し、職業訓練クラスでともに学ぶ経験を通して彼らの経済的自立と和解を促す活動を行っている（第 2 章参照）。ウガンダの Reach Out Mbuya の活動は、職業訓練がエイズとともに生きる人々が抱える多くの問題を解決し、心を癒す場となっていることを証明している（第 3 章参照）。このような NGO の経験及び JICA が支援を行った南スーダン基礎的技能職業訓練プロジェクト（SAVOT）の経験は、南スーダンが近い将来、同様の問題を克服するための良いモデルである。

3.2 政府と NGO・市民組織の連携により、より良いビジネス環境を提供する。

中・長期的戦略・アクション

- 女性及び社会的弱者の経済活動への参加を促進するためには、政府のみならず、NGO や市民組織の連携も含めた、よりよいビジネス環境の整備が必要となる。南スーダンにおいては、ビジネス環境の基盤となる基礎インフラが未だ脆弱な状況にあり、JICA はこの分野において継続的に貢献することが望まれる。JICA ではこれまでも南スーダンの基礎インフラの発展に多大な貢献をしてきた。水、道路、橋、電気といった基礎インフラへの投資を行うことは、基礎的なビジネス環境を提供するとともに、清潔な水や安全な生活環境へのアクセスを提供することにより女性や社会的弱者の健康にも直結、水汲みや薪運びなど女性の無償労働の負担を軽減することでより生産的な経済活動への参加を促すことにつながる。JICA が支援してきた無償資金協力事業によるインフラ整備の再開、及び「都市水道公社水道事業管理能力強化プロジェクト」等補完的技術協力事業の継続実施が必要とされる。

4.2.4 主な関連省庁への協力の可能性

本調査を通じて、南スーダンの経済・農業分野におけるジェンダー主流化、及び女性・社会的弱者の経済的エンパワメントの推進のためには、全省庁一体となった取り組みとともに、それぞれの省庁において必要とされる協力が明らかとなった。例えば、ジェンダー主流化ガイドラインの作成やジェンダー担当官への研修は、全省庁を対象に実施すべきである一方、ジェンダー予算の導入やジェンダーに配慮したプログラム・事業の計画や実施においては、具体的な実施事業に合わせ、各省庁それぞれへの直接的な支援が求められている。下表は、JICA による主な関連省庁へのジェンダー分野の協力の可能性を示している。特に、JICA が実施済みまたは実施中の事業の成果を活用することで、より現実的で相乗効果の高い協力が期待できる。

経済・農業関連省庁以外については、教育・保健関連省庁がジェンダー主流化における重要なアクターとして挙げられ、支援に際しては同省庁を巻き込んだ形で実施することが望ましい。

特に州政府レベルでは、教育省とジェンダー省が統合され、教育・ジェンダー・社会保障省として活動しているため、両者の連携は中央政府レベルでも不可欠である。今後は、省庁横断的委員会（IMGCC）の開催や教育・保健関連省庁のジェンダー担当官への能力強化を通じた支援が求められている。そのため短期的な活動としては、本調査と同様の内容で一連のワークショップを開催し、教育・保健分野のジェンダー主流化の課題や優良事例を把握するとともに、中央及び州政府のジェンダー担当官に対する能力強化を行うことが考えられる。

表 14 主な関連省庁へのジェンダー分野の協力の可能性

省庁	協力の可能性
農業・食料安全保障省	<ul style="list-style-type: none"> 各セブセクターの政策・予算のレビューとプログラム・事業の計画時にジェンダーに配慮した指標を導入する。 紛争影響地域の女性及び社会的弱者の農業生産技術の向上、市場や生産財へのアクセス向上、栄養改善、食料在庫管理、家計管理等を目指したプロジェクトを実施する。（例：北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト） 南スーダン包括的農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト（CAMP）で提案されたジェンダーに配慮した食料安全保障や栄養改善のための事業を実施する。（例：自給農家ソルガム生産プロジェクト）
畜産・漁業省	<ul style="list-style-type: none"> 各セブセクターの政策・予算のレビューとプログラム・事業の計画時にジェンダーに配慮した指標を導入する。 CAMP で提案されたジェンダーに配慮した事業を実施する。例えば、女性の畜産普及員を増やし、農村女性の普及サービスへのアクセスを改善する事業や、水産加工業に携わる漁村女性の HIV/AIDS 対策事業を実施する。
環境・林業省	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価におけるジェンダー・社会的弱者配慮チェックリストの作成を支援する。 CAMP で提案されたジェンダーに配慮した事業を実施する。例えば、アグロフォレストリーや林産品の開発を通じて、森林自然資源に依存する貧困女性の所得向上を推進する。
水資源・灌漑省	<ul style="list-style-type: none"> 給水・衛生施設のジェンダーに配慮したモニタリング及び評価ツール・マニュアルの作成を支援する。 上水道の整備を通じて女性と子どもの安全な水へのアクセスを向上する。（例：都市水道公社水道事業管理能力強化プロジェクト）
財務・経済計画省	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー予算制度の導入プロセスを支援し、ジェンダー予算のためのモニタリング・評価ツール、監査ガイドラインの作成を支援する。 ジェンダー予算に関する省庁職員向け研修を実施する。
通商・産業・投資省	<ul style="list-style-type: none"> 起業家育成・ビジネススキルの向上のためのビジネス開発センターの設立と運営を支援し、女性及び社会的弱者の能力強化のための研修を実施する。
労働・公共事業・人材開発省	<ul style="list-style-type: none"> 労働・産業政策におけるジェンダー主流化のため、雇用機会における男女平等やアフーマティブアクションを推進するための政策策定を支援する。

List of Participants for 1st Workshop on Gender Mainstreaming

No.	Title	Name	Ministry	Position
1	Ms.	Regina Lullo Ossa	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Director General for Gender and Child Welfare
2	Ms.	Celina Grace Peter	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Acting Director General for Child Welfare
2	Mr.	Emmanuel Ladu Laku Lomin	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Acting Director for Planning
3	Ms.	Sawsan Omer Ismail	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Senior Inspector for Gender
4	Ms.	Aya Amataya Maranga	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Inspector for Gender
5	Ms.	Ludiana Joseph Musa	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Inspector for Gender
6	Mr.	David Batali Oliver	Ministry of Environment and Forestry	Director General for Planning and Sustainable Development
7	Ms.	Cecilia Mogga Kenyi	Ministry of Environment and Forestry	Director for Compliance
8	Mr.	Augustino Atillio Macar	Ministry of Livestock and Fisheries	Director General for Planning
9	Ms.	Mary Sitina Yapete	Ministry of Livestock and Fisheries	Deputy Director
10	Mr.	Richard Efil Simplicio	Ministry of Finance and Economic Development	Director for Micro-economic Planning
11	Ms.	Achol James Ajuep	Ministry of Finance and Economic Development	Senior Inspector
12	Mr.	Odhong Paul Riak Luigi	Ministry of Trade and Industry	Director General for Admin and Finance
13	Ms.	Mary Akech Milla	Ministry of Trade and Industry	Director General for Private Economic Sector
14	Mr.	Alberto Kandido Legge	Ministry of Irrigation and Water Resources	Director for Planning
15	Mr.	Albert Eluzai Moni	Ministry of Irrigation and Water Resources	Acting Director General for Water Supply and Sanitations
16	Ms.	Margaret Baggu Nathaniel	Ministry of Agriculture and Food Security	Director for Post-Harvest and Home Economics
17	Mr.	Michaya Gamunde Nasona	Ministry of Agriculture and Food Security	Acting Director for Project Appraisal, M&E
18	Ms.	Savia Aya Silvester	Ministry of Labour, Public Service and Human Resource Development	Director General for Policy Planning
19	Ms.	Rebecca Tabu James	Ministry of Labour, Public Service and Human Resource Development	Acting Director for Human Resource Management

List of Participants for 1st Workshop on Gender Mainstreaming

20	Mr.	Kyosuke Kawazumi	JICA South Sudan Office	Chief Representative
21	Ms.	Ayako Oi	JICA South Sudan Office	Representative
22	Ms.	Etsuko Osumi	JICA South Sudan Office	Project formulation advisor
23	Mr.	James Komakec	JICA South Sudan Office	National staff
24	Ms.	Riai Yamashita	JICA Consultant	JIN Corporation
25	Ms.	Misa Abiko	JICA Consultant	JIN Corporation
26	Ms.	Jane Muhenda	JIN National Staff	JIN Corporation

Programme for 1st Training Workshop on Gender Mainstreaming for Economic Pillar Ministries

Fairway Hotel, Kampala, 23th - 28th April, 2017

Date	Time	Programme	Responsible person	
23 April (Sun.)	13:20-14:40	Juba - Entebbe by Rwanda Air (WB435)	All participants	
	17:00	Participants arrive in Kampala	JIN Corporation	
	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation	
	09:00-09:15	Self-introduction	All participants	
	09:15-09:30	Welcome remarks	Chief Representative of JICA South Sudan	
	09:30-09:45	Opening remarks	DG Gender, MGCSW	
	09:45-10:00	Introduction to the workshop	JIN Corporation	
	Session 1: Overview of gender mainstreaming			
	10:00-11:00	Basic concept on gender mainstreaming and considerations for socially vulnerable people	JIN Corporation	
	11:00-11:45	National Gender Policy and its implementation	MGCSW	
	11:45-12:00	Tea break		
	Session 2: Presentation on gender mainstreaming by each ministry			
	12:00-13:15	Current situation and issues on gender mainstreaming (presentation by each ministry)	MAFS, MLF, MEF, MIWR	
	13:15-13:30	Q&A and discussion	All participants	
13:30-14:30	Lunch			
Day 1: 24 April (Mon.)	14:30-15:45	Current situation and issues on gender mainstreaming (presentation by each ministry)	MFEP, MTI, MLPSHRD	
	15:45-16:00	Q&A and discussion	All participants	
	16:00-17:00	Summary of the current situation and issues on gender mainstreaming (discussion)	MGCSW	
	17:00-17:15	Wrap up of Day 1	JIN Corporation	
	Day 2: 25 April (Tue.)	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation
		Session 3: Overview of gender-responsive planning and budgeting		
		09:00-10:00	Overview of gender-responsive planning and budgeting	JIN Corporation
		10:00-11:15	Current situation and issues on gender-responsive planning and budgeting	MGCSW
		11:15-11:30	Tea break	
		Session 4: Practice on gender-responsive planning and budgeting		
		11:30-13:30	Practical tools for gender-responsive planning and budgeting	MGCSW and JIN Corporation
		13:30-14:30	Lunch	
		14:30-16:30	How to apply gender-responsive planning and budgeting (exercise)	All participants

	16:30-17:00	Wrap up of Day 2	JIN Corporation
	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation
		Session 5: Experience on gender mainstreaming in Uganda	
	09:00-10:30	National Gender Policy in Uganda	MGLSD (Uganda)
	10:30-10:45	Tea break	
	10:45-11:30	Gender and Equity Budgeting in Uganda	MGLSD (Uganda)
		Session 4: Practice on gender-responsive planning and budgeting (cont.)	
Day 3: 26 April (Wed.)	11:30-12:30	How to apply gender-responsive planning and budgeting (exercise)	All participants
	12:30-13:30	Lunch	
	13:30-15:15	How to apply gender-responsive planning and budgeting (action plan making)	All participants
	15:15-15:30	Tea break	
	15:30-16:30	How to apply gender-responsive planning and budgeting (group presentation)	All participants
	16:30-16:45	Wrap up of Day 3	JIN Corporation
	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation
		Session 6 : Good practices and lessons learnt on gender-responsive programmes and projects	
	09:00-11:00	Summary of good practices and lessons learnt on gender-responsive programmes and projects (presentation and discussion)	All participants
Day 4: 27 April (Thu.)	11:00-11:15	Tea break	
	11:15-13:00	Summary of the workshop Planning of the next workshop	JIN Corporation JIN Corporation
	13:00-13:30	Closing remarks	Representative of JICA South Sudan DG Gender, MGCSW DG Planning, MEFP
	13:30-14:30	Farewell lunch	All participants
28 April (Fri.)	07:30	Participants leave Kampala	All participants
	11:30-12:50	Entebbe-Juba by Rwanda air (WB434)	JIN Corporation

**Data Collection Survey on Gender
for the Republic of South Sudan**

**Handout for
The 1st Workshop on
Gender Mainstreaming**

24-27 April 2017, Kampala

**Japan International Cooperation Agency
JIN Corporation**

LEARNING POINT 1: WHAT IS GENDER MAINSTREAMING?

UNITED NATIONS ECONOMIC AND SOCIAL COUNCIL (ECOSOC) DEFINITION OF GENDER MAINSTREAMING

“Mainstreaming a gender perspective is the process of assessing the implications for women and men of any planned action, including legislation, policies or programmes, in any area and at all levels.

It is a strategy for making women’s as well as men’s concerns and experiences an integral dimension of the design, implementation, monitoring and evaluation of the policies and programmes in all political, economic and societal spheres so that women and men benefit equally, and inequality is not perpetuated.

The ultimate goal is to achieve gender equality.”

(E.1997.L.30.Para.4. Adopted by ECOSOC 17.7.1997)

LEARNING POINT 2: WOMEN IN DEVELOPMENT AND GENDER AND DEVELOPMENT

SHIFT IN UNDERSTANDING OF WOMEN'S ISSUE TO GENDER ISSUE

Women in Development (WID) Approach	Gender and Development (GAD) Approach
<p><u>Analysis:</u> women left out women lack;</p> <ul style="list-style-type: none"> • education • training • credit self-esteem 	<p><u>Analysis:</u> social structures and processes recreate inequalities between women and men in:</p> <ul style="list-style-type: none"> • resources • opportunities • treatment • decision-making
<p><u>Problem:</u> women</p>	<p><u>Problem:</u> inequality between women and men</p>
<p><u>Approach:</u> Women must change their attributes to be integrated into development.</p>	<p><u>Approach:</u> Society and institutions must change ideas and practices in support of equal choices and opportunities.</p>

“Rather than consider women in isolation, we must take account of from the broader context of their lives in the family, economy and society and the way in which society and institutions through their values and practices reinforce and recreate inequality between women and men.”

(Source: UNDP Learning and Information Pack, Gender Mainstreaming)

LEARNING POINT 3: KEY WORDS AND CONCEPTS ON GENDER

GLOSSARY OF GENDER AND DEVELOPMENT

Affirmative Action	Measures targeted at a particular group and intended to eliminate and prevent discrimination or to offset disadvantages arising from existing attitudes, behaviours and structures (sometimes referred to as positive discrimination).
Division of labour	The division of paid and unpaid work between women and men in private and public sphere.
Empowerment	The process of gaining access and developing one's capacities with a view to participating actively in shaping one's own life and that of one's community in economic, social and political terms.
Gender	A concept that refers to the social differences between women and men that have been learned, are changeable over time and have wide variations both within and between cultures.
Gender analysis	The study of differences in the conditions, needs, participation rates, access to resources and development, control of assets, decision-making powers, etc. between women and men and their assigned gender roles.
Gender blind	Ignoring/failing to address the gender dimension (as opposed to gender sensitive or gender neutral).
Gender equality	The concept meaning that all human beings are free to develop their personal abilities and make choices without the limitations set by strict gender roles; that the different behaviour, aspirations and needs of women and men are considered, valued and favoured equally.
Gender equity	Fairness in women's and men's access to socio-economic resources. A condition in which women and men participate as equals and have equal access to socio-economic resources.
Gender gap	The gap in any area between women and men in terms of their levels of participation, access, rights, remuneration or benefits.
Gender impact assessment	Examining policy proposals to see whether they will affect women and men differently, with a view to adapting these proposals to make sure that discriminatory effects are

	neutralised and that gender equality is promoted.
Gender needs	<p>The roles of men and women in existing societies and institutions are generally different. Thus, their needs vary accordingly. Two types of needs are usually identified: Practical needs arise from the actual conditions which women and men experience because of the gender roles assigned to them in society. They are often related to women as mothers, homemakers and providers of basic needs, and are concerned with inadequacies in living and working conditions, such as food, water, shelter, income, health care and employment. For women and men in the lower socio-economic strata, these needs are often linked to survival strategies. Addressing them alone only perpetuates the factors which keep women in a disadvantaged position in their societies. It does not promote gender equality.</p> <p>Strategic needs are the needs required to overcome the subordinate position of women to men in society, and relate to the empowerment of women. They vary according to the particular social, economic and political context in which they are formulated. Usually they concern equality issues such as enabling women to have equal access to job opportunities and training, equal pay for work of equal value, rights to land and other capital assets, prevention of sexual harassment at work and domestic violence, and freedom of choice over childbearing. Addressing them entails a slow transformation of the traditional customs and conventions of a society.</p>
Gender neutral	Having no differential positive or negative impact for gender relations or equality between women and men.
Gender relations	The relations and unequal power distribution between women and men which characterise any specific gender system.
Gender responsive	Addressing the gender issues in planning, programming, budgeting, implementation, monitoring and evaluation.
Gender-responsive planning	An approach to planning which takes gender as a key variable or criteria and which seeks to integrate an explicit gender dimension into policies or action.
Gender-responsive budgeting	An approach to mainstream gender dimension into all stages of the budget cycle.
Gender sensitive	Addressing and taking into account the gender dimension.

Reproductive rights	The right of any individual or couple to decide freely and responsibly the number, spacing and timing of their children and to have the information and means to do so, and the right to attain the highest standard of sexual and reproductive health.
Sex	The biological characteristics which distinguish human beings as female or male.
Sex-disaggregated statistics	The collection and separation of data and statistical information by sex to enable comparative analysis, sometimes referred to as gender disaggregated statistics.
Women's triple role	Women's triple role refers to the reproductive, productive and community managing role. The way these forms are valued affects the way women and men set priorities in planning programs or projects. The taking or not taking into consideration of these forms can make or break women's chances of taking advantage of development opportunities.

(Source: EC Toolkit on Mainstreaming Gender Equality In EC Development Cooperation, Section 3.)

LEARNING POINT 4: WHAT ARE ENABLING CONDITIONS FOR GENDER MAINSTREAMING?

ENABLING CONDITIONS FOR GENDER MAINSTREAMING

1. **Preparation:** set up a plan for the implementation of gender mainstreaming, define steps and milestones, assign tasks and responsibilities and formalise and communicate the plan.
2. **Resources:** sufficient resources need to be made available; effective gender mainstreaming requires a budget and time. Think about resources for awareness-raising and capacity-building initiatives. The use of special (external) expertise might also be considered.
3. **Stakeholder involvement:** close liaison with all policy stakeholders is essential throughout the policy cycle to take on board the concerns, expectations and views of the target groups. It is recommended that opportunities and structures for stakeholder involvement and consultations be cemented into the policy process.
4. **Monitoring and evaluation:** set in place accountability mechanisms to ensure an adequate follow-up of implementation and progress. Foresee regular reporting and share results.
5. **Knowledge generation:** building up knowledge on gender equality and good practices in gender mainstreaming contributes to making the approach more effective. You can contribute to the institutional learning by collecting data and information on indicators, reporting on progress and facilitating experience exchange.
6. **Gender expertise:** this expertise should be internal, but the use of special external expertise might be considered as well.

(Source: What is gender mainstreaming, European Institute for Gender Equality, 2016)

LEARNING POINT 5: WHAT ARE GENDER-RESPONSIVE POLICIES?

GENDER REPRESENTATION IN NUMBER OF GENDER-RESPONSIVE CONTENTS OF THE POLICIES

Gender representation in a policy area

Addressing the issue of representation means looking at the representation of women and men as policy beneficiaries, as well as their representation in the decision-making processes. When there is an unbalanced participation of women and men in the planning and decision-making processes on policy actions, this may affect the outcomes that impact both women and men. Policies benefit from diverse perspectives: a more balanced representation of both sexes would bring in different experiences that might improve the decision-making process and overall results.

Gender-responsive contents of the policies

Although numbers are important, it is pertinent to also consider how gender relates to the content of policy measures, to gain a better understanding of how women and men would benefit from them. A gender-responsive policy ensures that the needs of all citizens, women and men, are equally addressed.

Traditionally, government policy and legislation have been viewed as **gender-neutral** instruments, on the assumption that a public policy benefits all members of the public equally.

Policies focused on the general public often impact women and men differently. If these different gender impacts are not taken into account, the policy will be **gender blind**. To avoid this, it is necessary to take into account the different needs and interests of women and men, to identify gender inequalities in access to and control of resources, to consider the impact of gender-based stereotypes and traditional **gender roles**, to anticipate different effects on women and men and to ensure gender equality.

A gender impact assessment is the first step towards avoiding policies that fail to take into account a gender perspective. Such an assessment analyses the impact of a new regulation, policy or programme on the advancement of gender equality and in turn foresees implications it might have on women's and men's lives.

(Source: What is gender mainstreaming, European Institute for Gender Equality, 2016)

LEARNING POINT 6: WHAT IS GENDER-RESPONSIVE BUDGETING?

GENDER RESPONSIVE BUDGETING

- is an approach designed to mainstream the gender dimension into all stages of the budget cycle;
- is the analysis of the impact of any form of public expenditure or method of raising revenues on women as compared to men;
- can take into account other categories of inequality such as age, religious or ethnic affiliation, or social disadvantages which can then be incorporated into gender responsive analyses;
- is not about whether an equal amount is spent on women and men, but whether the spending is adequate to women's and men's needs;
- comprises the drawing up of proposals designed to re-prioritise expenditures and revenues, taking into account the different needs and priorities of women and men;
- is NOT a separate budget for women but a budget that is planned, approved, executed, monitored and audited in a gender-sensitive way.

(Source: Manual for Training on Gender Responsive Budgeting, GTZ, 2006)

LEARNING POINT 7: TOOLS FOR GENDER-RESPONSIVE BUDGETING

TOOLS FOR GENDER-RESPONSIVE BUDGETING

According to the budget management system in a country a combination of the tools may be applied by different actors and at different stages in the budgetary process.

Stage: Preparation of the budget

1. **Gender-aware policy appraisals** help analyse policies and programmes funded through the budget from a gender perspective by asking in what ways policies and their associated resource allocations are likely to reduce or increase gender inequalities. A policy appraisal should start with a gender-sensitive situation analysis in the given sector. Instruments that can be applied are gender analysis, gender audits and gender impact assessments.
 - Are policies and programmes based on a gender-aware situation analysis and do they reflect women's and men's different needs and priorities?
2. **Gender-aware Medium-Term Economic Framework (MTEF)** incorporates gender variables into models on which medium-term public expenditure planning is based. This might be done by disaggregating variables that refer to people by sex (e.g. labour supply), thus incorporating differentiated roles of men and women in economic activity, or by including new variables to represent the unpaid care economy.
 - Are MTEFs based on macroeconomic models that incorporate sex-disaggregated variables and the care economy?

Stage: Monitoring and Evaluation

3. **Sex-disaggregated public expenditure benefit incidence analyses** aim at estimating the distribution of budget resources (or changes in resources) among males and females. By this means, the extent to which men and women, girls and boys benefit from expenditure on publicly-provided services can be analysed.

- Are women and men benefiting from expenditure for public services, e.g. education, health units or agricultural extension services, on equal terms?
4. **Gender-aware beneficiary assessments of public service delivery and budget priorities** are designed to collect and analyse the opinions of men and women on how far current forms of public service delivery meet their needs and how far current patterns of public expenditure accord with their priorities.
 - Do these public services address women's and men's different needs and priorities?
 5. **Gender-Aware Public Expenditure Tracking Surveys** seek to examine if funds that are earmarked in the budget for a special purpose reach the intended service units. Quantitative data including inputs, outputs, and other characteristics are collected on a sample survey basis directly from the service-providing unit (e.g. school, health station).
 - Do allocated funds reach female and male beneficiaries equally?
 6. **Sex-disaggregated analyses of the impact of the budget on time use** analyses the impact of government resource allocation and revenue raising patterns on the amount and the way that time is spent by women and men.
 - Do expenditure and revenue patterns have an impact of women's and men's time use?
 7. **Gender-aware budget statements** review the budget from a gender perspective and summarize its implications for gender equality with different indicators.

(Sources: Budlender, D., Sharp, R. and Allen, K.: How to Do a Gender-sensitive Budget Analysis: contemporary research and practice, Canberra: Australian Agency for International Development and London: Commonwealth Secretariat, 1998; Elson, D.: Gender Budget Initiative Tools, London: Commonwealth Secretariat, 1999)

LEARNING POINT 8: WHAT ARE SEX-DISAGGREGATED DATA AND GENDER SENSITIVE INDICATORS?

SEX-DISAGGREGATED DATA

The availability of sex-disaggregated data is fundamental for gender responsive budgeting. Without sufficient data a meaningful analysis is very difficult. For a country to have sex-disaggregated data, all data relating to individuals should be collected, presented and analysed in a sex-disaggregated manner.

GENDER SENSITIVE INDICATORS

An indicator is a statistical measurement that shows the change in a particular context over a given time of period (e.g. adult literacy rates in a country increased from 24% in 1970 to 38% in 2000). It differs from statistics because an indicator involves comparison to a norm rather than merely presenting facts.

A gender-sensitive indicator is therefore a measurement of gender-related change over time. Examples include:

- Percentage of seats held by women in national parliament
- Percentage of women in economic decision making positions (administrative, managerial, professional and technical)
- Ratio of girls to boys in primary school enrolment
- Employment/unemployment rate of women/men, urban/rural
- Percentage of female/male labour force in agriculture
- Female share (%) of paid employment in economic activities
- Percentage of poor households headed by women/men
- Percentage of women and men who have access to credit
- Percentage of property owned or accessible by women (land, houses, livestock), across income groups

(Source: Manual for Training on Gender Responsive Budgeting, GTZ, 2006)

GENDER SENSITIVE INDICATORS: EXAMPLES FOR AGRICULTURAL SECTOR

Sector	Gender issues	Gender sensitive indicators
Agriculture (Crops, Livestock, Fisheries)	Women contribute over 80% of the family labour, but majority do not own or control land.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of female and male farmers owning and controlling agricultural land
	Heavy work load also limits women's capacity to participate in agricultural production and marketing activities.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of female farmers using on and off farm labor saving technologies • Percentage of female farmers participating in agricultural marketing activities
	High cost of improved seed and other technologies makes majority of farmers, more women to use own saved seeds and low technologies which leads to low production.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of female and male farmers using improved seeds and technologies • Number and types of improved technologies adopted by female and male farmers
	Lower extension service delivery to women as compared to men.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of female and male extension workers who provide extension services. • Percentage of female and male farmers accessing extension services • Percentage of female and male farmers trained in modern agricultural technologies
	Majority of female farmers lack control over their farm income. So they cannot buy inputs, cannot re-invest to increase production and cannot improve their welfare.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of women controlling their farm income • Percentage of women and men using quality inputs • Percentage of female farmers re-investing their farm income
	Majority of female and male subsistence farmers lack business skills making them unable to produce sustainably for markets and with no value addition to their produce.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of men and women trained and practicing agri-business skills • Percentage age of female and male farmers adding value to their produce
	IDPs, refugees, returnees, ex-combatants, PWDs have limited access to agricultural inputs and extension services.	<ul style="list-style-type: none"> • Percentage of IDPs, refugees, returnees, ex-combatants, PWDs who get supports by agricultural inputs and extension services.

LEARNING POINT 9: WHAT IS GENDER-AWARE POLICY APPRAISAL?

FIVE STEP APPROACH

Gender-aware policy appraisal analyses policies and programmes funded through the budget from a gender perspective by asking if policies and their associated resource allocations are likely to reduce or increase gender inequalities. The South African Women's Budget Initiative has developed a five step approach for doing a gender aware policy appraisal which is a very useful methodology.

Step 1	Analysis of the situation of women and men in a given sector
Step 2	Assessment of the extent to which policies address the gendered situation
Step 3	Assessment as to whether budget allocations are adequate, in order to implement gender-responsive policies
Step 4	Assessment of short-term outputs of expenditure, in order to evaluate how resources are actually spent, and policies and programmes implemented
Step 5	Assessment of the long-term outcomes or impact expenditures might have

Gender aware policy appraisals can be carried out by the concerned line ministry, NGOs, research institutes or academics. The tool can be used for all sectors and at different levels. The tool provides a broad-brush picture which then needs to be followed up with more detailed analysis of identified issues.

(Source: manual for Training on Gender Responsive Budgeting, GTZ, 2006)

STEP 1: SITUATION ANALYSIS OF WOMEN AND MEN

Checklist for Gender Analysis

- ✓ What roles and responsibilities do men and women have?
- ✓ What resources do men and women have access to? Who controls access to these resources?
- ✓ Who has access to new technologies?
- ✓ How much do men and women participate in decision making? Which decisions do they make? What constrains further participation?
- ✓ How do women and men differ in the constraints they face, and how do these differences affect their work, productivity and access to benefit?
- ✓ What kind of needs do men and women have? How do they think it is best to meet those needs?

Example of Gender Analysis in the Environment and Forestry Sector

While degradation of the forest ecosystem has had an impact on communities in general, women have suffered more than their male counterparts. In traditional African households, women are usually the primary food providers for their families. Women fetch forest products such as fire wood, leafy vegetables, fruits, roots, and tubers. Despite their critical role in the management of natural resources, women have limited property rights that ensure their access to land and forests. Women have comparatively few employment opportunities in the collection, production, and sale of timber, wood, charcoal, and other forest products. This gender disparity in access to and utilization of natural resources from forests and elsewhere is a major contributor to the rising poverty among women.

(Source: South Sudan Agriculture Sector Investment Plan 2013)

STEP 2: ASSESSMENT OF GENDER-RESPONSIVENESS OF POLICY

Checklist for Gender responsive policy and programme

- ✓ Do the issues being addressed in the policy, programme, or service affect women specifically?
- ✓ If yes, which groups of women are affected, and how are they affected?
- ✓ Do you have sex disaggregated data on the issues (i.e. separate data for women and men)? What measures have been taken to increase the availability of sex disaggregated data?
- ✓ Does the proposed policy, programme, or service recognize differences in needs and priorities of women and men?
- ✓ Does the proposed policy, programme or service support gender equality and equity, taking into account the above mentioned needs and priorities of women and men?
- ✓ Who might not be included in this policy, programme, or service?
- ✓ Is there value in linking with other government departments or agencies on this issue or opportunity?
- ✓ How do you plan to communicate the policy, programme, or service in ways that respect and include diverse groups of women and men (e.g. socially vulnerable groups)?
- ✓ Will you monitor and evaluate the policy, programme or service against indicators which show the participation, impacts on and improved quality of life for women and men – as well as any unintended consequences for women and men?
- ✓ Will your monitoring and evaluation methods include the engagement of socially vulnerable groups?
- ✓ Have women and men equally been involved in the development of the policy at national and state levels?

STEP 3: ASSESSMENT OF GENDER-RESPONSIVE BUDGET ALLOCATION

Key points for Gender-responsive budget allocation

- Where the budget allocation does not match the gender equality policies, realignment is required.
- Where assessment reveals that budget resources have not been fairly distributed between women and men, restructuring the budget is necessary.

STEP 4: MONITORING OF SPENDING AND SERVICE DELIVERY

Key points for monitoring of spending and service delivery

- the degree to which the expenditure and services address the needs of women and men.
- the challenges and barriers faced by those who have not accessed services.

STEP 5: ASSESSMENT OF LONG TERM IMPACTS AND OUTCOMES

Key points for assessment of long term impacts and outcomes

- Did the changes in budget allocation results in better gender equality outcomes?
 - What adjustments need to be made to mainstream gender responsive budgeting into the current government system?
-

EXERCISE: GENDER-AWARE POLICY APPRAISAL

GROUP WORK BY MINISTRY

1. Please outline a situation analysis of women and men with regard to your sector at the ministry and identify the most important gender issues in the sector. What kind of sex-disaggregated data are available / missing at your ministry?

2. Please summarise the current intervention areas of the policy of your ministry. Are the planned activities/programmes in line with your findings (gender issues) in the situation analysis? What kind of gender-sensitive indicators does the policy have?

3. Are budget allocations in line with policy commitments on gender equality? (Use the copy of the budget book for FY2016-2017 for each ministry)

4. To make your budgets more gender-responsive, which alternative policy interventions and budget allocations would you propose for the next financial year? (Action Plan of your ministry)

Sub-sector	Gender issues	Policy actions / addressing the issues	Budget allocation

Data Collection Survey on Gender for the Republic of South Sudan

Evaluation for the 1st Workshop

At the end of the workshop, the participants were requested to answer the questionnaire to evaluate the level of their understanding and usefulness of each session. The results are shown below.

	Session	Average score	
		Understanding	Usefulness
1 st day	1) Overview of gender mainstreaming	4.5	4.8
	2) Presentation on gender mainstreaming by each ministry	3.9	4.4
2 nd day	3) Overview of gender-responsive planning and budgeting	4.4	4.3
	4) Practice on gender-responsive planning and budgeting	4.2	4.2
3 rd -4 th day	5) Experience on gender mainstreaming in Uganda	4.5	4.4
	6) Good practices and lessons learnt on gender-responsive programmes and projects	4.5	4.5

【Understanding】 5: Clearly understood, 4: Understood, 3: Almost understood, 2: Poorly understood, 1: Didn't understand

【Usefulness】 5: Very useful, 4: Useful, 3: Somewhat useful, 2: Very little useful, 1: Not useful

According to the average scores and their comments, the participants seemed to be highly satisfied with the programme. In particular, Session 1, 5 and 6 seemed to be understood very well by the participants, and Session 1 and 6 seemed to be very useful for them. On the other hand, Session 2 had the lowest score for understanding which may result from a lack of handout for the participants. The comments from participants are listed below.

- The workshop in general was very useful and we shared our experience among line ministry and from Uganda and JICA who are really help us.
- The workshop was consistent and well designed. The duration is also good so as to avoid boring.
- The workshop was well facilitated with a lot of practical issues discussed that enabled each ministry to realise the important issues on gender mainstreaming and responsive budgeting.
- I really benefited greatly since this is my first time to attend a workshop on gender mainstreaming. I am impressed and I would like to promote gender mainstreaming and integration.
- I appreciate JICA for training us in gender mainstreaming. This is going to me build on my personal development as well as improvement on what I will be doing in the Ministry.
- The training days were short and food in the hotel was very expensive compared to the allowance given to us. For supper and other things, we are women and have extra needs than men.
- Session 1, 3 and 4 were very useful. These will help me for effective delivery of services and practice and apply gender-responsive planning and budgeting.
- Practice on gender-responsive planning and budgeting was very useful. During the annual budgeting exercise project formulation, I will use both stakeholder analysis, gender analysis and sex disaggregated data to mainstream gender perspective in the policies programs and budgeting.

- Experience on gender mainstreaming in Uganda was very useful. How to apply it by the involvement of the higher leadership authority and the entire government to participate effectively and efficiently in gender issues in South Sudan.
- All sessions were useful. However, I need to have presentations from all ministries to learn from their experience. Practice on gender-responsive planning and budgeting will much be affected by barriers to gender mainstreaming and political will and lack of resources.
- Excellent facilitation providing the process and forum for discussion and debate – question and answer session and encouraging participants of all, only shortcoming in allowing some dominant people to talk much.
- The facilitator’s approach on participative methods was useful in encouraging discussions. It was very clear and effective in communication.
- Facilitation methods were well coordinated to stimulate learning and experience sharing.
- The workshop materials were well designed and easy to understand. Handouts were summarised and useful. We need soft copies to customise for our own training.
- The workshop material meet my expectation since I have future ambition in gender work. Especially the tools were so important. They were simple and easy to apply.

List of Participants for 2nd Workshop on Gender Mainstreaming

No.	Title	Name	Ministry	Position
1	Ms.	Regina Lullo Ossa	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Director General for Gender and Child Welfare
2	Mr.	Stephen Okwen Agwet	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	PRRC Manager
3	Mr.	Emmanuel Ladu Laku Lomin	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Acting Director for Planning
4	Ms.	Sawsan Omer Ismail	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Senior Inspector for Gender
5	Ms.	Emmanuela Nyoka Manash	State Ministry of Education, Gender and Social welfare	Deputy Director for Gender
6	Ms.	Loki Mary Benjamin	Ministry of Agriculture and Food Security	Director for Food Security and Nutrition
7	Mr.	Michaya Gamunde Nasona	Ministry of Agriculture and Food Security	Acting Director for Project Appraisal, M&E
8	Mr.	Emmanuel Samson Tongun	State Ministry of Agriculture and Forestry	Acting Director for Agriculture
9	Mr.	Augustino Atillio Macar	Ministry of Livestock and Fisheries	Director General for Planning
10	Ms.	Mary Sitina Yapete	Ministry of Livestock and Fisheries	Acting Deputy Director
11	Mr.	George Kamillo Lado	State Ministry of Agriculture and Forestry	Director General/Directorate of Animal resources
12	Mr.	Gideon Samuel Jubara	State Ministry of Agriculture and Forestry	Director General/Directorate of Forestry
13	Mr.	David Batali Oliver	Ministry of Environment and Forestry	Director General for Planning and Sustainable Development
14	Ms.	Cecilia Mogga Kenyi	Ministry of Environment and Forestry	Director for Compliance
15	Mr.	Arif Issa Bunduki	State Ministry of Health and Environment	Director General for Environment
16	Mr.	Albert Eluzai Moni	Ministry of Water Resources and Irrigation	Acting Director General for Water Supply and Sanitations
17	Mr.	Alberto Kandido Legge	Ministry of Water Resources and Irrigation	Director for Planning
18	Mr.	Gabriel Fonsiano Jada	State Ministry of Physical Infrastructure, Directorate of Water Resources	Director General for Water Resources
19	Ms.	Tomomi Uchikawa	JICA South Sudan Office	Senior Representative
20	Ms.	Etsuko Osumi	JICA South Sudan Office	Project Formulation Advisor
21	Ms.	Hiroto Kondo	JICA Head Quarters, Africa Division1, Africa Department	Assistant Director
22	Ms.	Riai Yamashita	JICA Consultant	JIN Corporation
23	Ms.	Misa Abiko	JICA Consultant	JIN Corporation
24	Ms.	Nagisa Ishikawa	JICA Consultant	JIN Corporation
25	Ms.	Jane Muhenda	JIN National Staff	JIN Corporation

Programme for 2nd Training Workshop on Gender Mainstreaming in the Agricultural Sector

Date	Time	Programme	Responsible person
11 June (Sun.)	13:20-14:40	Juba - Entebbe by Rwanda Air (WB435)	All participants
	17:00	Participants arrive in Kampala	JIN Corporation
	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation
	09:00-09:30	Self-introduction	All participants
	09:30-09:45	Welcome remarks	Representative of JICA
	09:45-10:00	Opening remarks	DG Gender, MGCSW
	10:00-10:15	Introduction to the workshop	JIN Corporation
	Session 1: Overview of gender mainstreaming and gender analysis		
	10:15-11:00	Basic concept of gender mainstreaming and gender analysis, and introduction to gender analysis tools	JIN Corporation
	11:00-11:15	Q&A and discussion	MGCSW
Day 1: 12 June (Mon.)	11:15-11:30	Tea break	
	Session 2: Practical tools for gender analysis		
	11:30-13:00	Practice on Daily Activity Profile	All participants
	13:00-13:40	Practice on Access and Control Profile	All participants
	13:40-14:40	Lunch	
	Session 3: Management tools for household economy		
	14:40-16:40	Practice on Household Economy (Food stock calendar)	All participants
	16:40-17:00	Wrap up of Day 1 and explanation of the field visit (Day 2-4)	MGCSW JIN Corporation
	08:00-08:40	Registration	JIN Corporation
	08:40-14:30	Move from Kampala to Gulu	
Day 2: 13 June (Tue.)	14:30-15:00	Hotel check-in	JIN Corporation
	Session 4: Introduction to NUFLIP		
	15:40-16:30	Overview of Northern Uganda Farmers' Livelihood Improvement Project (NUFLIP)	NUFLIP staff
	16:30-17:00	Q&A and discussion	NUFLIP staff
Day 3: 14 June (Wed.)	08:00-08:30	Registration	JIN Corporation
	Session 5: Field visit to NUFLIP		
	08:30-09:30	Move to Awach Sub-county	
	09:30-13:30	Observation of field training on gender and household economy (Cash management calendar) (Group 1)	NUFLIP staff All participants
	13:30-13:40	Move from Group 1 to Group 2	

	13:40-14:30	Observation of demonstration farm (Group 2)	NUFLIP staff All participants
	14:30-15:20	Move back to Gulu town	
Day 4: 15 June (Thu.)	08:45-09:20	Hotel check-out and registration	JIN Corporation
	09:20-09:30	Move from the hotel to NGO in Gulu town	All participants
		Session 6: Visit to NGO in Gulu	
	09:30-11:40	Visit to NGO (Terra Renaissance)	NGO staff All participants
	10:30-17:00	Move from Gulu to Kampala	
Day 5: 16 June (Fri.)	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation
	09:00-10:45	Wrap up of the filed visit (Day 2-4)	MGCSW
		Session 7: Gender-responsive Project Cycle Management (Participatory Planning)	
	10:45-11:10	Basic concept of Gender-responsive Project Cycle Management (Participatory Planning)	JIN Corporation
	11:10-11:30	Tea Break	
	11:30-12:30	Practice on Stakeholder Analysis	All participants
	12:30-13:45	Practice on Problem Analysis	All participants
	13:45-14:45	Lunch	
	14:55-17:00	Practice on Problem Analysis (cont.)	All participants
	Day 6: 17 June (Sat.)	08:30-09:00	Registration
09:00-11:30		Practice on Objective Analysis	All participants
11:30-11:45		Tea Break	
11:45-14:00		Practice on Project Design Matrix	All participants
14:00-15:00		Lunch	
		Session 8: Gender-responsive Project Cycle Management (M&E)	
15:00-16:20		Group Presentation	JIN Corporation
16:20-17:00		Basic concept of Gender-responsive Project Cycle Management (monitoring and evaluation)	All participants
Day 7: 18 June (Sun.)	08:30-09:00	Registration	JIN Corporation
		Session 9: Capacity Development Plan for National and State Ministries	
	09:00-11:00	Formulation of a capacity development plan	All participants
	11:00-11:45	Discussion on a coordination mechanism between the national and state ministries	All participants
	11:45-12:00	Tea Break	
	12:00-13:00	Summary of the workshop and planning of the next workshop	All participants
	13:00-13:30	Closing remarks	DG Gender, MGCSW
	13:30-14:30	Farewell lunch	
19 June (Mon.)	07:30-11:30-12:50	Participants leave Kampala Entebbe-Juba by Rwanda air (WB434)	All participants JIN Corporation

**Data Collection Survey on Gender
for the Republic of South Sudan**

**Handout for
The 2nd Workshop on
Gender Mainstreaming**

12-18 June 2017, Kampala & Gulu

**Japan International Cooperation Agency
JIN Corporation**

LEARNING POINT 1: WHAT IS GENDER ROLE ANALYSIS?

REPRODUCTIVE AND PRODUCTIVE ROLES OF WOMEN AND MEN

The Ministry of Gender, Child and Social Welfare (MGCSW), with the support of the Multi-Donor Trust Fund (MDTF), conducted the Comprehensive Country Gender Assessment in 2012 which assessed the socio-economic, political and legal context of South Sudan with regard to gender equality and the status of women. It covers six sectors such as education, health, agriculture, finance and economic empowerment, law, order and justice, and the peace building and recovery sectors. It conducted sampling surveys at five states such as Central Equatoria, Western Bahr el Ghazal, Northern Bahr el Ghazal, Upper Nile and Jonglei with 360 participants for focus group discussions.

The assessment indicates that women in the sampling areas are heavily involved in domestic chores including cooking and feeding the family, fetching water, looking after the elderly, collecting firewood, washing clothes and cleaning the house. At community level, women participate in clearing grass in the village, cleaning churches, burying the dead, cooking for communal gatherings and making alcohol for village events.

The various roles played by women and men are summarized in the table below. Although women engage in independent economic activities, their labor is frequently deployed to support their husbands in unpaid tasks.

Gender Roles at Household and Community Level

Category	Distribution of Roles		
	Reproductive Roles	Productive Roles	Community Roles
Men	<ul style="list-style-type: none"> •Heads of households •Marry and look after wives and children •Fathering children •Bread winners •Inheriting wives of deceased siblings 	<ul style="list-style-type: none"> •Cultivation of cash crops •Digging wells •Fishing •Hunting •Grazing cattle 	<ul style="list-style-type: none"> •Represent households at community meetings •Contribute money for community development purposes •Pay dowry for wife
Women	<ul style="list-style-type: none"> •Fetching water •Cooking •Building houses •Giving birth and raising children •Cut grass used in roofing 	<ul style="list-style-type: none"> •Cultivation of food crops and selling the surplus •Cattle rearing •Milking cows 	<ul style="list-style-type: none"> •Lead cultural rites in some cultures •Organize community gatherings but rarely participate •Collect roofing materials •Groom girls

(Source: Comprehensive Country Gender Assessment, MGCSW, 2012)

LEARNING POINT 2: WHAT IS DAILY ACTIVITY PROFILE?

It is an analysis of the different roles and responsibilities of women and men, boys and girls, based on a description of their daily tasks. The purpose is to differentiate these tasks according to gender.

EXERCISE 1: DAILY ACTIVITY PROFILE BY GENDER

1. Imagine a household in a particular location in South Sudan. Preferably, it should be a typical household in a rural community. It could be your home village.
2. List the main activities performed by women (girls) and men (boys), using all hours of the day (from the time they wake up until they go to bed). Prepare the time table below by writing words or drawing pictures.

Daily Activity Profile by gender

Women / Girls		Men / Boys	
Time	Activity	Time	Activity
5:00 am	Wake up, lighting fire to cook		
6:00 am	Fetching water, prepare breakfast	6:00 am	Wake up, feed livestock
7:00 am	Prepare children for school, take breakfast	7:00 am	Take breakfast
8:00 to 12:00 am	Work in the farm	8:00 to 12:00 am	Work in the farm
12:00 to 1:00 pm	Prepare lunch	12:00 to 1:00 pm	Rest
1:00 pm	Take lunch, wash utensils, clean compound	1:00 pm	Take lunch, rest
(To be continued)		(To be continued)	

Discussion Points:

- Are there any significant difference between the activities of women and men?
- What do you think about the workloads of women and men?
- What are the implications for project planning and implementation?

LEARNING POINT 3: WHAT IS ACCESS AND CONTROL PROFILE?

It is an analysis of whether women and men have access to and control over certain key resources such as land, property, money, credit, skills, technology, training and employment.

EXERCISE 2: ACCESS AND CONTROL PROFILE BY GENDER

1. Imagine a household in a particular location in South Sudan. Preferably, it should be a typical household in a rural community. It could be your home village.
2. List the specific resources in column and in each case, tick whether men or women have access to or control over them.

Access to and control over resources by gender

Resources	Who has access to it?		Who controls it?	
	Men	Women	Men	Women
Land	✓✓✓✓✓	✓✓✓	✓✓✓✓✓	✓
Labour				
Bicycles				
Motorcycles				
Farming tools				
Seeds				
Fertilizer				
Goats				
Chicken				
Cash				
(To be added)				

Note: Scale of 1 to 5 indicate low to high on access and control of resources.

Discussion Points:

- Are there any significant difference between access to and control over resources by women and men?
- What are the key barriers to women's access to and control over resources?
- What are the implications for project planning and implementation?

LEARNING POINT 4: WHAT IS DECISION MAKING ANALYSIS?

It is an analysis of to what extent women and men have the final decision making power on their daily activities. It shows who decides on what matters.

DECISION MAKING ANALYSIS

What kind of decision?	Who decides?	
	Men	Women
Purchase and sales of land	✓✓✓✓✓	✓
Purchase and sales of properties	✓✓✓✓✓	✓✓✓
Purchase of clothes	✓✓✓✓	✓✓✓✓✓
Purchase of food	✓✓✓	✓✓✓✓✓
Purchase of daily necessities	✓	✓✓✓✓✓
Education of children (school fees)	✓✓✓✓	✓✓✓
Health of children (medical fees)	✓✓✓✓	✓✓✓
Types of vegetable to be planted	✓✓✓✓✓	✓✓✓
Types of seeds to be planted	✓✓✓✓✓	✓✓✓
Types of pesticide to be used	✓✓✓✓✓	✓
Area of land to be used for each vegetable	✓✓✓✓✓	✓
Amount of vegetables to be sold	✓✓✓✓✓	✓✓✓
Place (person) to sell vegetables	✓✓✓✓✓	✓✓✓
Price of vegetables to be sold	✓✓✓✓✓	✓✓✓
How to spend money after vegetables are sold	✓✓✓✓✓	✓✓✓
(To be added)		

Note: Scale of 1 to 5 indicate low to high on decision-making power.

Annex 8

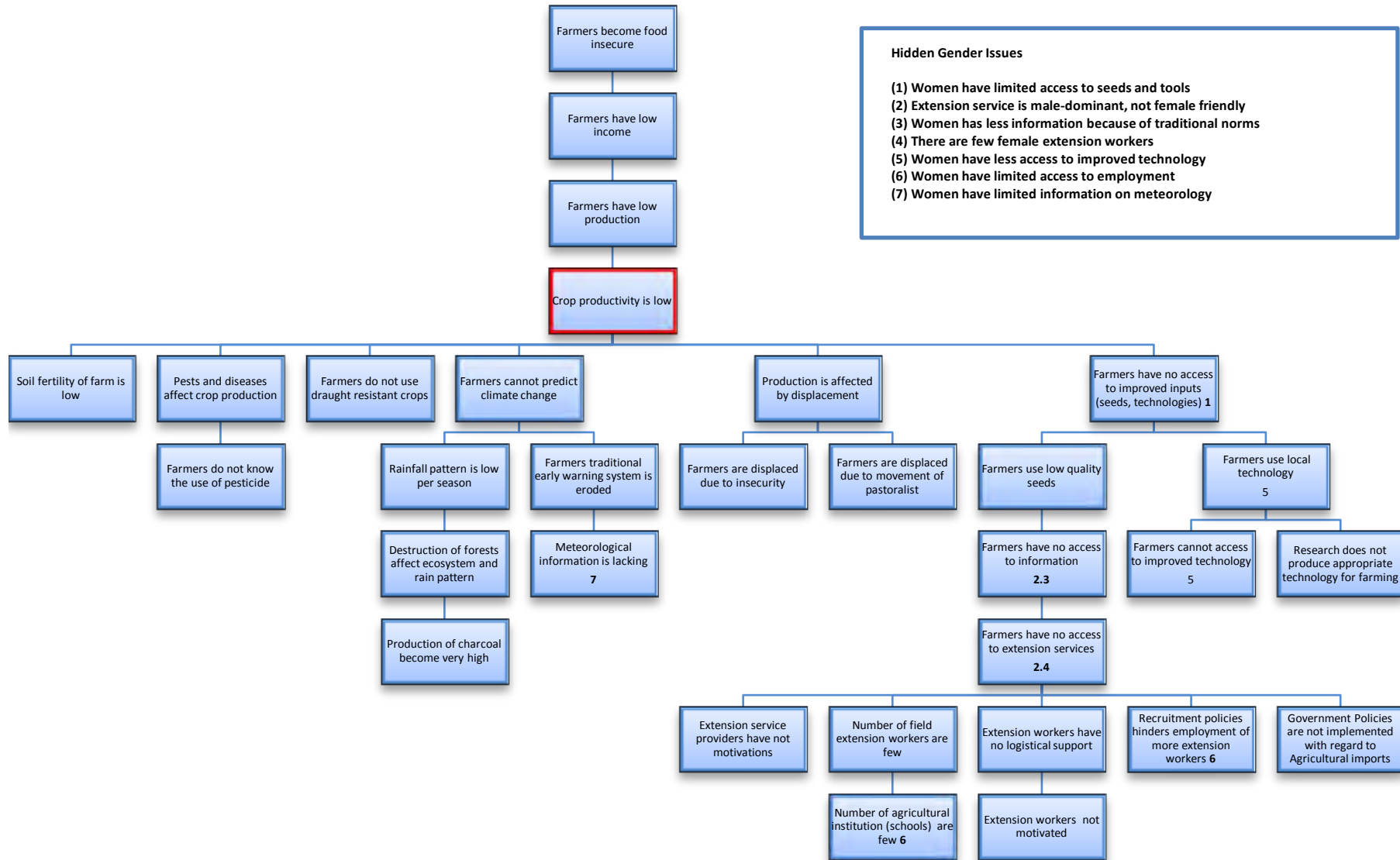
Group 1

Stakeholder Analysis

Beneficiaries	Implementing Agencies	Policy Makers	Funding Agencies	Collaborating Agencies	Negatively Affected People	Potential Opponents
Youth Groups	Farmer Groups	Ministry of Agriculture at all levels	ICRC	NGOs	Scarcity Village	Middlemen
Villagers	Directorate of Animal Resources & Fisheries (State)	Ministry of Agriculture	Local Credit Facilities	JICA	Farming Committees	Livestock Farmers
Farmer Groups	State Ministry of Agriculture & Forestry & Livestock/Fisheries	Local Authorities	Donors	UNIDO	Consumers	Individuals
Women Group Association	NGOs	Village Chiefs	FAO/UNIDO/WFP	GIZ		Buyers
Community Leaders	Extension Officer	Community Leaders	Local NGOs or CBOs	Women Group Association		
Vulnerable/Disabled people	Extension Worker	Local Government	INT. NGOs	Input dealer		
County Agriculture Department	Local NGOs	Think Tanks	JICA	Private Sector		
	Urban Groups	Parliamentaries	GIZ			

Detailed Analysis

Target group	Characteristics	Interest	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
Male Farmers	Subsistent & 0%	Food Security	Working in groups	Extended family	Access to Extension	Alcohol
	Commercial farmers 30%	Chicken Production	Access to resource	Idleness	Access to land and Resources	High level of drunkerndness
	Poor	Profit making	Group work	Conflict	Improved Technology	Cattle keepers
	Sustainability	Cash crops	Improved technology	Coming in during sales	Access to ash	Pests/diseases
	Goat rearing			Lack of inputs		Instability in County's situation
Female Farmers	Subsistent	Sustainability	Access to food security	High illiteracy	30% affirmative action	GBU
	Poor	Land ownership	Security at home provide	Limited access to land & access		Work load
		Vegetable growing		Lack of time		Market Access
				Work Load		

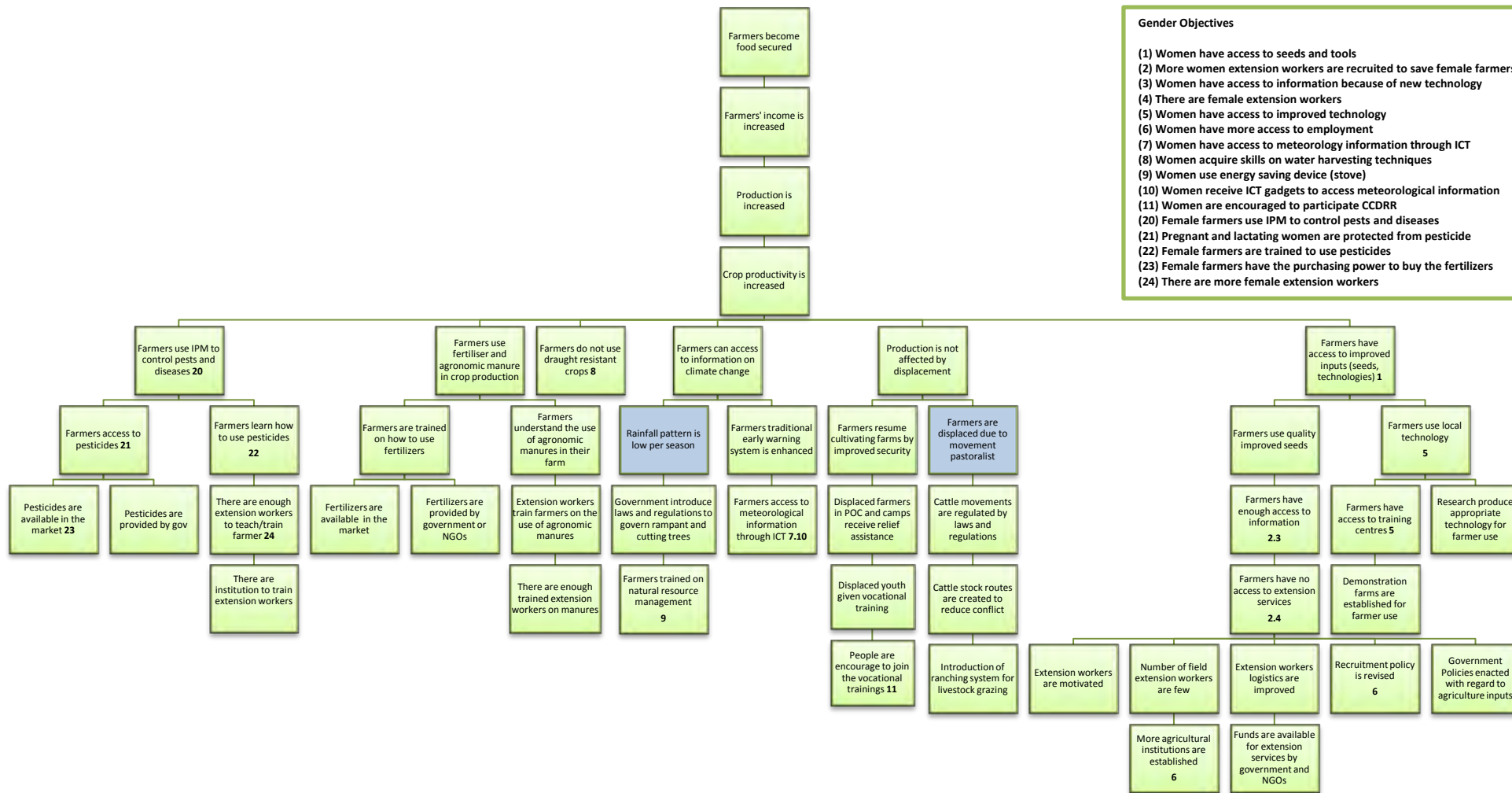


Hidden Gender Issues

- (1) Women have limited access to seeds and tools
- (2) Extension service is male-dominant, not female friendly
- (3) Women has less information because of traditional norms
- (4) There are few female extension workers
- (5) Women have less access to improved technology
- (6) Women have limited access to employment
- (7) Women have limited information on meteorology

Objective Analysis

- Gender Objectives**
- (1) Women have access to seeds and tools
 - (2) More women extension workers are recruited to save female farmers
 - (3) Women have access to information because of new technology
 - (4) There are female extension workers
 - (5) Women have access to improved technology
 - (6) Women have more access to employment
 - (7) Women have access to meteorology information through ICT
 - (8) Women acquire skills on water harvesting techniques
 - (9) Women use energy saving device (stove)
 - (10) Women receive ICT gadgets to access meteorological information
 - (11) Women are encouraged to participate CCDRR
 - (20) Female farmers use IPM to control pests and diseases
 - (21) Pregnant and lactating women are protected from pesticide
 - (22) Female farmers are trained to use pesticides
 - (23) Female farmers have the purchasing power to buy the fertilizers
 - (24) There are more female extension workers



Annex 8

Project Title: CROP PRODUCTIVITY IMPROVEMENT PROJECT

Version : PDM 0

Target Area: YEI RIVER COUNTY Target Group: Farmers Duration: 3 years

Date : 17th June 2017

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal			
Farmers will be sustainably food secured	X % of target farmer household are sustainably food secured	Baseline survey Post project evaluation	
Project Purpose			
Male and female farmers crop productivity increased	1. Increase of land acreage for the target groups (male and female) 2. % increase in crop yield for male and female	Crop yield assessment report	
Outputs			
1. Farmers are able to use improved technology	1.1 More than X% of ToT trained male and female extension workers demonstrate the use of improved technology	ToT workshop report	
2. Farmers used quality improved seeds	2.1 % of male and female farmers are able to use quality seeds (Skills and knowledge) 2.2 % of male and female farmers are able to use skills on seed selection and grading	Activity reports Activity reports	
3. Farmers use IPM to control pest and diseases	3.1 Level of change in knowledge, practices and behaviour of both male and female farmers 3.2 No of male and female who demonstrate proper use of IPM	KAP survey	
Activities	Inputs		
1.1 Need assessment survey conducted on the knowledge of ToT men & women			Favourable policy is there
1.2 Conduct ToT training for extension workers on new technology	< Japanese Side >	< South Sudan Side >	Inflation does not happen
1.3 The ToT trained male and female extension workers extend knowledge to farmers	Funds	Counterpart (Extension workers, human resource)	Stable security situation remains
2.1 Identification of farmers group (including both male and female)	Plant protection products	Material and equipment	Natural disasters will not happen
2.2 Conduct baseline survey on farmer's needs	2 experts	National consultant	Regular rainfall is there
2.3 Select and train extension workers both male and female on seed production	Purchase of agriculture inputs, farmers' training materials and protective gears	Field farmers training manual	
2.4 Training of farmers group on seed selection and field activities (Planting)			
2.5 Training of farmers on harvesting and seed grading			
2.6 Train farmers both male and female on seed storage and marketing			Pre-conditions
2.7 Monitor the implementation of the improved seeds activities			MoUs
3.1 Identification of common pest and diseases in project area			Implementation of CAMP, IDMP
3.2 Procurement of plant protection products			Government ready second staff
3.3 Both male and female extension workers are trained on the use of IPM			Political will
3.4 Both male and female farmers are trained on the use of pesticide and protective gears			
3.5 Sensitization of female farmers on the use of pesticide			

Annex 8

Group 2

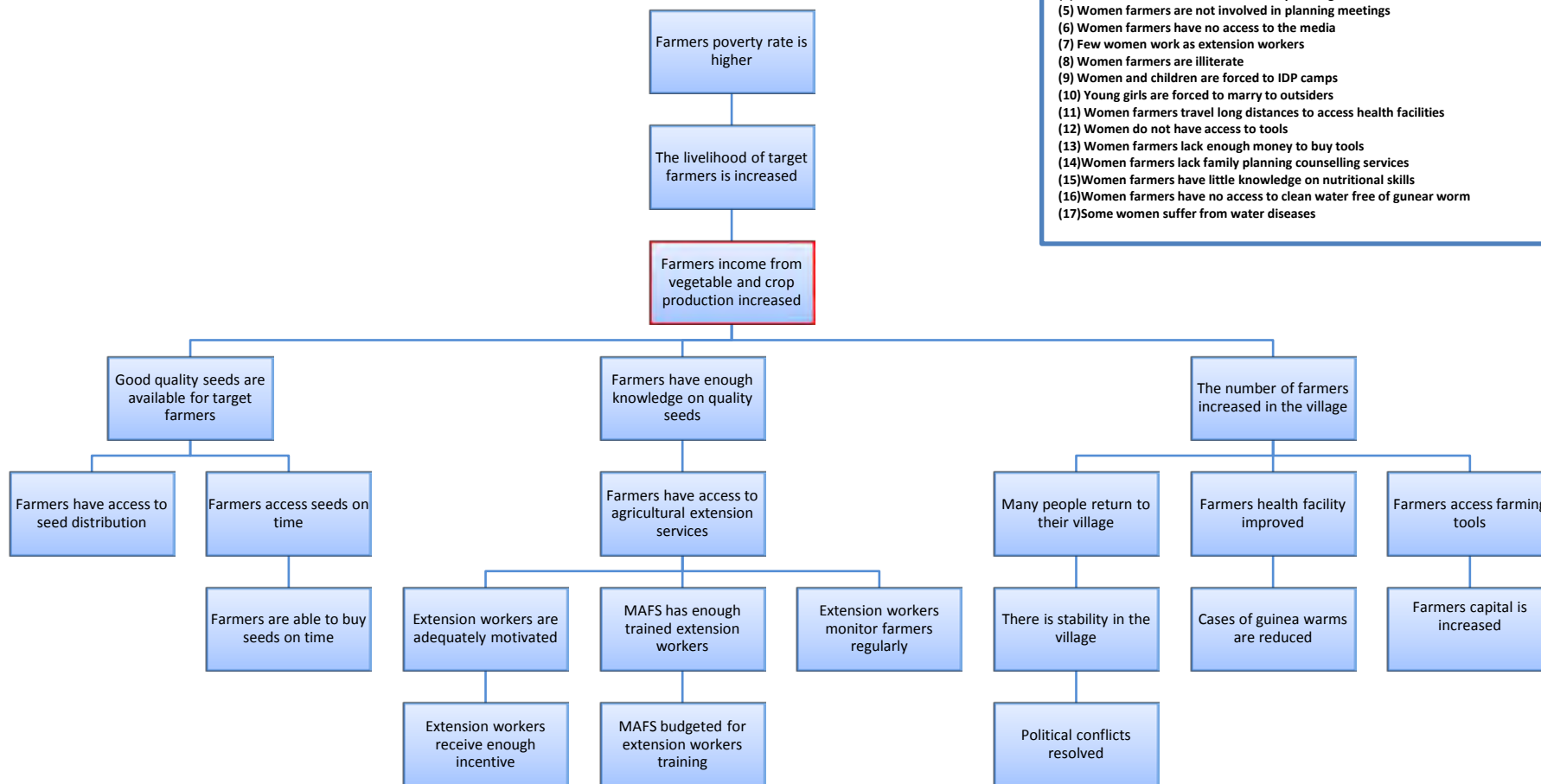
Stakeholder Analysis

Beneficiaries	Implementing Agencies	Policy Makers	Funding Agencies	Collaborating Agencies	Negatively Affected People	Potential Opponents
Farmers	Jubek State Ministry of Agriculture	Ministry of Agriculture and Food Security	ICRC	Farmer Association	Private Farmers of Vegetable	Charcoal Producers
Pestoralists	State Ministry of Infrastructure Directorate of Water	State Ministry of Agriculture and Forestry	Africa Bank	NGOs	Women Groups	Insecurity
Private Sector	NGOs	Ministry of Water Resource and Irrigation	Cooperative Societies	State Ministry of Agriculture and Forestry	Cattle Owner	Individual Farmers
Local Government	Faremrs	Ministry of Gender	Cooperative Bank	International Development Partners	Fishermen	Garden Thieves
Transporters	Ministry of Water Resource and Irrigation	Ministry of Environment and Forestry	JICA	Ministry of Health and Environment Iubek State	CBOs	Lazy Person
Marketers	CBOs		Government of South Sudan	Ministry of Water Resource and Irrigation	Ministry of Environment and Forestry	Pastoralists
Jabel Ladu Community	State Ministry of Health and Environment		FAO	Ministry of Trade		
Local Shop Keeper			GIZ	Women Association		
Village Development Committee						
Forest Growers						

Detailed Analysis

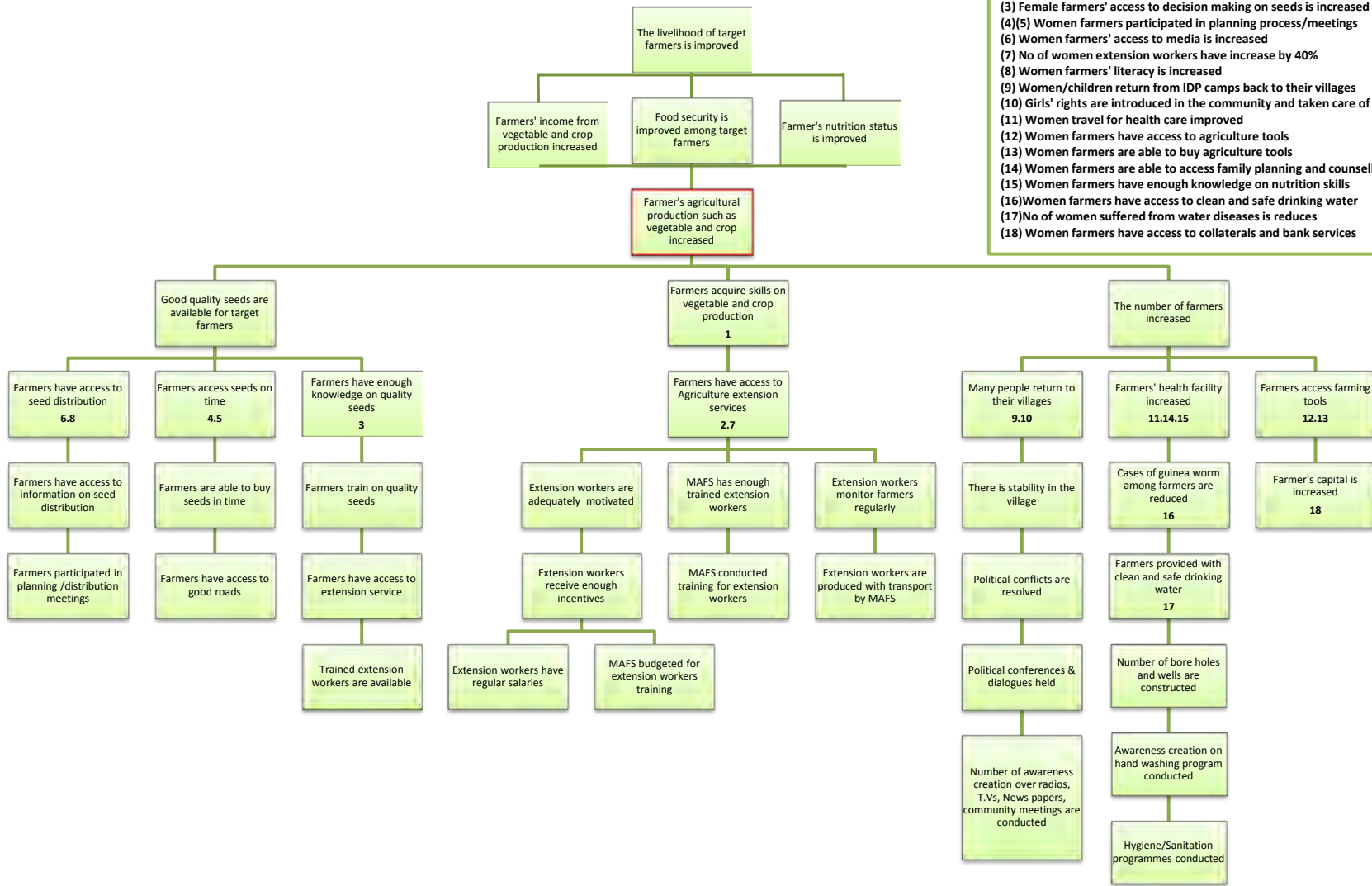
Target group	Characteristics	Interest	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
Male Farmers	Subsistence Farmer	Family Income Increase	Teamwork	High Illiteracy Rate	Loans available from banks for female	Gender Inequality
		Income Generating	Economic Empowerment	Lack of Skills	Empowered Woman with Skill	Climate Change
		Post Harvest Techniques	Land of Water	Women - HIV/AIDS	Supportive NGOs (present)	Inaccessibility of the Area in Rainy Season
		Food Security				Insecurity
		School Fees				Shortage of Water in Dry Season
Female Farmers	Subsistence Farmer	Income Generating	Land Availability (fertile)	Lack of Interest	Availability of Land	Lack of Local Market
		Able to spend money for social	Teamwork (cooperation)	Sick Men - HIV/AIDS		Pests and Diseases
		Vegetable growing				Lack of Plitical Will

- Hidden Gender Issues**
- (1) Female farmers lack agricultural skills
 - (2) Women time is taken up by unpaid labour which will not allow them to be trained
 - (3) Female farmers are not included in decision making on quality seeds
 - (4) Women farmers are not involved in planning
 - (5) Women farmers are not involved in planning meetings
 - (6) Women farmers have no access to the media
 - (7) Few women work as extension workers
 - (8) Women farmers are illiterate
 - (9) Women and children are forced to IDP camps
 - (10) Young girls are forced to marry to outsiders
 - (11) Women farmers travel long distances to access health facilities
 - (12) Women do not have access to tools
 - (13) Women farmers lack enough money to buy tools
 - (14) Women farmers lack family planning counselling services
 - (15) Women farmers have little knowledge on nutritional skills
 - (16) Women farmers have no access to clean water free of gunear worm
 - (17) Some women suffer from water diseases



Objective Analysis

- Gender Objectives**
- (1) Men & women farmers have access to agriculture skills equally
 - (2) Men and Women participate equally in unpaid labour
 - (3) Female farmers' access to decision making on seeds is increased
 - (4)(5) Women farmers participated in planning process/meetings
 - (6) Women farmers' access to media is increased
 - (7) No of women extension workers have increase by 40%
 - (8) Women farmers' literacy is increased
 - (9) Women/children return from IDP camps back to their villages
 - (10) Girls' rights are introduced in the community and taken care of
 - (11) Women travel for health care improved
 - (12) Women farmers have access to agriculture tools
 - (13) Women farmers are able to buy agriculture tools
 - (14) Women farmers are able to access family planning and counselling services
 - (15) Women farmers have enough knowledge on nutrition skills
 - (16) Women farmers have access to clean and safe drinking water
 - (17) No of women suffered from water diseases is reduces
 - (18) Women farmers have access to collaterals and bank services



Annex 8

Project Title: JABEL LADO LIVELIHOOD IMPROVEMENT PROJECT

Version : PDM 0

Target Area: JABEL LADO Target Group: Farmers Duration: 3 years

Date : 17th June 2017

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal			
Food Security is improved among target farmers	3 years malnutrition improved by 40% among target farmers' children	Household survey	
Farmer's income from crop and vegetable production is increased	Farmer's income increase by X dollars by the end of 3 years	FAO reports MAFS & State MoAF reports "Project report" Post evaluation report	
Project Purpose			
Farmers' Vegetable and crops production is increased	By end of project 50% of target farmers (men & women) are food secured	Project conduct HH survey on food security & HH economy for target farmers both women/men	Stability situation of the country
	By end of project farmer's (men & women) crop and vegetable production increase by 30%	Project conduct HH survey for the integrated farmers (men & women) on crop & vegetation production	
Outputs			
Farmers get knowledge & skills on crops and vegetation production	No of trainings conducted on crops & vegetable production	Training reports	Political will does not change to support farmers No extreme climatic conditions (floods draughts etc)
	70% of male & female farmers trained on crops & vegetable production		
Good quality seeds are available for target farmers	Increased production of crops & vegetable by 50%	Project reports- conduct HH production survey among targeted farmers (women/Men)	
	Increased quality seed products by target farmer for both women and men		
Activities			
Inputs			
1.1 Conduct baseline survey including gender analysis for target farmers	Consult extension workers Consultant. Fees extension workers salaries	Trained extension workers stay on their jobs Lower turn over among extension workers Donors continue support in project life time	
1.2 Hold stakeholders meetings on the result of B/S	Seeds for male & female Agricultural tools & equipment i.e. hoes, harvesters etc		
1.3 Planning for training for extension officers and farmers	Bicycles for both men & women extension workers Transport facilities such as vehicles to transport seed etc.		
1.4 Identification of inputs (Preparation training)	Money (capital) for salaries & rental hire of facilities		
1.5 Train extension officer for both male & female	Seeds, fertilizers and pesticides		
1.6 Establish demonstration plots for both male & female			
1.7 Select farmers for training to include women & men equally			
1.8 Train both female & male farmers on group & vegetable products			
1.9 Procurement of agriculture inputs tools, seeds etc.			
1.10 Distribution of tools/seeds for both male & female			
1.11 Monitoring & evaluation of the trained farmers including gender perspective			
Pre-conditions			
2.1 Conduct gender sensitive baseline survey for target farmers		Agreement documents from land owners farmers or demonstration farmers Issue permit letters to conduct base line survey from payam outlocalities	
2.2 Conduct stakeholders meetings to review baseline survey reports, with gender disaggregated data		Memorandum of understanding with the government and farmers	
2.3 Plan training for men/women farmers on seeds production & selection		Targeted farmers (men & women) are willing to participate in project	
2.4 Preparation for training of farmers on good quality seeds			
2.5 Selection of farmers men/women for training on seeds production & grading			
2.6 Training farmers men/women on seeds production & selection			
2.7 Procure quality seeds for distribution to men/women farmers			
2.8 Distribution of good seeds for men/women farmers			
2.9 Monitoring & evaluation of farmers from gender perspective			

Data Collection Survey on Gender for the Republic of South Sudan

Evaluation for the 2nd Workshop

At the end of the workshop, the participants were requested to answer the questionnaire to evaluate the level of their understanding and usefulness of each session. The results are shown below.

	Session	Average score	
		Understanding	Usefulness
1st day	1) Overview of gender mainstreaming and gender analysis	4.6	4.7
	2) Practical tools for gender analysis	4.7	4.6
2nd day	3) Management tools for household economy	4.7	4.6
	4) Introduction to NUFLIP	4.7	4.4
3rd day	5) Field visit to NUFLIP	4.8	4.6
4th day	6) Visit to NGO in Gulu (Terra Renaissance)	4.8	4.6
5th - 6th day	7) Gender-responsive Project Cycle Management (Participatory Planning)	4.4	4.7
	8) Gender-responsive Project Cycle Management (Monitoring and Evaluation)	4.4	4.4
7th day	9) Capacity Development Plan and Coordination Mechanism between for National and State Ministries	4.6	4.5

【Understanding】 5: Clearly understood, 4: Understood, 3: Almost understood, 2: Poorly understood, 1: Didn't understand

【Usefulness】 5: Very useful, 4: Useful, 3: Somewhat useful, 2: Very little useful, 1: Not useful

According to the average scores and their comments, the participants seemed to be highly satisfied with the programme. In particular, Session 5 and 6 seemed to be understood very well by the participants and to be very useful for them. Whereas the average score of usefulness of session 7 was high, the average score of understanding was low. This might be because the session 7 had time constraint and the participants needed more time to discuss and practice each analysis. The comments from participants are listed below.

- The workshop in general was very useful and we shared our experience among line ministry and from Uganda and JICA who are really help us.
- The workshop was consistent and well designed. The duration is also good so as to avoid boring.
- The workshop was well facilitated with a lot of practical issues discussed that enabled each ministry to realise the important issues on gender mainstreaming and responsive budgeting.
- I really benefited greatly since this is my first time to attend a workshop on gender mainstreaming. I am impressed and I would like to promote gender mainstreaming and integration.
- I appreciate JICA for training us in gender mainstreaming. This is going to me build on my personal development as well as improvement on what I will be doing in the Ministry.
- The training days were short and food in the hotel was very expensive compared to the allowance given to us. For supper and other things, we are women and have extra needs than men.

- Session 1, 3 and 4 were very useful. These will help me for effective delivery of services and practice and apply gender-responsive planning and budgeting.
- Practice on gender-responsive planning and budgeting was very useful. During the annual budgeting exercise project formulation, I will use both stakeholder analysis, gender analysis and sex disaggregated data to mainstream gender perspective in the policies programs and budgeting.
- Experience on gender mainstreaming in Uganda was very useful. How to apply it by the involvement of the higher leadership authority and the entire government to participate effectively and efficiently in gender issues in South Sudan.
- All sessions were useful. However, I need to have presentations from all ministries to learn from their experience. Practice on gender-responsive planning and budgeting will much be affected by barriers to gender mainstreaming and political will and lack of resources.
- Excellent facilitation providing the process and forum for discussion and debate – question and answer session and encouraging participants of all, only shortcoming in allowing some dominant people to talk much.
- The facilitator’s approach on participative methods was useful in encouraging discussions. It was very clear and effective in communication.
- Facilitation methods were well coordinated to stimulate learning and experience sharing.
- The workshop materials were well designed and easy to understand. Handouts were summarised and useful. We need soft copies to customise for our own training.
- The workshop materials meet my expectation since I have future ambition in gender work. Especially the tools were so important. They were simple and easy to apply.

No.	Title	Name	Ministry	Position	Group for Discussion	Group for Field Visit
South Sudan						
1	Ms	Regina Lullo Ossa	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Director General for Gender and Child Welfare	1	A - 1
2	Mr.	Emmanuel Ladu Laku Lomin	Ministry of Gender, Child and Social Welfare	Acting Director for Planning	1	B - 2
3	Ms	Loki Mary Benjamin	Ministry of Agriculture and Food Security	Director for Food Security and Nutrition	2	A - 3
4	Mr.	Michaya Gamunde Nasona	Ministry of Agriculture and Food Security	Acting Director for Project Appraisal, M&E	2	B - 1
5	Ms	Cecilia Mogga Kenyi	Ministry of Environment and Forestry	Director for Compliance	2	B - 2
6	Ms	Mary Akech Milla	Ministry of Trade and Industry	Director General for Private Economic Sector	3	A - 2
7	Mr.	Gabriel Narege	South Sudan Aids Commission	Director for Prevention	5	A - 4
8	Ms	Maria Gideon Gakmar	South Sudan War Disabled, Widows and Orphans Commission	Deputy Director for War Widows	6	B - 1
9	Ms	Jane Gordon Sworo	South Sudan Entrepreneurship Association	Executive Director	4	A - 1
Rwanda						
10	Mr.	Jean Bosco Murangira	Ministry of Gender and Family Promotion	Director for Women's Economic Empowerment Unit	1	A - 2
11	Ms	Katese Odile Gakire	Ingoma Nshya Women Initiatives	Director	6	B - 1
12	Ms	Ancilla Nibigira	Rwanda Women's Network (RWN)	Program Officer	5	A - 1
13	Ms	Immy Kamarade	Rwanda Chamber of Women Entrepreneurs (RCWE) / Dallas Investments	Former President / Managing Director	4	A - 4
14	Mr.	Etienne Kalisa	AVEGA AGAHOZO	Executive Secretary	6	B - 2
Kenya						
15	Ms	Rhoda Khevali MISIKO	Ministry of Public Service, Youth and Gender Affairs	Assistant Director Gender, State Department of Gender Affairs	1	B - 1
16	Ms	Frida OWINGA	Organisation of Women in International Trade (OWIT) Nairobi Chapter	Chairperson	4	A - 3
Uganda						
17	Ms	Annet Kabarungi	Ministry of Gender, Labour and Social Development	Senior Gender Officer	1	B - 1
18	Ms	Daisy Eresu	Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries	Senior Agricultural Officer, Gender Focal Person	2	B - 2
19	Ms	Robinah Nantege	Ministry of Water and Environment	ENR Gender Co-ordinator	2	B - 1
20	Ms	Margaret Kakande	Ministry of Finance, Planning and Economic Development	Head of Budgeting, Monitoring and accountability, Gender Focal Person	3	A - 3
21	Ms	Florence Alarango	Ministry of East African Community Affairs	Principal Gender Officer	3	B - 2
22	Ms	Joan Natwenda	Ministry of Trade, Industry and Cooperatives	Assistant Commissioner Human Resource Management, Gender Focal Person	3	A - 4
23	Ms	Constance Kekihembo	Uganda Women Entrepreneurs Association Limited (UWEAL)	Chief Executive Officer	4	A - 2
24	Ms	Goretti Z Amuriat	Women of Uganda Network	Programme Manager Gender ICT Advocacy	5	A - 2
25	Ms	Phoebe Aringo	Bead for Life	Partnership's Program Coordinator	5	A - 3
26	Ms	Dovocchah Navubya	Reach Out Mbuya	Manager Community Support	6	A - 4
27	Ms	Irene Namagamba	Engage Action for Safe Environment	Director	5	B - 2
28	Mr.	Tugume Barnabas	Women Investment Club SACCO	Manager	4	A - 1

Annex 10

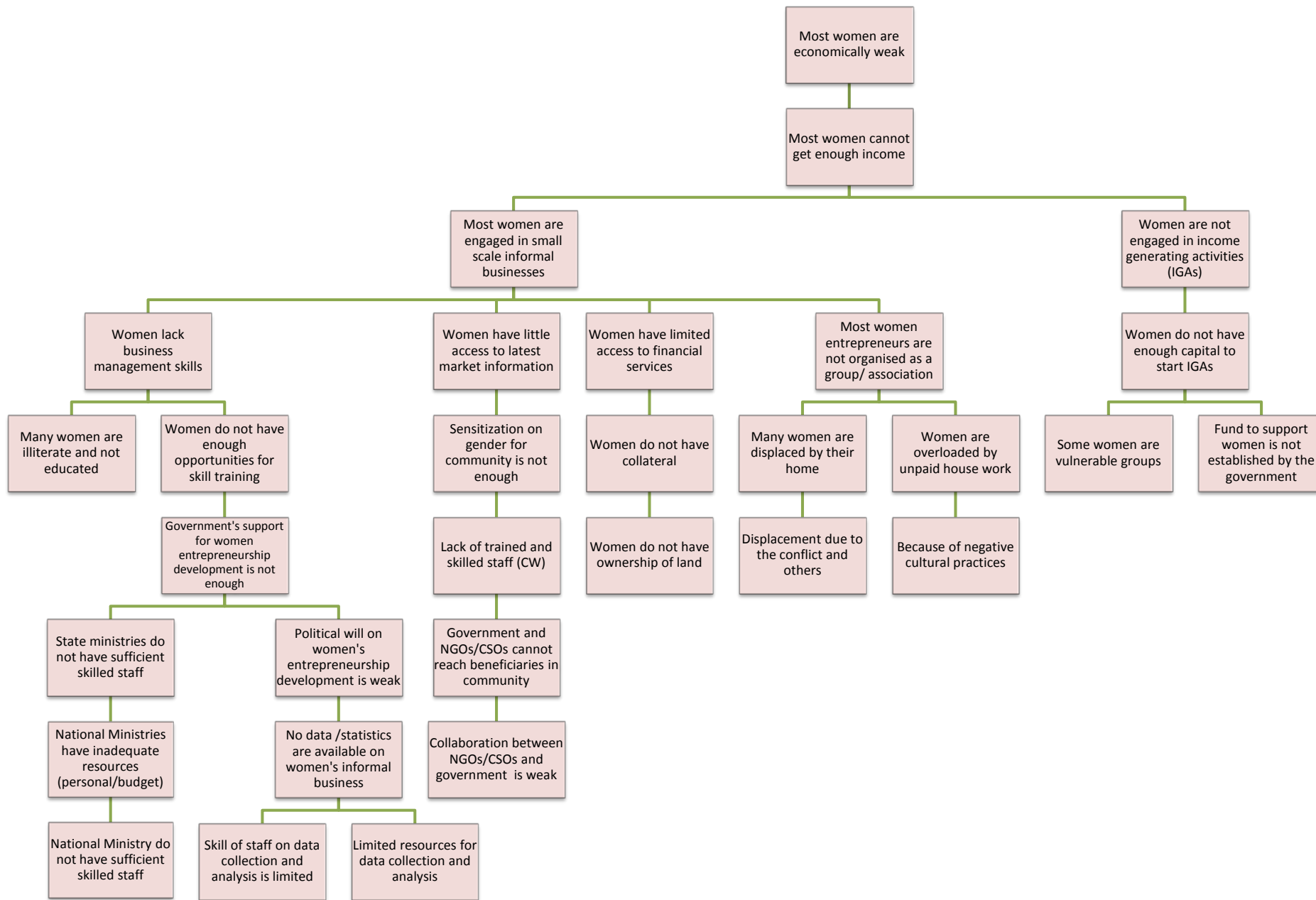
List of Participants for 3rd Workshop on Gender Mainstreaming

No.	Title	Name	Ministry	Position	Group for Discussion	Group for Field Visit
29	Mr./Ms.	Kyosuke Kawazumi / Tomomi Uchikawa	JICA South Sudan Office	Chief Representative / Senior Representative		
30	Ms	Kumiko Yoshidomi	JICA South Sudan Office	Project Formulation Advisor		
31	Mr.	James Komakec	JICA South Sudan Office	Program Officer		
32	Ms	Riai Yamashita	JICA Consultant	JIN Corporation		
33	Ms	Misa Abiko	JICA Consultant	JIN Corporation		
34	Ms	Jane Muhenda	JIN National Staff	JIN Corporation		

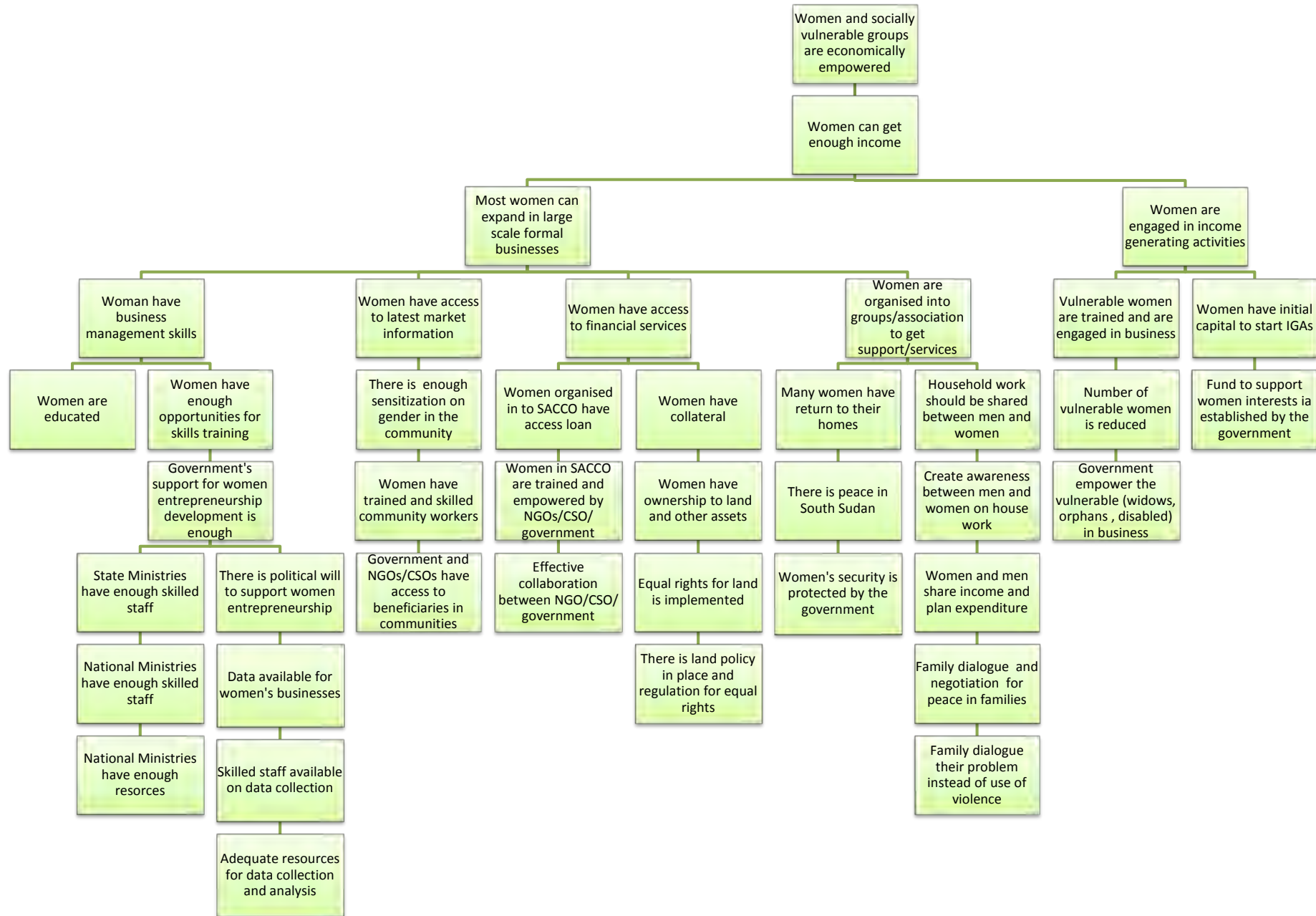
Programme for 3rd Workshop on the Economic Empowerment of Women and Socially Vulnerable People in East Africa

Date	Time	Programme	Responsible person	
6 Aug. (Sun.)		Participants arrive in Entebbe International Airport Participants arrive in Kampala	Participants from South Sudan, Kenya and Rwanda	
	08:30-09:05	Registration	JIN Corporation	
	09:05-10:05	Self-introduction	All participants	
	10:05-10:10	Welcome remarks	Representative of JICA	
	10:10-10:20	Opening remarks	DG Gender, MGCSW	
	10:20-10:35	Introduction to the workshop	JIN Corporation	
Session 1: Overview of economic empowerment of women and socially vulnerable people				
Day 1: 7 Aug. (Mon.)	10:35-11:15	Basic concept of economic empowerment of women and socially vulnerable people	JIN Corporation MGCSW	
	11:15-11:40	Q&A and discussion	MGCSW	
	11:40-12:00	Tea break		
	Session 2: Current situations, issues, achievements and challenges for the economic empowerment of women and socially vulnerable people in East Africa			
	12:00-13:40	Group discussion	All participants	
	13:40-15:00	Lunch		
	15:00-17:15	Group Presentation	All participants	
	17:15-17:30	Wrap up of Day 1	MGCSW	
		Explanation of the field visit of Day 2	JIN Corporation	
Day 2: 8 Aug (Tue.)	08:00-08:30	Registration	JIN Corporation	
	Session 3: Field visit to local NGOs			
	08:30-09:00	Move from the hotel to NGO in Kampala	All participants	
	09:00-11:30	Explanation on NGO's activities and field visit to the community (Group A: Bead for Life) (Group B: Engage Action for Safe Environment)	NGO staff All participants	
	11:30-12:00	Back to the hotel	All participants	
	12:00-13:30	Lunch		
	13:30-14:00	Move from the hotel to NGO in Kampala	All participants	
	14:00-17:00	Explanation on NGO's activities and field visit to the community (All groups: Reach Out Mbuya)	NGO staff All participants	
	17:00-18:00	Back to the hotel		
	08:30-09:10	Registration	JIN Corporation	

	Session 4: Summary of the field visit		
	09:10-12:00	Group discussion and presentation on good practices and lessons learnt from the field visit	All participants
	12:00-12:20	Tea break	
	12:20-13:50	Presentation by NGOs/CSOs on good practices on the economic empowerment of women and socially vulnerable people in East Africa	Participants from NGOs/CBOs
Day 3: 9 Aug. (Wed.)	13:50-14:50	Lunch	
	14:50-16:45	(Continued) Presentation by NGOs/CSOs on good practices on the economic empowerment of women and socially vulnerable people in East Africa	Participants from NGOs/CBOs
	Session 5: Priority areas for the capacity development of the government and NGOs/CSOs		
	16:45-17:15	Discussion and presentation on the priority areas for the capacity development on the economic empowerment of women and socially vulnerable people	JIN Corporation All participants
	17:15-17:30	Wrap up of Day 3	MGCSW
	08:30-09:10	Registration	JIN Corporation
	Session 6: A framework for future cooperation between MGCSW and JICA		
	09:10-11:15	Formulation of a future cooperation plan	All participants
	11:15-11:30	Tea Break	
Day 4: 10 Aug. (Thu.)	11:30-11:30	(Continued) Formulation of a future cooperation plan	All participants
	11:30-13:55	Summary of the workshop	All participants
	13:55-14:00	Closing remarks	DG Gender, MGCSW
	14:00-15:00	Farewell lunch	
10-11 Aug. (Thu.- Fri.)		Participants leave Kampala Participants leave Entebbe International Airport	Participants from Kenya and Rwanda (10 Aug), South Sudan (11 Aug)



Objective Analysis



Data Collection Survey on Gender for the Republic of South Sudan

Evaluation for the 3rd Workshop

At the end of the workshop, the participants were requested to answer the questionnaire to evaluate the level of their understanding and usefulness of each session. The results are shown below.

	Session	Average score	
		Understanding	Usefulness
1st day	1) Overview of economic empowerment of women and socially vulnerable people	4.7	4.7
	2) Current situation, issues, achievements and challenges for the economic empowerment of women and socially vulnerable people in East Africa	4.5	4.4
2nd day	3) Field visit to local NGOs	4.7	4.7
3rd day	4) Summary of the field visit	4.6	4.6
	5) Priority areas for the capacity development of the government and NGOs/CSOs	4.3	4.5
4th day	6) A framework for future cooperation between MGCSW and JICA	4.8	4.9

[Understanding] 5: Clearly understood, 4: Understood, 3: Almost understood, 2: Poorly understood, 1: Didn't understand

[Usefulness] 5: Very useful, 4: Useful, 3: Somewhat useful, 2: Very little useful, 1: Not useful

According to the average scores and their comments, the participants seemed to be highly satisfied with the programme. In particular, Session 1 and 3 seemed to be understood very well by the participants and to be very useful for them. In addition, Session 6 is very useful for the participants from South Sudan. The average score of Session 5 of understanding was low. This might be because the time for session 5 was limited and the participants only shared their ideas. The comments from participants are listed below.

- The workshop had been very interactive and educative, and has brought in brilliant idea from the regional countries. I will implement them back home for better life.
- I do appreciate the efforts that JICA is doing to improve the livelihood of millions in South Sudan through the training on Gender and related issues.
- Such workshop are powerful, it can change some of our organization program to benefit our women.
- Next cooperation training workshop should include more specific topic such as marketing etc.
- This workshop was very informative because it focuses on practical experience and good practice and success stories of others. I hope this collaboration and cooperation with JICA will continue for much deeper cooperation.
- The workshop had been very interactive and educative, and has brought in brilliant idea from the regional countries. I will implement them back home for better life.
- All the sessions are useful. I will apply through my department in collaboration with our state ministry of agriculture who are the implementer of activities.

- It was a great workshop from the planning to every part of execution. The mix of the participants was very well-thought-of. I am glad I attended. It was very informative.
- Field visit to the local NGOs of Engage Action for safe environment—Their system of mobilization was very good. The offer for voluntary work was to show the love for their environment. The plan for waste management to mitigate the impact of hygiene was very good.
- I enjoyed hearing what each organisation is doing. I am proud of what every individual and organisation is doing to support women and socially vulnerable people.
- A framework for future cooperation between MGCSW and JICA is the most useful session because it has made us able to plan and put our heads together for the future cooperation.
- The facilitator is excellent. We understood all that she taught.
- Facilitators were very informed and supportive.
- The workshop material was well detailed and implementable.
- Materials were useful and user-friendly.
- The logistic arrangement had been perfect and well planned
- Somehow good, good hotel and good service, but time management was poor. There is no time for the participants to visit Kampala. No flexibility – organizers should hear also participant's wishes.